

第一條 準備收支金穀傳票ノ順序ヲ經ルコト常ノ如クニシテ其現物出納ハ即出納寮ニ於テス

第二條 準備へ收入スル所ノ金穀ハ主任ノ各寮局ヨリ國債寮ニ可納ノ旨ヲ指示シ尋テ之ヲ同寮ニ納ムレハ更ニ同寮ヨリ傳票ノ順序ヲナシ出納寮ニ送致スヘシ

第三條 收入金等ノ内賈金銀品位未定地金類ハ價格ヲ表セス唯其種類ト其員數量目ヲ以テ傳票ニ付スヘシ賈札ハ直ニ紙幣寮ニ納メ燒却ニ付スヘシ

第四條 準備支出ノ金穀ハ主任各寮局ヨリ郵輔檢印ノ議冊ヲ國債寮へ送付シ同寮ニ記帳シ檢査寮ヲ經テ傳票課ニ達シ定例ノ手續ヲナシ出納寮ニテ現物渡方ヲナスヘシ

第五條 第三類準備中收入ノ鑛山ヨリ輸納並買得タル所ノ地金銀銅ノ類ハ時價ヲ以テ其價格ヲ定メ量目ヲ本行ニ掲ケ其時價ヲ腹書スルヲ規則トス

第六條 造幣寮へ遞送スル地金銀銅類ハ其量目ニ腹書シタル價格ヲ再ヒ此拂傳票ニ議シ後日利益表ヲ作ル參酌ニ供スヘシ

第七條 墨銀並外國各種ノ貨幣ヲ買賣交換スルニ方リテハ其時ノ相場ヲ以テ價格ヲ定メ墨銀等ヲ本行ニ載セ通貨ヲ腹書スヘシ

第八條 毎月五日表ヲ製シ郵輔ノ目前ニ於テ出納頭、國債頭、記錄頭、傳票課立會前月表ニ照合シ毫差ナカラシムルハ常例ノ如クナルヘシ

明治八年七月三日從來準備金ノ收支ニ屬セル工部省所管電信鐵道鑛山鐵山製作所三池炭山等ノ收益及費額ハ同年七月一日ヨリ常用金ノ處辨ト爲セリ蓋シ其支出額大ニ收入額ニ超過シ準備金増殖ノ原則ニ適ハサルヲ以テナリ是ニ於テ左ノ項目ハ準備金ノ收支ヨリ除却セラレタリ

收入之部

- 一 電信料
- 一 鑛山所得ノ金銀銅ノ類
- 一 三池炭山收入金並ニ長崎神戶深川製作所活字所共收入金
- 一 橫濱神戶汽車賃

支出之部

- 一 鐵道寮定額
- 一 汽車運轉費
- 一 電信寮定額
- 一 鑛山本寮出張所トモ定額
- 一 鐵山開鑛費
- 一 製作寮定額
- 一 三池炭山入費

右ノ如ク工部省所管ニ係ル收支準備金中ヨリ削除セラレタルヲ以テ彙ニ制定ノ準備金計算規則及同傳票規則中改正削除ヲ加フルノ必要アリ八月八日左ノ如ク改正ヲ施セリ

準備金計算規則中改正

- 第八條中「及鐵道汽車ノ費用ニ供セシ」ノ文字削除
- 第九條中「橫濱神戶汽車賃」ノ文字削除
- 第十條中「鐵道寮定額、汽車賃」ノ文字削除
- 第十二條 削除
- 第十三條中内國新舊公債ノ次「並外國舊公債」ノ文字ヲ加ヘ又還納金ノ次ニ「舊藩人民外債」ノ文字ヲ加フ
- 第十五條 削除
- 第十八條中買上公債證書並利息金トアルノ「買上諸公債證書賦金又ハ抽籤ニテ返償スル元金並

利益金ニ駐賻金ノ内買金ノ分トアルヲ「駐賻金ノ分」ト改メ「電信料、嶺山所得ノ金銀銅ノ類、三池炭山收入金並長崎神戶製作所沼字所共收入金ノ文字ヲ削除ス

第十九條中「電信案定額、嶺山本案出張所共定額、嶺山開鑿費、製作案定額、三池炭山入費」ノ文字ヲ削除ス

第二十條中端月ハノ下「三十日ノ割ヲ日分ニ」トアルヲ「日割ヲ以テ」ノ文字ニ改ム

準備金傳票規則中改正

第三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但買納及諸返納等事故アリ價位ヲ以テ收入スルトキハ其種類ヲ本行ニ揚元價ヲ腹書シ傳票ニ付スヘシ買札ハ枚數ヲ本行ニ揚ケ元價ヲ腹書シ一旦收入ノ上紙幣寮へ同シ燒却ニ付スヘシ

明治八年八月二十四日準備金第二類第三類貸借流用ヲ爲スヲ得ルコト、シ同年十二月十四日諸縣ニ於テ買上クル際備米代價ハ準備金中ヨリ支出スルコト、爲セリ斯クテ明治九年五月一日ニ至リ準備金ノ出納科目ヲ改定シ同年七月一日ヨリ施行スルコト、セリ

第一準備支出科目

出納科目	大科	小科
紙幣支消	同上	

第一準備收入科目

出納科目	大科	小科
第三準備金繰入金	同上	

第二準備支出科目

出納科目	大科	小科	外國舊債償還	元金	利息
			外國新債償還	元金	利息
外國債償還	外國新債償還	元金	利息	利息	利息
			外國舊債償還	元金	利息
內國諸公債償還	內國舊公債償還	元金	利息	利息	利息
			內國新公債償還	元金	利息
鐵道賣拂代先收利子	同	上	利息	利息	利息
			利息	利息	利息
舊貸金棄捐	同	上	利息	利息	利息
			利息	利息	利息
第二準備收入科目	大科	小科	華士族奉還祿	終身家祿	終身家祿
			華士族奉還祿	終身家祿	終身家祿

出納科目	大科	小科
奉還諸祿	華士族奉還祿	終身家祿 終身家祿 終身家祿 終身家祿
		府縣及人別 府縣及人別 府縣及人別 府縣及人別

貸付棄捐	石高貸付棄捐	金貨
造幣寮ヨリ受取過	同	銀塊
	同上	精製金塊
		精製銀塊
		○利子○口儲○賦金及抽成 元金原價へ分割金剩金
諸損益	買上公債證券損益	
	貸幣製造及地金賣拂損益	
	煉瓦石家屋建築費損益	
	石高貸及雜費利子高外收入	
	洋銀賣拂損益	
	運轉貸借利子	
	御堀渡及四大橋ノ利	

○大科目八種ノ外運轉上臨時損益アルトキハ別ニ科目ヲ設ケルコトアルヘシ
○此ノ利益ハ次ノ年度ニ越ストキ國債寮ヨリ報告シテ修繕基金ノ内ヘ加エヘシ

第三準備收支片用科目

此科目ニ掲クルモノハ決算既定年度ヲ經テ臨時請求ノ八年六月前經費不足過誤納下ケ戻及運轉上ノ諸差損益不用品拂下代納入ノ類ニテ入テ出ス事ナク貸シテ還ルコトナキ目的ニシテソノ決算スルハ負債者ノ勘定帳報告又ハ決算證書等ヲ以テ償戻ニ看做スヘキ片務ノ性質ヲ有スルニ付收支ヲ分テコレヲ掲ク

支出ノ部	片務性ナレトモ本年申ニ交付シタル過誤シ等ニテ返戻スルトキハ收入支出トモ一科目ヲ用ユルコトアルヘシ
出納科目	大科目
	小科目
運輸諸費	地金精製費

造幣寮定額	造幣寮定額
御堀渡及四大橋修繕費	造幣寮額外
雜支出	同上
	八年六月前各廠經費不足過誤納種々雜支出

○未決算高崎市申貸付等モ掲ケ置クヘシ
○前條ニ洩レタル不時ノ小雜出ヲ掲ク

收入之部

片務性ナレトモ本年度ニ收入セシモノ過誤納等ニテ下戻ストキハ收支一科目ヲ用ユルコトアルヘシ解支出ニ同シ

出納科目	大科目	小科目
造幣寮收益	同	精製分析溶解諸手續料 銅貨鑄造殖益 破廢其外製作品賣拂代 造幣寮不用品拂代
常用繰入金	會計年度乙部決算殘高 官有地林木其他奉還縣者拂代	
官有物拂代	司法省納賦贈金	
贖贖金及利金	各廠納諸科金	逓約金
官有物拜借料	官有地及家屋類拜借料 八年六月前諸經費 遺拂殘諸延納	逓意金

○各廠及舊藩藩雜納

雜 收 入	雜 入
○ 弘前藩知事 札支消ノ爲上納金 ○ 官兒方法資本金 ○ 政府及舊藩團城詰 米ノ類拂下或ハ代付石 代上納 ○ 舊藩貯蓄金通常準備 金其外所用ノ名分無 之 ○ 東京府役場明使及雜 代 ○ 各縣及舊藩不用家器具 乘舊拂代 ○ 官有地家林木其外賣拂代 年賦納 ○ 舊藩物品賣拂代年賦納 ○ 元勳業資本金貸付 ○ 八年六月前家録官職貸典 旅費月給減過年賦納 ○ 同濟會社月賦返納其他 還納納之分	
諸 返 納	諸 貸 返 納
○ 引送高五拾貳萬餘ヲ掲ケ置増額セントキハ此高ヘ 加ヘ(國債券コリ別) 追テ修繕費決算濟金額ト相 對スル日初テ差引無殘トナルヘシ	六年前救助貸下返納

右出納科目ノ改正ニ伴ヒ同月五日從來ノ準備金計算規則ヲ改正シ準備金取扱規則ノ名稱ヲ以テ之ヲ規定セリ右取扱規則ニ於テハ準備金ヲ分テ(一)新紙幣發行基礎準備(二)内外諸公債支消準備(三)流用運換臨時收入利益増殖準備ト爲シ第一類ヲ増加スルハ第三類中ノ過剩額ヲ以テ本位金貸ト爲シテ編入シ第二類ハ其收入スル金額ヲ以テ内外諸公債ノ支消ニ充テ過超有レハ第三類ニ移シ不足スルトキハ第三類ヲ以テ補償ス第三類ハ公債證書古金銀銅ノ料塊及ヒ不動産ヲ抵當トシテ

貸付ヲ爲ス而シテ第二類第三類ノ基金ニ編入スルモノハ舊藩貸付金以下ノ九種ト爲セリ而シテ其他ハ概ネ舊ニ依レリ準備金取扱規則即左ノ如シ

準備金取扱規則

- 第一條 準備金計算法部分シテ三類トス
- 第一類 新紙幣發行基礎準備ヲ計算ス
- 第二類 内外諸公債支消ノ準備ヲ計算ス
- 第三類 活用運換臨時收入利益増殖準備ヲ計算ス
- 第二條 第一類準備金ハ本位金貨壹千萬圓ヲ以テ固有不動産ノ定額トシ此額ハ増アルモ減スルコトナキヲ要ス
- 第三條 第一類準備金ハ本位金貨ヲ以テ之ニ充テ銀銅紙幣外國貨幣等ヲ以テ此部中ニ算入ス可ラス
- 第四條 第一類準備金ヲ増加スルハ第三類中ニ過剩スルモノヲ以テ本位金貨トナシ繰入ヘシ
- 第五條 第一類準備金ヲ貯蓄スルハ本省金庫ニ於テス出納寮於テ日夜保護怠ルコトアル可ラス
- 第六條 第一類準備金ハ卿輔以下關係ノ官員毎回臨時金庫ニ就テ検査スルコトアルヘシ
- 第七條 第一類準備金每一箇月合計シテ表ヲ精製シ大藏卿ニ上呈スヘシ
- 以上第一類準備金ノ計算ヲ明ラカニス
- 第八條 第二類準備金ハ内外國諸公債ヲ支消スルタメ充テ置ク所ノモノナリ即チ本類ノ收支ハ別冊科目表ニ照シ之ヲ處分スヘシ

第九條 第二類準備金へ收入スル處ノ金額ヲ以テ内外國諸公債ノ支消ニ充ルト雖モ超過スルモノアレハ之レヲ第三類活用準備ニ挿入ス自然收支相償サルトキハ又第三類準備ヲ以テ之ヲ補償スルモノトス

但本文收支過不足ノ計算ハ會計年度結尾毎明了ニ取調表ニ製シ大藏卿ニ呈スヘシ

第十條 第二類中外國新舊公債區分元高支消高ト差別ヲ明ラカニシ毎三箇月報告ヲ製シ大藏卿ニ上呈スヘシ

内國新舊公債秩祿公債金札引換公債元高支消高ト差引ヲ明カニシ毎三箇月報告書ヲ製シ之ヲ大藏卿ニ上呈スヘシ

第十一條 華士族平民ヨリ奉還スル處ノ家祿賞典祿資本金支給高ノ内現金ト公債證書ノ區分ヲ明ラカニスヘシ

第十二條 第二類準備金へ收入スヘキ科目ノ金額收入セサル前支出ヲ要シ此部中ニ一時不足ヲ生スルトキハ第三類準備金ヨリ一時借入ヲナシ追テ收入金ノ上之ヲ返償ス可シ

第十三條 第二類準備中外債消却ノ爲メ洋銀ヲ求需スルトキハ之ヲ現金ニテ拂出シ第十九條ニ照準處分スヘシ

第十四條 第二類中收支スル金額ハ每一箇月精表ヲ製シ之ヲ大藏卿ニ上呈スヘシ

以上第二類準備ノ計算ヲ明カニス

第十五條 第三類準備金ハ臨時收入活用運轉ノ資本利益増殖ノ基礎トス固ヨリ定額ナシト雖活用運轉ノ都合ニヨリ過多ナル時ハ本位金貨ヲ以テ第一類準備へ繰入紙幣ノ豫備トスヘシ

第十六條 第三類準備收支ハ別冊科目表ニ照シ處分スヘシ

第十七條 第三類準備金ハ公債證書並古金銀各銀行紙幣金銀銅地金及ヒ不動産ヲ抵當ニシテ貸付スルトコトアルヘシ然レトモ之ヲ貸スノ法滿六箇月ヲ以テ一期トシ利息ハ一箇年百分ノ七以上ナルヘシ端日數ハ一箇年ノ日數ニ割合計算スヘシ

第十八條 常用甲乙部第二類準備金額不足スルトキハ甲乙第二類準備借入ル、コト、ナス然レトモ以上ノ貸借ハ無利息タルヘシ

第十九條 第三類中別ニ洋銀ノ部ヲ置豫メ洋銀ヲ貯へ置諸官省寮課ヨリ求需アルトキハ時ノ相場ヲ以テ之レヲ賣拂フヘシ

第二十條 洋銀買上ケ代金ハ第三類準備金ヨリ支出シ(之レヲ洋銀買上代金ニ對シテ)追テ其買入ノ洋銀ヲ賣拂フトキハ賣拂フタル代金ハ最前買上代貸金ニ對シ償却スルモノトス

但賣拂代金ハ損益ヲ分タス納メ置キ月末毎ニ越元及賣買ヲ商量シ損益報告回議(檢査合評)ニテ大藏卿ニ稟シ決判濟間接ノ各寮課ニ回致スヘシ

第二十一條 前條ノ手續ヲ以テ買入シ洋銀ハ傳票ヲ付セス國債頭ヨリ直ニ出納寮現金納拂局へ預ケ置洋銀求需アルトキハ時ノ相場ヲ以テ賣拂其代金ハ前條ノ手續ヲナシ洋銀買上代貸金へ返償シ毎月末ニ至リ賣買損益明細勘定帳ヲ製シ大藏卿ニ上呈スヘシ

但國債寮出納寮ノ間ニ於テ受拂ノ方法ハ兩寮ニテ別ニ設クヘシ

※第二十二條 常用準備中へ洋銀ヲ以テ諸上納アルトキハ一旦其洋銀ノ洋銀部へ賣拂代通貨ヲ以テ上納ニ立ヘシ其買入ノ方法前條々ノ手續ノ如クスヘシ

第二十三條 諸公債證書買上代金ハ第三類準備ヨリ貸出シ置キ(之ヲ諸公債證書買上現證書ハ代ニ對シ貸金トス)現證書ハ公債證書部ヲ置追テ此公債證書ノ元金並利子受取シ時又ハ時機ニ依リ買上ノ證書ヲ賣拂フタルトキ其代價ハ買上代幾號ノ原價ニ照シ損益ヲ比較シテ之ヲ幾號買上代ノ返納トス利子並益分ハ別ニ傳票ヲ付シ何號買上代ニ生スル利子差益ト區分スヘシ損アレハ傳票ノ肩書ニ買上原價ヲ記シ一打ニ返納金額外書ニ何程差損ト記スヘシ

前條ノ手續ヲ以テ買上タル諸公債證書ハ一旦國債頭ノ名前ニ切換其儘國債察ニ預リ保護シ元金並利子ノ受取方其他證書ニ付處分スヘキ事務ハ一切國債頭ノ負荷トス

但保護ノ順序等ハ明了ニ條例ヲ設置スヘシ

第二十四條 明治九年七月以降常用準備ヘ諸公債證書ヲ以テ上納ニ立ツヘキモノハ其證書ヲ國債察ヘ持參賣拂ノ上代金ヲ以テ本納ニ相立ヘシ

常用準備中ヘ諸公債證書ヲ以テ目今本納ニ相立アル分モ前條手續ヲ以テ公債證書買上ノ部ヘ一旦賣渡ノ手續ヲナシ國債察ノ買上證書トナスヘシ

第二十五條 前條ノ手續ヲ以テ買上シ公債證書買上損益ノ納拂ハ毎月明了ニ取調追算勘定帳ヲ製シ大藏卿ニ上呈スヘシ

第二十六條 金銀銅地金(古金銀交換此造幣令狀買入代金第三類準備金ヨリ貸出シ置銀銅地金古金銀及ヒ造幣令狀買入代ニ對シ貸金トナス)追テ貨幣鑄造ノ上原價並損益ヲ區分シ傳票ニ付スル第二十三條手續ニ準スヘシ

但買上代金並返價金納拂每一箇月追算勘定帳ヲ製シ大藏卿ニ上呈スヘシ

第二十七條 前條ノ手續ヲ以テ買上レシ金銀銅地金古金銀ハ其賣渡人ヨリ直ニ出納察ヘ差出シ同察ノ假預證書ヲ以テ國債察ヘ相納メ代リ金ハ同察ヨリ渡方ヲナスヘシ

第二十八條 國債察ニオキテハ金銀地金古金銀部ヲ設ケ其買上ノ節ハ其品類ヲ區分セシ出納察ノ假調書ヲ受取り之レニ番號ヲ付シ傳票ヲ要セス直ニ國債察ヨリ出納察現金受拂局ヘ預ケ其金銀銅地金及ヒ古金銀ヲ精製分析或ハ鑄造ノ爲拂出シ候節ハ最前預ケ番號其種類ヲ區分シ何々地金幾々等精製或ハ鑄造ノ爲メ國債頭ヘ受取云々ト記載セシ切符ヲ製シ國債察ヨリ出納察ヘ相渡シ其地金ヲ受取ヘシ尤地金預ケ受引相立翌月ヘ越預ケ高竝ニ精製鑄造渡高トモ明了取調每一箇月決算ヲナシ出入報告書ヲ製シ大藏卿ニ上呈スヘシ

但國債察出納察間ノ出入順序ハ別段明了取設ケ置クヘシ尤成貨濟迄ハ都テ原價ヲ付スル事

第二十九條 第三類準備金活用運轉ノ際損益アレハ同部中損益ノ部ニテ計算ヲナスヘシ

第三十條 第三類準備金中收支スル金額ハ每一箇月精製表ヲ製シ之ヲ大藏卿ニ上呈スヘシ

第三十一條 常用準備中ヘ金銀地金古金銀ヲ以テ納入スルモノハ先ツ地金銀部ヘ第二十六條ノ手續ヲ以テ賣拂ノ上代金通貨ヲ以テ上納ニ相立ヘシ

以上第三類準備金ニ計算ヲ明カニス

第三十二條 第二第三類準備基金ニ組込計算スルモノ

舊藩藩貸付○宮方貸付金○舊藩藩竝人民ノ外債償却ニ付償還スヘキ爲取立金○石高拜借金○京橋以南煉化石家屋建築貸費○運轉貸付金三井組兌換證券交換基金○諸向一時貸金○府縣豫備金○高島炭坑賣拂代金其他將來收支雙務ノモノ右ハ夫々基金ニ組込貸借ノ計算ヲナ

スヘシ

第三十三條 準備金ハ各類ノ間ニオケルト否トニ拘ハラス凡ソ出入貸借ニ關スルハ必ス大藏卿ノ傳票ヲ要ス其他既ニ支出セシ後ニオヒテ運用ノ方法ニ就テノ取扱ハ傳票ニ及ハス唯取扱規則ニ照ラシ之ヲ處辨スルコト、ス

明治九年九月十九日大藏省出納條例ヲ制定シ政府ノ出納ニ關スル制度ヲ整理スルニ及ヒ其第四款ヲ準備金收入科目條例其第五款ヲ準備金支出科目條例ト爲シ準備金收支ノ科目ヲ明カニシ第九款ヲ準備金收入條例第十二款ヲ準備金支出條例ト爲シ準備金出納ノ手續ヲ規定セリ此大藏省出納條例中ニ規定セル準備金ニ關スル規定ハ主トシテ從來ノ諸則ヲ統一セルモノニシテ其全文ハ暨ニ一段會計法規中ニ掲出セルヲ以テ煩ヲ避ケテ之ヲ略ス

明治十年七月十一日準備金取扱規則ヲ改定セリ其規定ニ依レハ準備金ノ種類ハ從來ノ規定ト異ナル所ナク而シテ第一類ハ毎年七月一日基金ヲ改新スルヲ以テ豫算ヲ立テス年度ノ區分ヲ設ケス第三類ノ過剩セルモノヲ以テ本位金貨ト爲シテ之ヲ轉入シ第二類ノ出納ハ年度ヲ分ツテ本部後部ト爲シ年度内銷却ス可キ國債元利金ヲ豫算シ其金額ヲ常用ヨリ求メテ之ヲ支出ス第三類ハ毎年七月一日基金ヲ定メ活用運轉ヲ主トシ專ラ殖益ヲ目的トシ之ヲ國債局ニ貸與スルモノトス而シテ此改正中最モ主要ナルハ從來準備金第二類ハ奉還祿石代金ヲ常用ヨリ繰入來リシモ明治十年度以降ハ金祿公債元利ノ銷却巨額ニ上ルヲ以テ右石代金ノミヲ以テ之ヲ支償スル能ハサルヲ以テ石代金ヲ常用ヨリ編入スルヲ止メ毎年實際償還スヘキ國債元利金ヲ合計シ其金額ヲ常用ヨリ第二類準備ニ移シ入ル、コト、セリ改定準備金取扱規則左ノ如シ

準備金取扱規則

各類準備金之部

第一條 準備金ハ專ラ紙幣ノ基金ト諸公債償却ノ準備トナシ且ツ基金ヲ増殖スル爲メ活用運轉スルコトアリ則テ第一類第二類第三類トス

第二條 第一類ハ固有不動ノ準備ニシテ紙幣發行ノ基金トス

第二類ハ内外國債ヲ支消ナスモノトス

第三類ハ第一類ノ分質ニシテ專ラ活用運轉増殖ヲ計ルモノトス

第三條 凡準備金ハ收入支出スルノ際國債局ニ於テ其帳簿ニ記得シ其帳簿上ニ就テ之ヲ管理スルモノニシテ現金ハ出納局ニ於テ保存スルコト、ス

第四條 準備金ハ各類ノ間ニ於ルト否トニ拘ハラス出納條例ニ異ナルコトナシ

第五條 第一類第三類準備トモ其年一月一日へ越シタル基金ノ合高及前年一月一日ヨリ同十二月三十一日マテニ基金ノ増減セシ事由ヲ詳ニシ竝ニ第二類準備金ノ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日マテ出入豫算共國債局ニ於テ取關之ヲ該年二月十五日マテニ大藏卿エ具狀スヘシ

第六條 各類ノ準備金ヲ收入支出又ハ運轉スルハ國債局ノ擔任タリ故ニ準備金收入支出ノ傳票ハ國債局其納主又ハ受取主トナリ成規ノ通り每一箇月勘定帳ヲ整理大藏卿へ上呈決算ヲナスヘシ依テ其要傳票ヲ發スルノ際國債局ニ於テ收入支出ノ番號ヲ付シ帳記ヲナシ及割印ヲナスヘシ此割印ヲ見トムル後ニアラサレハ傳票ヲ付スヘカラス且國債局ニテ付シタル番

號ハ則納拂ノ番號ニテ各局トモ此番號ヲ以テ記帳スヘシ

但貯蓄米資本金ハ第二十四條ニ據ルヘシ

第七條 各類準備金每一箇月末日ノ計算小譯表竝ニ明細表ヲ整製シテ之ヲ大藏卿へ上呈セシム
第八條 各類準備金每一箇月中現納拂セルト現在高トヲ計表トシテ出納局ヨリ上呈セルユヘ
ニ其收支ノ差違ナキヲ保セン爲メ傳票課ヨリ其傳票ヲ付セシモノ記録局ヨリ其傳票原書ノ
同局ニ保存セシモノヲ計表トシテ上呈セシメ加フルニ國債局ニ於テ勘合印則記帳セシモノ
ヲ計表トシテ上呈セシメ之ヲ大藏卿面前ニ於テ照合スルコト、ス但毎月五日ニ之ヲ行フ

第一類準備金ノ部

第九條 第一類準備金ハ本位金貨壹千萬圓ヲ以テ固有不動ノ準備金トナシ此額ヨリ増アルモ
減スルコトナキヲ要ス且銀銅貨紙幣外國貨幣等ヲ以テ此類中ニ算入スヘカラス

第十條 第一類準備金ハ毎年七月一日其基金ヲ改新スル故豫算ヲ立テス年度ノ區分ヲ設ケス
且其基金ヲ増加スルハ第三類ノ過剩スルモノヲ以テ本位金貨トナシ繰入ルヘシ則左ノ一項
ヲ以テ收入ノ出納科目トス

一 増殖繰入

第十一條 第一類準備金ヲ貯蓄スルハ大藏省金庫ニ於テス出納局於テ日夜保護怠ルコトアル
ヘカラス且卿輔以下關係ノ官員臨時金庫ニ就テ検査スルコトアルヘシ

第二類準備金ノ部

第十二條 第二類準備金ノ出納會計ニ於テハ其年度ヲ區分シテ本後兩部トス譬ハ明治十年

丁丑七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルハ則丁丑年度ニシテ該年度中ニ於テ該年度中ニア
ル出納セル部ヲ丁丑本部ト稱シ前年度則九年丙子七月ヨリ十年六月マテ(丙子年度)ニ係ルモノヲ
丁丑年度中ニ至ツテ出納セル部ヲ丁丑後部ト稱ス以下年々皆之レニ倣フ

第十三條 第二類準備金ハ國債支消ヲナスモノトス毎歲其年度ニ償却スヘキ元利豫算ヲ立テ
其金額ヲ常用ヨリ請求シ之レヲ以テ支出ス最初國債ノ募金ハ一旦第二類準備へ受入之ヲ第
二類ヨリ常用へ貸出ス故ニ第二類準備ハ人民ヨリ債ヲ負ヒ常用へハ債ヲ負ハセタリ因テ常
用干支甲乙部ノ科目ヲ以テ返戻ヲ要シ内外國債ノ科目ヲ以テ人民へ償還スルコト、ス則其
納拂ノ科目ヲ左ノ二項トシ傍大科目ヲ附載シテ其區分ヲ示ス

一 常用干支甲乙部貸出

大科目同シ

一 内外國債

外國債 內國債

第十四條 第二類準備金ノ決算ハ後部年度中ニ完了ナラシムヘシ而シテ常用ヨリ受入金高ト
(課算高ニ對シテ常用ヨリ國債元利)内外國債元利金支消高ト差引過剩金アラハ之ヲ常用部へ返
戻シテ該部ヲ解キ出納ノ局ヲ了スヘシ

第十五條 第二類準備へ受入ヘキ金額受入サル前支出ヲ要シ此部中ニ一時不足ヲ生スルトキ
ハ第三類準備金ヨリ一時借入ヲナシ追テ收入金ノ上之ヲ返償スヘシ之カ爲メ左ノ出納科目
ヲ設ク

一 一時借入金

第三類準備金ノ部

第十六條 第三類準備金ハ第一類ノ分質ニシテ毎年七月一日基金ヲ定メ活用運轉ヲ主トシ專ラ殖益ヲ用途トシテ之ヲ國債局ニ貸與スルモノナレハ唯單一ナル科目ヲ立テ、之ヲ拂出シ之ニ對シ異日返還決算ヲナサシムルモノトス依テ其出納科目ヲ左ノ七項トス而シテ傍ラ大科目ヲ附載シ以テ其區別ヲ示ス

一 金銀公債證書類買上代

金銀銅地金買上代 中外公債證書買上代

洋金部貿易銀買上代 株券地券類買上代

一 豫備及資本金

各應豫備金 貯蓄米資本金 外國爲替基金

一 貸出金

運轉貸出金 一時貸出金 抵當貨幣 煉化石家屋建築貸費

一 借入金

運轉借入金 一時借入金

一 繰入金

乙部決算殘金

一 雜出

同上

一 雜入

同上

第十七條 前條ニ掲載スル雜入雜出ナルモノハ運轉ノ際ニ生シタル各部ノ益又ハ第三類準備金本部ニ屬スル諸費等ヲ納拂スルモノニテ追テ國債局ヨリ勘定帳ヲ上呈シ決算ニ至レハ此科目ノ場ハ各決算シテ之レヲ損益勘定ヘ轉記シ以テ三類ノ基金或ハ二類準備増殖ヘ繰入モノトス

第十八條 準備金運用ノ爲メ支出ヲナス金額ハ皆國債局ヘ對シ貸與スルコト、ス故ニ同局其借主トナリ又返納主トナリ又他ヨリ借入金ヲナスモ債主ヘ對シテハ國債局之レカ負債主トナリ第三類準備金本部ヘ對シテ債主トナリ一切ノ計算ヲナシ決算ヲ遂クヘシ
第十九條 洋銀ヲ貯蓄シ諸官廳ノ求ニ應シテ交換シ金貨紙幣外國貨幣等ノ價位ノ平準ヲ得セシムル爲メ資本ヲ要スルトキハ皆第三類準備金ヲ以テ處辨シ其取扱方ハ第十八條第二十二條ノ如シ

第二十條 外國爲替金ハ外國買渡方規則八年太政官第百八十七號公達ニ照シ處辨スルモノ及諸向繰換貸金(大科目一時貸出ノ内ニアリ之レハ九年大藏省乙第五)ハ總テ第三類準備金ヲ以テ國債局ヘ貸與スルモノトス而シテ之レヲ貸與シ之レヲ返償スルノ順序ハ第十八條ニ據ル且外國爲替金ヨリ生シタル損益ハ第二十五條ニ據ルヘシ

第二十一條 第三類準備金ハ公債證書並ニ古金銀銀行紙幣金銀銅地金及不動産ヲ抵當トシテ

貸付スルコトアルヘシ而シテ利子ハ一箇年百分ノ七以上ノ割合ニテ滿六箇月ヲ以テ定期トナスヘシ然レトモ常用及ヒ他類又ハ第三類トモ收入スヘキ金額收入セサル前一時不足ヲ生スルトキハ流融ノ爲メ互ニ一時貸借ヲナスコトアルモ皆無利息タリ尤モ其支出シ又ハ返納スルハ第十八條ニ照準スヘシ

第二十二條 古金銀貿易銀洋金銀金銀銅屬地金及公債證書類ヲ故ラニ他ヨリ購入シ或ハ同上各種ノ物品ヲ以テ諸上納ニ立ツヘキモノヲ九年大藏省乙第六十號達ニ照準シ購入ヲナスハ總テ國債局ノ擔當トス故ニ同局ニ各專務ノ部ヲ置キ之ヲ處辨スヘシ之ヲ地金部洋銀部證書部ト稱ス

第二十三條 前條ニ掲載セル古金銀以下各種ヲ購入スル基金ハ第三類準備金ヲ以テ國債局ヘ貸與シ追テ其物品ヲ賣拂タル代金或ハ造幣ニ付シ其成貨等ヲ以テ貸與基金ヘ返償スヘシ

第二十四條 貯蓄米ノ賣買ハ總テ出納局ニ於テ其取扱ヲナスト雖モ其資本金ハ準備金ヨリ貸與スルコト、ス且其資金ヲ出入シ成規ニ照シ勘定帳及損益勘定帳ヲ整製決算ヲナスハ出納局ノ責任トシ國債局ヘ合議處分スヘシ

第二十五條 第三類準備金運轉ノ際ニ生シタル各部ノ益金ハ每一箇月之レヲ第三類準備本部「雜入(大科)」ヘ收入シ追テ國債局ヨリ收入ノ勘定帳ヲ呈シ決算ニ至レハ之レヲ損益勘定部ヘ轉記スルコト、ス又運轉ノ際生シタル各部ノ損金アルトキハ國債局ヨリ呈スル處ノ每一箇月ノ繰換勘定帳該貸基金ノ内棄捐ノ部ニ掲載セシメ決算ニ至レハ貸基金ノ内棄捐ニ相立之ヲ損益勘定ヘ轉記スヘシ

第二十六條 第三類準備ノ本部ニ屬スル諸費用アルトキハ(借入金利息等ノ類)雜出(大科)ニテ支出シ置每一箇月國債局ヨリ勘定帳ヲ呈シ決算ニ至レハ之ヲ損益勘定部ヘ轉記スヘシ

第二十七條 第三類準備運轉上損益勘定ノ決算ヲナスハ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ヲ一期トナシ其決算スヘキ期ニ至リ損益差引ヲナシタル明細ノ帳簿ヲ整製シ大藏卿ヘ上呈ス而シテ純益アレハ之レヲ準備基金ヘ増加シ損アレハ特議ヲ以テ基金ノ内減額ヲナスコトトス

第二十八條 常用乙部決算殘金其他會計上ノ都合ニヨリ他ヨリ繰入金ヲナストキハ基金ノ増額トシ又ハ運轉ノ都合ニヨリ過剩金アレハ之ヲ本位金貨トナシ第一類準備ヘ繰入スヘシ都テ基金ノ増減ニ係ルモノハ特ニ大藏卿ノ決判ヲ要ス

明治十年八月十四日ニ至リ準備金運用規則ヲ定メ國債局ニ於テ準備金ヲ運用スルノ準則ヲ定ム其規定ハ二十八條ニシテ内外公債證書其他株券金銀銅料塊舊貨幣洋金銀及ヒ貿易銀米穀ノ類ノ購求販賣ニ關スル細則ヲ定メタリ即左ノ如シ

準備金運用規則 (明治十年八月十四日)

第一條 準備金ノ運用ヲ管理スルハ當國債局ノ擔任ナリ而シテ其運用科目ノ内貯蓄米資本金及ヒ第二類準備ヨリ常用部ヘ稱貸シ又返償スル等ヲ除クノ外(第二類準備ヨリ常用ヘ貸金スルハ返償スヘシ故ニ之ニ對スル勘定帳ハ出納局領受ニ於テハ準備本部ヘ對シ當局之レカ負債ノ任ナリ第三類ヨリ貸出ハ此限リニアラス)領受ニ於テハ準備本部ヘ對シ當局之レカ負債ノ客トナリ或ハ返償ヲ受クルノ客トナリ又納入ニ在テハ之カ債主トナリ或ハ返納ノ主トナリテ之レカ便宜運用ヲナスモノトス故ニ諸地金洋金銀貿易銀及ヒ公債證書其他物品ノ賣買

或ヒハ貸出金ハ全ク便宜運用上ニ屬スルヲ以テ當局各主務ヲ置テ其出納ヲナサシム而シテ準備金ヨリ常用ヨリ一時借入又ハ返償スルトキハ亦當國債局常用ニ對シ負債ノ客トナリ準備本部ヲシテ間接ニ債ヲ負ハシムルコト、ス

第二條 諸物品購收販賣ヲ擔理スル件々左ノ如シ

- 一 内外公債證書其他株地券類
- 一 金銀銅諸地金類
- 一 洋金銀及貿易銀類
- 一 舊貨幣

但米穀ヲ購入及ヒ賣買ノ損益或ハ之レニ關スルノ費用トモ特ニ出納局ノ任トス然レトモ其購收代金或ハ費用共第三類準備ヨリ直ニ出納局へ貸與ナシ其取扱ハ以下規則ト同シ唯國債局ノ責任出納局ノ責任トナルノミ

第三條 諸物品(前條掲載スルモノ)ヲ購收スル爲メノ資本金ヲ要スルニハ其金員ヲ請求スヘキ

「地様式」ノ傳票回議ヲ製シ(檢査ヘ合議スヘシ且本支金ハ凡檢見込ヲ以テ請求スルモ又購收ハ免サハルモトス)大藏卿ノ決判ヲ經テ後要傳票ノ印ヲナシ定例ノ順序ヲ以テ傳票ニ付ス(傳票ナリ)而シテ割印切符ヲ以テ之ヲ國債局ノ主簿ニ報シ且此傳票出納局へ到達シ同局ヨリ金額渡スヘキ旨ノ報知アレハ國債局ニ於テハ一號證書ヲ製シ局長ノ官印ヲナシ(此證書ハ主簿ニ之ヲ出納局ニ齎シ金員ヲ受取ルヘシ)則國債局主簿ニ報シ且此證書最前ノ割印切符ヲ製シ而シテ物品賣主ヘ代金ヲ渡サントスルトキハ二號式ノ回議ヲ發シ局長ノ決判ヲ經テ出納局ノ拂切符歟又ハ第四條ニ掲クル處ノ引出切符歟ヲ以テ便宜之ヲ交付スヘシ(本條ニ依リハハシムルノ記帳ヲナサシムヘシ)

第四條 諸物品購收資本金ヲ出納局ヨリ領受シ之レヲ同局現金納拂掛ヘ預ケ同掛ノ預證書ヲ取置キ(購收代金一口毎ニ請求シタルモノニテ其儘購收ノ毎右預ケ金ヲ引出サントスルトキハ第二號式ノ議冊ヲ發シ局長ノ決判ヲ得テ然ル後引出切符ヲ製シ)此切符ノ金員ト第二號式ノ決議冊ノ金員トトキハ

掛長之ニ割印ヲナシ此二號式決議冊ヲ以テ國債局主簿ニ報シ且此切符ナリ物品賣主ニ交付スヘシ(第三條ニ依リハハシムルノ記帳ヲナサシムヘシ)

第五條 物品購收資本金國債局長領受セシ上尙又前條ノ手續ヲ以テ出納局現金納拂掛ヘ預ル

ニ付同掛ヨリ毎月初旬前用ノ受拂差引書ヲ差越スヘシ然ルトキハ其預ケ高拂高及ヒ越高ヲ調査シ翌月へ越預ケ高ニ當ル金員ハ更ニ現金納拂掛リノ預リ簿冊ニ記載シ受取ルヘシ

第六條 大阪國債支局ニ於テ諸物品(前條ニ掲載スルモノ)購收スルトキハ其代金ハ特ニ同支局ノ長官ヨリ大阪出納支局へ宛タル證書ヲ差入假拂ヲナシ購收代金ヲ渡シ而シテ每一句ノ假拂高ヲ合計シ之ヲ第三類準備ノ本部へ請求スルコトヲ第三條ノ如クス故ニ大阪ニテハ代金ノ凡積受取ヲナスコトナシ

第七條 國債局購收スル處ノ物品ノ内公債證書ハ同局自カラ現品ヲ管理スル故直チニ同局へ領受ス其他ノ諸物品ハ國債局ヨリ出納局へ相預ケ同局ニテ管守シ國債局ノ切符ヲ以テ出入スルモノトス故ニ出納局ニ於テハ實際受渡ヲナスハ何人ヲ論セス總テ國債局ヲ受渡先キトス

第八條 國債局へ購收スル物品ノ内出納局へ預ケ入ルヘキ物品ハ其賣主ヨリ其物品員數等ノ明細書ヲ國債局へ差出同局ノ檢印ヲ受ケ現品ニ添之ヲ出納局現金納拂掛ヘ(各出張出納局ヲトス)

序ハ第三條ニ據ル

第二十六條 他ヨリ借入レタル金額ニ對シテ利子ヲ下付スルトキハ其利子ヲ第三類準備金雜出(大科)ヨリ國債局へ受取(此トキ一號)同局ヨリ之ヲ債主へ交付スヘシ(此際受取ニ保存ス)其支出ノ際取扱順序ハ第三條ニ據ル

第二十七條 第三類準備金本部及運轉上ノ諸費用アルトキハ(準備金取扱規則第)同部雜出(大科)ヨリ國債局へ受取(一號)同局ヨリ夫々拂方ヲナスヘシ其支出ノ際取扱順序ハ第三條ニ據ル

第二十八條 準備金運用方ニ付國債局ヨリ上呈スル處ノ諸勘定帳種類區分左ノ如シ
每一箇月上呈スル部

明支何月 第三種準備金ヨリ繰換借金受拂勘定帳

但帳簿書式ハ其時公達シアル模本及伺濟例規ニ準據ス

該勘定帳へ組込ヘキ大科目左ニ

- 一 金銀銅地金買上代
 - 一 中外公債證書類買上代
- 一 洋金銀貿易銀買上代
 - 一 株券地券類買上代
- 一 各應豫備金
 - 一 外國爲替基金
- 一 運轉貸出金
 - 一 一時貸出金
- 一 抵當貨幣
 - 一 煉瓦石家屋建築貸費
- 一 貯蓄米資本金

但此分ニ限リ出納局ヨリ勘定帳上呈決算ヲナスモノトス

但第三條第十七條第二十三條ニヨリ各大科目ノ基金或ハ運用貸金ヲ第三類準備金ヨリ受取各之ヲ該勘定帳借基金ニ組ムヘシ又第十四條第十五條第十九條第二十二條第二十三條ニ據リ借基金元へ返償スレハ則之ヲ該勘定帳ノ返納ノ部ニ組入レ又損失アラハ之ヲ該勘定帳損失ノ部ニ組入レ差引翌月へ繰繰換借金未納高ヲ記載シ未納高へ對シ人號證書ヲ製シ之ヲ上呈スヘシ而シテ返納高ト損失高ニ對シ大藏卿ヨリ決算證書ト並最前國債局ヨリ差入レ置ク處ノ一號證書ヲ下付決算ノ局ヲ了ス

明支何月 第三類準備金諸收入金勘定帳

書式ノ決定ハ同上

該勘定帳へ組込ムヘキ大科目左ニ

- 一 乙部決算殘金
- 一 運轉借入
- 一 一時借入
- 一 雜入 (金銀銅地金洋金銀貿易銀公債證券類生シタル利益金及)
 - 但第十六條第十九條第二十三條ニ據リ每各大科目其損益ヲ計算差引純益金或ハ乙部決算殘金等ヲ國債局へ受取リシトキハ之ヲ該勘定帳ノ元受ニ立之レヲ第三類準備金へ上納シ該勘定帳ノ拂ニ相立最前國債局へ領受スル處ノ天號證書共ニ之ヲ上呈ス而シテ其上納セシ金額ニ對シ大藏卿ヨリ決算證書下付アレハ之ヲ以テ決算ノ局ヲ了スヘシ

明治何年 第三類準備金支出勘定帳

通算表拂出明細表ヲ添フル事

書式決定ハ同上

該勘定帳へ組込大科目左ニ

- 一 雜出 (借入金返償或ハ借入金利息金銀貸其他諸貨)
- 一 運轉借入金
- 一 一時借入金

但第三類準備本部へ借入タル金ヲ返償スルモノヲ該勘定帳へ組入ル事

但第二十五條、第二十六條、第二十七條ニ據リ第三類準備金雜出或ハ「運轉借入金」一時借入金ヲ返戻ノ爲メ支出スル處ノ金額ハ之ヲ該勘定帳ノ元受ニ立其渡スヘキモノへ交付セシヲ仕拂ニ相立之ヲ大藏卿ニ上呈ス而シテ此仕拂フタル金高へ對シ大藏卿ヨリ決算證書ト竝ニ最前國債局ヨリ差入置處ノ一號證書下付アリテ決算ノ局ヲ了ス

- 一 前條ニ列序スル一切ノ出納及諸決算ハ舉テ遺漏ナク計算上主簿ニ報告シテ記帳セシムルコト、ス

明治十一年七月一日大藏省國債局中へ減債掛ヲ設ケ專ラ減債金ノ事務ヲ擔任セシムルコト、シ同時ニ減債金條例ヲ新設シ準備基金中ヨリ貳千萬圓ヲ割テ減債金ニ繰入ル、事トシ從來ノ準備金ニ關スル規則ヲ改定シ準備金條例ヲ制定セリ而シテ準備金ハ紙幣發行ノ基金トシ金貨壹千萬圓ハ大藏省金庫ニ貯蓄シ其他ハ運轉資金ニ供ス各年度常用ノ決算殘金ハ準備金ニ編入スルモ會

計ノ便宜ニ因リ決議ヲ經テ臨時ニ編入ス又準備金ハ運轉利益ヲ主トスルモ其運轉ノ事務ハ國債局ニ於テ管理シ其運轉ヨリ生シタル損益ハ國債局運轉資本ノ部ノ損益ト爲シ直接ニ之ヲ準備金ノ損益ト爲サ、ルコト、セリ減債金條例ノ規定ニ依レハ明治十一年度以降毎年常用金ヨリ貳千萬圓ヲ貳千萬圓ヲ割テ減債基金トシ專ラ運轉利益ヲ謀リ明治十一年度以降毎年常用金ヨリ貳千萬圓ヲ繰入シ此繰入金及基金殖金ヲ以テ國債ヲ支消ス其過剰金ハ減債基金ニ加算ス其不足ヲ生セシトキハ大藏卿ノ裁判ヲ經テ減債基金ヨリ之ヲ支出スルモノトセリ即此改正ノ要旨ハ從來準備金ヲ三類ニ分チタルヲ止メ國債償還ノ目的ヲ以テ準備金ノ一部ヲ割テ基金トシ之ニ關スル規定ヲ特ニ定メタルニアリ準備金條例左ノ如シ (減債基金條例ハ減債基金ノ部ニ掲ク)

準備金條例 (明治十一年七月一日)

- 第一條 準備金ハ紙幣發行ノ基金ナリ内金貨壹千萬圓ハ大藏省金庫ニ貯蓄シ其他ハ運轉資本ニ供スヘシ
- 第二條 各年度常用決算殘金ハ準備金へ繰入スヘシ但會計上ノ都合ニ依リ臨時ノ決議ヲ以テ繰入レ金ヲナスコトモアルヘシ
- 第三條 國債局ニ於テハ準備金ノ原簿ヲ整備シ其收入支出ノ際之レヲ原簿ニ登記シ該原簿上ニ就テ之レヲ管理スルモノニシテ其現金ハ出納局ニ於テ保存スルモノトス
- 第四條 準備金ノ收入支出ハ大藏卿ノ傳票ヲ要スルコト一般ノ出納條例ノ如シ且要傳票ヲ發スルノ際國債局ニ於テ出納番號ヲ付シ之ヲ記簿割印ヲナスヘシ此割印ヲ認ムルノ後ニ非サレハ傳票ヲ付スヘカラス且國債局ニテ付シタル番號ヲ以各局課トモ記簿スヘシ

第五條 準備金ノ收支及ヒ運轉スルハ國債局ノ責任ナリ故ニ該金收支ノ傳票ハ總テ國債局長其納主トナリ又ハ受取主トナリ或ハ他ヨリ借入金ヲナスモ債主ヘ對シテハ國債局長之カ負債主トナリ準備金ヘ對シテハ債主トナリ一切ノ計算ヲナスヘシ

第六條 準備金ヲ收支セシトスルニハ第一號甲乙雜形ノ如キ傳票回議ヲ以テ大藏卿ノ決判ヲ經テ要傳票ノ順序ヲナスヘシ但シ第二號雜形ノ如ク收支セントスル金員既ニ大藏卿ノ決判ヲ經タルモノハ第三號甲乙ノ如キ略回議ヲ製シ當初大藏卿ノ決議ニナリシ原書ヲ綴添傳票ノ順序ヲナスヘシ

第七條 準備金每一箇月中現金納拂セル高ト現在高トヲ第四號雜形ノ如ク計表トナシ翌月初ノ五日ニ大藏卿ヘ上呈シ出納記録ノ兩局及ヒ傳票課ヨリ上呈スル處ノ同計表ト大藏卿ノ面前ニ於テ之ヲ對照スルモノトス

但準備金每一箇月末日ノ計表(甲)表内譯明細表(乙)製シテ之ヲ大藏卿ヘ上呈スヘシ
第八條 國債局ニ於テハ毎年七月一日ヘ越スヘキ準備基金高ノ豫算ヲ立之レテ其年六月十五日迄ニ大藏卿ヘ上呈ス(此上呈ノ金高ヲ以テ入)而シテ第九條ノ如ク實際七月一日ヘ越シタル元金額ヲ整理ノ上右ノ豫算高ニ對シ増減セシヤ否ヲ上申スヘシ

第九條 準備金ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ノ一周年間ヲ以現出納決算ノ期限トナシ毎年七月一日ニ其基金ヲ改新スルモノトス且毎年七月一日ヘ越金高及該年間ニ増減セシ事由ノ明細書(六)製シ之ヲ七月二十日迄ニ大藏卿ニ上呈スヘシ

第十條 準備金ノ收入支出ハ單一ノ科目ヲ以逐次出納ノ決算ヲ爲ス則其出納科目ヲ左ノ四項

トス而シテ傍大科目ヲ附載シテ其區別ヲ示ス

但繰入ノ科目ハ收入ノミニ用フルモノトス

出納科目

大科目

一 繰入

常用決算殘

一 國債局運轉資本

地金類購收資本

洋金銀購收資本

證券類購收資本

外國爲替資本

各應營業資本

各應豫備資本

諸貸出資本

抵當貨幣

煉化石建築貸費資本

雜貸資本

一 借入 同上

一 損益 同上

第十一條 準備金ノ原簿ハ其收入支出スル金員皆出納科目ヲ以テ記載シ大科目ハ國債局専用ノ科目ナルニヨリ準備金(即チ準備金ノ本部ヲ云フ)ニアツテ之ヲ區分記載セス

第十二條 準備金ハ運轉利益ヲ主トナスト雖モ其運轉ノ事務ハ國債局ヘ負擔セシメ準備金直接ニ運轉ヲナサルモノトス

第十三條 國債局ニ於テ運轉ノ際生シタル損益ハ國債局運轉資本ノ部ノ損益トナシテ直接ニ

之ヲ準備金ノ損益トナスヘカラス

第十四條 國債局ニ於テ運轉資本金ヲ要スルトキハ其時々之ヲ準備金ヨリ受取ヘシ或ハ時機ニ因リ使用ノ用途ヲ立テ概算ヲ以テ受取置クモ妨ナシ

但各大科目ノ資本金ヲ互ニ流融スルコトヲ得ヘシ

第十五條 國債局於テ貸金ヲナスニハ必ス抵當品ヲ要スヘシ其品種ハ諸公債證書古金銀銀行紙幣金銀銅屬地金及不動産ニ限ルヘシ

但常用金及ヒ減債金各官廳ノ間ニ於テ繰換貸借ヲナスモノハ此限ニ非ラス

第十六條 國債局ニ於テ運轉貸出金ヲナスハ滿六箇月ヲ期限トシ其利子ハ年七分(即チ元高)以上タルヘシ尤臨時決議ニ係ルモノハ此限ニ非ラス

第十七條 常用金減債金及ヒ準備金各部互ニ繰換貸借ヲナスニハ總テ無利息トス其期限ノ如キモ時機ニ依リ之レヲ定ムヘシ

第十八條 準備金ヨリ國債局ヘ貸與セシ運轉資本金ハ追テ其購收セシ物品ヲ賣拂フタル代價或ハ地金ヲ造幣ニ付シタル成貨及ヒ貸出金ノ返償セシモノ等ヲ以テ各其損益ヲ比較シ其元金(最初準備金ヨリ)ヘ對シ返納スヘシ其益金ハ第二十一條第二十五條ノ如シ

第十九條 準備金時機ニ依リ他ヨリ一時借入ヲ要スルモ準備金直接ニ之ヲ借入レス必ス一旦國債局ヘ借入サセ同局ヨリ之ヲ準備金ニ借入ルモノトス

第二十條 國債局ニ於テハ品物ノ賣買或ハ出入運轉セシ明細書第七號雜形ニ照シ每一箇月分宛整製シテ之ヲ國債局ニ保存シ十一年太政官第一號及十一年三月大藏卿達ニ依リ檢査官派

出ノ際檢査ヲ受ヘシ

第二十一條 國債局ニ於テ運轉ノ際生スル損益ハ其都度損益ノ比較ヲナシ其益金ハ國債局ノ益トナシ又損アルモ之ヲ國債局ノ損トナシ他ノ殖益金ヲ以テ支辨スヘシ

但洋銀賣買及交換上ノ損益ハ每月末差引比較ヲナスコト、ス

第二十二條 凡運轉上ノ諸雜費ハ(地金精製分析費、貨物運搬費、貨物賣買及印刷紙幣交換手数料、ニ於テ生レタ國債局ノ損失トナシ同局殖益金ヨリ支辨スヘシ然レトモ其益金僅少ニシテ其損失ヲ支辨シ能ハサルトキハ之ヲ準備金ヨリ運轉資本トシテ國債局ヘ貸與スヘシ尤後日該局ノ殖益金ヨリ返償スルモノトス

但其員額未定ノモノ、如キハ(警ハ公債證書製造費一時見込渡ヲナシ實)確ト其費額モ決定セサルニヨリ其額ハ一時準備金ヨリ運轉資本トシテ國債局ヘ貸與シ追テ員額決定ノ上殖益金ヨリ返償スルモノトス

第二十三條 前條ニ掲載セシ手数料及ヒ運搬等ノ諸費ハ各其適宜ノ大科目ノ運轉上ヨリ生スル益ト差引比較ヲナスヘシ

但通用貨ト通用貨ヲ交換ナシタル費用或ヒハ公債證書及交換紙幣製造費等ノ運轉スヘキ大科目ナキモノハ同局總益金ヲ以差引ヲナスヘシ

第二十四條 國債局ハ毎月末各大科目ヲ區分ナシタル損益ノ報告書及ヒ益金ヲ以損金ヲ補填セシ差引計算報告書等ヲ(甲)乙)整製シ之ヲ翌月十日迄ニ大藏卿ヘ上呈スヘシ

但第十號ノ内物品賣却及ヒ損益明細書ハ每一箇月分宛整製シテ之ヲ國債局ニ保存シ十一

年太政官第一號ノ公達及十一年三月大藏卿ノ達ニ因リ検査官派出ノ際検査ヲ受クヘシ
第二十五條 國債局ノ損益勘定ハ前年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ノ諸損益ヲ比較シタル
明細報告書(甲乙)ヲ整製シ之ヲ該期限ノ翌月十日迄ニ大藏卿ヘ上呈シ且其純益金ハ準備金ヘ
納付スヘシ

第二十六條 國債局ニ於テハ第十四條ノ如ク準備金ヨリ貸與スル處ノ資本金ヲ借り基ニ立テ
而シテ之ニ對シ返納スル所ノ員額ヲ引去リ差引キ未納高ヲ掲載シタル繰換借金受拂勘定帳
ヲ第十二號雜形ニ照シテ整製シ每一箇月大藏卿ヘ上呈シテ決算ヲ請フヘシ

第二十七條 國債局ニ於テハ一周年間ノ殖益金及常用決算殘金ヲ準備金ヘ納付シタルトキハ
之ヲ第十三號雜形ニ照シ收入勘定帳ヲ整製シ其月毎ニ之ヲ大藏卿ヘ上呈シテ決算ヲ請フヘ
シ

第二十八條 前條ノ場合ニ於テ運轉ノ損益ヲ差引比較シ損失ナラハ經伺ノ上繰換借金勘定帳
ノ内損失ノ都ニ組込棄捐ヲ請フヘシ

第二十九條 國債局ヨリ準備金ニ貸出タル金額ハ其返戻ヲナシタルトキ同局ニ於テハ第十四
號雜形ノ勘定帳ヲ整製シ每一箇月之ヲ大藏卿ヘ上呈シテ決算ヲ請フヘシ

但貸出金ノ内金返戻ニテ皆金返戻ニ至ラストモ其返戻ノアル月毎ニ本文勘定帳ヲ上呈ス
ヘシ

第三十條 國債局ヨリ上呈スル處ノ勘定帳ハ必翌月五日間ニ上呈スヘシ(休日ハ)而シテ該勘定
帳ヘ對シタル検査證書ヲ受取置キ末季勘定帳(毎年六月ノ)上呈ノ日ヨリ七日間ニ(休日ハ)大

藏卿ヨリ決算證書ヲ下付スヘシ

明治十三年六月十五日準備金ノ貸付ヲ廢止シ從前貸付セシ者ハ其期限ニ照シテ徵收シ已ムヲ得
サル事故アリテ新ニ貸付ヲ要スルトキ及從前貸付ノ返納延期等ノ處分ヲ爲スノ際ハ太政官ノ稟
決ヲ經ヘキモノトセリ明治十四年四月二十八日太政官達第三十三號會計法ノ制定セラル、ニ及
ヒ準備金ノ收支ニ關シテモ特別ノ規定ナキ者ハ會計法ノ規定ニ據ルコト、ナセリ而シテ同法ニ
於テモ第三條第四條第三十九條第五十一條第五十二條ニ於テ特ニ準備金ニ關スル規定ヲ設ケ歲
計ハ常用準備ノ二ニ大別シ各之ヲ歲入歲出ノ二部トシ準備ノ歲入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス
而シテ準備金ハ其管理ノ規定ニ據リ大藏卿之ヲ管守スル者トシ大藏省ハ毎三箇月準備金ノ收支
國債償還紙幣支消勘定帳ヲ調製シ翌月二十日迄ニ會計検査院ヘ差出スヘク又毎月準備金増減及
種類内譯表ヲ調製シ翌月七日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘキモノトセリ明治十四年八月五日準備
金規則ヲ改定シ準備金ヲ大別シテ準備本部減債部ノ二種トシ準備本部ハ發行紙幣交換ノ豫備金
トシ減債部ハ經常ニ係ル内外國債償還ノ金額ヲ補充スルノ基金トシ互ニ流用スルヲ許サス本部
金ヲ以テ購收セル公債證書ハ減債部ニ賣却スルノ外太政官ノ裁可ヲ得ルニアラサレハ市場ニ賣
却スルヲ許サス大藏卿ハ毎年準備金ノ決算書ヲ調製シ太政官ニ進達スヘキモノトセリ改定準備
金規則左ノ如シ

準備金規則(明治十四年八月五日)

第一條 準備金ヲ大別シテ準備本部ト減債部トノ二種トス

第二條 準備本部ハ發行紙幣交換ノ備金ニシテ減債部ハ減債ノ方ヲ確實速了ナラシムル爲メ

經常ニ係ル國債償還金ノ高ヲ補充スルノ基金トシ兩部金ヲ以テ彼此流用スルヲ得サルモノトス

第三條 準備金ハ大藏卿之ヲ管理シ國債局ヲシテ其事務ヲ調整セシム但シ現金ハ出納局ヲシテ管守セシム

第四條 準備本部金中紙幣ニテ存在スルモノ及ヒ將來收入スヘキモノハ第八條ニ從ヒ大藏卿ニ於テ漸次正貨ニ交換シテ蓄積スヘシ

第五條 準備本部金中營業資本金豫備金其他貸金及ヒ繰替金等ハ漸次之ヲ徵集シ爾後本部金ヲ以テ公債證書金銀地金等ヲ購入シ又ハ一時繰換貸ヲナスヲ得ス但常用ノ歳入ニ先チ歳出ヲ要スルトキ一時繰換ヲナシ及ヒ明治七年九月第九十三號布告舊貨幣ノ交換竝ニ官有鑛山ヲ買入ル、ハ此限ニアラス

第六條 準備本部金ヲ以テ既ニ購入シタル公債證書ハ減債部ニ向テ賣拂フノ外太政官ニ具狀裁可ヲ得ルニアラサレハ市場ニ向テ賣拂フコトヲ得ス

第七條 大藏卿ハ銅貨鑄造ノ爲メ準備本部金中ヲ以テ造幣局ヲシテ銅地金ヲ購收セシムルヲ得第五條交換竝ニ買入ノ取扱モ之ニ準ス但其金額ハ一週年ノ豫算ヲ以テ豫メ太政官ニ開申スヘシ

第八條 大藏卿ハ準備本部金中豫定ノ金額ヲ太政官ヨリ指定スヘキ銀行ニ委託シテ外國荷爲替其他ノ方法ヲ以テ正貨若クハ金銀地金ニ交換ス但銀行ニ本文ノ委託ヲ爲スニ就テノ方法細則ハ特別ノ命令ニ依ルヘシ

第九條 減債基金ハ公債證書ヲ購收シテ收益ヲ計リ其收益金又ハ基金ノ内ヲ以テ經常歳出ニ係ル國債償還金ノ歳額ヲ補充ス

第十條 大藏卿ハ毎月七日限前月中準備金ヲ成立スル所ノ各種ノ貨幣地金公債證書ノ内譯竝ニ其出納ノ現計ヲ太政官ニ報告スヘシ

第十一條 大藏卿ハ前條ノ外毎年準備金ノ決算書ヲ調製シテ太政官ニ進達スヘシ但準備金本部ノ決算ハ毎年度收支ノ現計ヲ以テシ減債部ノ決算ハ各年度所屬ノ收支ヲ以テスヘシ

明治十四年十二月七日準備金取扱順序ヲ制定ス此取扱順序ハ準備金規則ニ基キ之ヲ定メタルモノニシテ準備金一切ノ事務ハ大藏卿ノ命ヲ奉シテ國債局長之ヲ整理シ現金ハ出納局之ヲ管守シ其現金ニ非サルモノ即貸金證書預金證書公債證書株券地券諸料塊等ノ類ハ總テ之ヲ國債局ニ於テ管守スルモノトシ本部減債部ノ事務制限收支及計算ノ科目區分收支ノ豫算收支及ヒ計算決算勘定及諸報告ノ順序等詳細ナル手續ヲ定メタリ準備金取扱順序左ノ如シ

準備金取扱順序 (明治十四年十二月七日)

第一款 總 則

第一條 此取扱順序ハ太政官ノ裁定ヲ經タル準備金規則ニ基キ之レヲ定ムルモノトス

第二條 準備金ニ屬スル一切ノ事務ハ大藏卿ノ命ヲ奉シテ國債局長之ヲ整理ス

第三條 準備金中ノ現金ハ出納局之ヲ管守シ其現金ニ非サルモノ即貸金證書預金證書株券購收

公債證書株式地券諸地金等ノ類ハ總テ之ヲ國債局ニ於テ管守ス

第四條 凡ソ準備金ヲ大別シテ準備本部減債部ノ二種トス

但兩部金ヲ以テ彼此流用スルヲ得ス

第五條 準備本部ハ發行紙幣交換ノ備金ナリ故ニ紙幣ニテ存在スルモノ及ヒ將來收入スル所ノ紙幣ハ漸次正貨ニ交換蓄積スルモノトス

第六條 減債部ハ減債ノ方法ヲ確實速了ナラシムル爲メ經常歲出ニ係ル國債償還金ノ高ヲ補充スルノ基金ナリ故ニ公債證書ヲ購收シテ收益ヲ計リ其收益金又ハ基金ノ内ヲ以テ經常歲出ニ係ル國債償還金ヲ補充スルモノトス

第二款 準備本部事務制限

第七條 準備本部金中ノ紙幣ハ外國荷爲替其他ノ方法ヲ以テ内外正貨若シクハ金銀地金ニ交換ス(其方法規則金額ハ豫定シメ内閣ニ其案ヲ具シテ其外國荷爲替ノ代リ金ハ在外我公使館領事館及ヒ外國銀行(本公文公使館及ヒ領事館銀行等ハ大ニ限ル)へ正貨或ハ金銀地金ヲ以テ預ケ入ヲナシ其預リ證書ヲ以テ最前ノ爲替金ニ對シ返納ノ決算ヲナスヘシ)

但本文返納ノ正貨ハ其時ノ相場ヲ以テ紙幣ニ改算スヘシ(以下正貨(紙幣)ニ依ル)

第八條 前條荷爲替金ニ對シ外國ニ於テ銀行ヨリ返納シタル正貨或ハ金銀地金若シ當初ノ貸出高ヨリ不足スルトキハ内國ニ於テ圓銀ヲ以テ其不足分ヲ返納セシメ又超過スルトキハ逆爲替ヲ以テ代リ紙幣ヲ交付スヘシ

第九條 在外各官廳派出官及ヒ内國人民外國ニ於テ正貨ヲ我公使館又ハ領事官へ預ケ入其預リ證書ヲ以テ逆爲替ヲ請フモノハ内國ニ於テ代リ紙幣ヲ交付スヘシ

第十條 外國債償還及ヒ各廳外國費金拂等ノ爲メ外國へ輸送スヘキ正貨ハ之レヲ準備金へ領

收シ其代リ金ハ外國各所ノ預ケ金(即外國ニ於テ取得タル正貨)ヲ以テ爲替拂ニナスヘシ

第十一條 前條ノ如ク爲替ニナスモ外國預ケ金尙ホ剩餘アルトキハ現物又ハ他ノ爲替ヲ以テ内國へ輸送ノ順序ヲナスヘシ

第十二條 前條々ノ順序ヲ以テ交換シタル内若シ諸地金アルトキハ漸次之ヲ造幣局へ輸送シテ貨幣ニ鑄造シ準備金へ收入蓄積スヘシ

但金地金ハ定型金塊トナス

第十三條 常用ニ於テ歲入ニ先タチ歲出ヲ要スル場合ニ於テハ大藏卿ノ命ニ因テ準備本部金ヲ以テ一時繰換貸ヲナスヘシ

第十四條 國債局ニ於テ金銀銅地金ヲ購收シ定型金塊又ハ成貨トナスヘシ其金額ハ一周年ノ豫算ヲ以テ豫シメ太政官ニ開申スヘシ

第十五條 明治十年四月十六日大藏省乙第十五號達ニ依リ舊藩藩貸下年賦返納等へ公債證書ヲ以テ返納スルモノアルトキハ準備本部金ヲ以テ之ヲ購收スヘシ

第十六條 準備本部金中ニアル公債證書ノ元金及ヒ利息金又ハ株券地券ノ利益金等ハ其期節ニ至テ收入ノ順序ヲナス可シ

第十七條 從前銀行會社其他人民へ貸下ケ又ハ預ケ入タル金員ハ其規約ニ從ヒ元利ヲ徵集シ又準備本部へ預リタル金圓ハ其規約ニ從ヒ元利返戻ノ順序ヲナスヘシ

第十八條 從前貸出タル各廳營業資本及ヒ各廳繰換金ハ漸次常用ヨリ償戻ヲ受クヘク又各廳豫備金ハ漸次各廳ヨリ徵集スヘシ

第十九條 従前預ケ合ヲナシタルモノハ漸次戻シ合ヲナスヘシ

第三款 減債部事務制限

第二十條 減債部金中ニアル公債證書ノ元金又ハ利金ハ其期節ニ至リ受取方ノ順序ヲナスヘシ

第二十一條 毎年經常歳出ニ係ル國債償還ノ補充金ハ其豫算額ニ應シ收益金(又ハ基金)ノ内ヲ以テ常用ヘ繰入方ヲナス可シ

第二十二條 收益金ニ尙ホ殘金アラハ之ヲ基金ニ挿入シ以テ公債證書ヲ購收スヘシ

第四款 收支及計算科目區分

第二十三條 準備金ノ收支ヲ別テ準備本部ノ收支減債部ノ收支ノ二種トス

第二十四條 準備本部ノ收入ハ年度本部ノ歳入ニシテ即常用決算殘金、諸貸出金、預ケ金、公債證書等ノ利子、株券、地券、地金爲替金ノ利益等基本ノ増殖ニ屬スルモノナリ

但爾他收入スルモノアルモ從前支出セシ金額ニ對シ返入スルモノニシテ即諸貸出金及ヒ外國荷爲替ノ返納地金ノ成貨或ハ公債證書當簽元金等ノ類ナリ

第二十五條 減債部ノ收入ハ年度減債部歳入ニシテ即公債證書ノ利子及ヒ差益金ナリ

但爾他收入スルモノアルモ公債證書購收元價ニ對シ返入スルモノナリ

第二十六條 準備本部ノ支出ヲ細別シテ年度本部歳出常用銀行會社及人民各官廳ノ四種トス

(一) 年度本部歳出ハ紙幣製造費、預リ金利子、地金精製費、正貨紙幣交換差損等基金ノ減少ニ屬スルモノナリ

(二) 常用部ハ歳入ニ先チ歳出ヲ要スルトキ一時繰換ヲナスモノナリ

(三) 銀行會社及人民トハ其内銀行ハ外國荷爲替其他ノ方法ニ依リ正貨或ハ金銀地金ニ交換スル基金ナリ又會社人民ハ貸金預ケ金等ナリ

(四) 各官廳トハ其内國債局ハ金銀銅地金買入資本其他ノ各廳ハ營業資本豫備金及ヒ繰換貸等ナリ

但爾他支出スルモノアルモ當初ノ預リ金ヲ返償ノ爲メ支出スルニ止マルモノナリ

第二十七條 減債部ノ支出ヲ細別シテ歳出公債證書購收ノ二種トス

(一) 歳出ハ國債償還金ノ補充トシテ常用ヘ繰入ルルモノナリ

(二) 公債證書購收ハ現金ノ餘裕アルトキ之ヲ購入スルモノナリ

第二十八條 準備本部及ヒ減債部現金ノ出納科目ハ計算科目ヲ兼用ス

第二十九條 準備本部及ヒ減債部ノ計算科目ハ左ノ區分ニ從フ

準備金計算科目

大科	小科	目	釋
基 (貸方之部)	本	準備本部	
		減債部	
年度本部	歳入	諸貸出金、利息、子金、公債證書、利息、子金、及年賦金、利息、子金	

減債部購收諸公債證券
 株券及地券
 各官廳
 營業所管各廳
 在外公館
 外國銀行
 銀行會社及人民
 常用部

起業公債證券	舊公債證券	外國新公債證券	同舊公債證券	前同	正金銀行株券	地	各官廳名稱	各廳ノ區分	在何國公使館	在何國領事館	東洋銀行	何銀行	各銀行名	諸會社名	人民
--------	-------	---------	--------	----	--------	---	-------	-------	--------	--------	------	-----	------	------	----

國債局ニ設置スル明細簿ニハ「國債局」各廳準備金「煉瓦石家屋建築費」預ケ金「貸金」地租改正費「換」等及其名稱ヲ分ツテ記簿スヘシ

營業資本貸之分

外國ニ於テ預ケ金等ノ分

太政官ノ允可ヲ經テ外國ニ於テ預ケ金ヲナス等ノ際此科目ヲ用ユ

國債局ニ設置スル明細簿ニハ「外國爲替貸」貸金「預ケ金」「國貨交換元」地金買上代換換等及其名稱ヲ分ツテ記簿ス

歳入ニ先テ歳出ヲ要スルトキ一時繰換之分

地金鑄造渡造幣局

地金種類ヲ區分ス

第五款 收支豫算

第三十條 準備金收支ノ豫算ヲ分テ準備本部ノ豫算減債部ノ豫算二種トス

第三十一條 準備本部ノ豫算ヲ細別シテ甲號豫算乙號豫算ノ二種トス

(一) 甲號豫算ハ第二十五條第二十七條第一項ニ記載セル事由ニ依リ翌年度間ニ收支スヘキ金額ヲ豫算シ之レカ豫算帳ヲ調製シテ毎年七月一日迄ニ大藏卿へ上呈スヘシ

(二) 乙號豫算ハ第二十五條ノ但書及ヒ第二十七條第二項第三項第四項竝ニ但書ニ記載セル事由ニ由リ翌年度間ニ收支スヘキ金額ヲ豫算シ之レカ豫算帳ヲ調製シテ毎年七月一日迄ニ大藏卿へ上呈スヘシ

第三十二條 減債部ノ豫算ヲ細別シテ復タ甲號豫算乙號豫算ノ二種トス

(一) 甲號豫算ハ第二十六條第二十八條第一項ニ記載セル事由ニ依リ翌年度間ニ收支スヘキ金額ヲ豫算シ之レカ豫算帳ヲ調製シテ毎年十二月二十日迄ニ大藏卿へ上呈スヘシ

(二) 乙號豫算ハ第二十六條但書第二十八條第二項ニ記載セル事由ニ依リ翌年度間ニ收支スヘキ金額ヲ豫算シ之レカ豫算帳ヲ調製シテ毎年七月一日迄ニ大藏卿へ上呈スヘシ

第二十三條 準備本部減債部トモ甲號乙號豫算上呈後ニ至リ若シ其金額増減スルコトアルトキハ其豫算高ヲ追調スヘシ

第六款 收入支出及計算

第三十四條 準備本部及ヒ減債部ノ現金ヲ收支スルトキハ國債局ニ於テ傳票回議ヲ發シ大藏卿ノ決判ヲ受ケ之レヲ國債局記帳濟及要傳票等ノ印ヲ押捺シ且ツ傳票番號ヲ付シテ一般出納順序ヲ爲ンタメ之レヲ調査局ヘ送付スヘシ

第三十五條 前條ノ收支傳票出納局ヘ到達ノ上ハ其各應ニ係ルモノト人民ニ係ルモノトヲ問ハス總テ同局ヨリ國債局ヘ通知シテ金員納拂ノ順序ヲナスヘシ

(一) 收入ノ金員ハ其納入者ヨリ出納局ヘ假納ヲナシ其假納證ヲ以テ國債局ヘ納入スレハ(兼テ兼モノハ同時ニ之ヲ交還スヘシ)同局扱ヲ以テ本納ノ順序ヲナスヘシ

(二) 支出ノ金員ハ國債局扱ヲ以テ通常支出ノ傳票ヲ付シタル後同局ニ於テ證書又ハ抵當物ヲ取り各應或ハ人民ヘ交付スヘシ

第三十六條 國債局ニ管守スル所ノ諸物品ヲ出納スルハ別ニ傳票ヲ要セス其都度國債局ニ於テ其事由ヲ記載シタル回議ヲ發シ大藏卿決判ノ上之レカ出納ヲナシ尙ホ該原議冊ヲ以テ關係局課ヘ記帳ノ爲メ報告スヘシ

第三十七條 外國荷爲替ニ對シ外國ニ於テ收入セシ正貨ハ其都度該荷爲替ヲナシタル銀行ノ爲替基ニ對シ決算ヲナシ更ニ在外公館又ハ外國銀行ノ科目ヘ轉記スヘシ其轉記ノ順序ハ前條ニ同シ

第三十八條 外國ニテ收得セシ正貨ヲ外國債償還拂各應外國費金拂其他ノ爲替ニナストキハ其爲替ノ代リ金ヲ出納局ヘ假納セシメ其假納證書ヲ國債局ヘ收入スレハ同局ニ於テハ直ニ外國預ケ金ヲ拂渡スヘキ立案回議ヲ發シ大藏卿ノ決判ヲ經テ其決議ニ據リ爲替券ヲ製シ國

債局長之ニ捺印シ以テ爲替ノ手續ヲ了シ而シテ後右代リ金本納ノ順序ヲナスヘシ

第七款 決算勘定及諸報告

第三十九條 準備金毎三箇月收支ノ勘定帳ヲ調製シ翌月二十日マテニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

第四十條 前條ノ勘定帳ハ國債局ヨリ一旦大藏卿ヘ上呈シ大藏卿ヨリ調査局ヘ下付シテ精閱セシメ大藏卿之ニ捺印ヲ捺シ國債局ヘ返付アレハ同局ニ於テハ更ニ之ヲ清書シテ會計検査院ヘ送付スヘシ

第四十一條 毎年度準備金ノ決算書ヲ編成シテ前條ノ順序ヲ經テ太政官ヘ差出スヘシ但準備本部ハ現年度ヲ以テ取調減債部ハ年度所屬ヲ以テ取調フヘシ

第四十二條 毎月準備金ノ増減及内譯表ヲ調製シ報告課ヲ經テ翌月七日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘシ

第四十三條 毎年一月七月ニ於テ前六箇月中準備金ヲ成立スル所ノ各種ノ貨幣地金公債證書ノ内譯並ニ其出納ノ現計ヲ調理シ報告課ヲ經テ太政官ニ申報スルノ順序ヲナスヘシ但太政官ノ要メアルトキハ定期ニ拘ハラヌ本條ノ報告ヲ爲スヘシ

明治十四年十一月各省事務章程通則ヲ改定セルヲ以テ更ニ準備金規則中改正ヲ加フルノ必要アリ是ニ於テ同年十二月九日左ノ如ク改正ヲ施セリ

準備金規則 (明治十四年十二月九日)

第一條 準備金ヲ大別シテ準備本部ト減債部トノ二種トス

第二條 準備本部ハ發行紙幣交換ノ備金ニシテ減債部ハ減債ノ方法ヲ確實速了ナラシムル爲メ經常歳出ニ係ル國債償還金ノ高ヲ補充スルノ基金トシ兩部金ヲ以テ彼此流用スルヲ得サルモノトス

第三條 準備金ハ大藏卿之ヲ管理シ國債局長ヲシテ其事務ヲ整理セシム但シ現金ハ出納局ヲシテ管守セシム

第四條 準備本部金中紙幣ニテ存在スルモノ及ヒ將來收入スヘキモノハ第七條第八條ニ從ヒ漸次正貨又ハ地金ニ交換シテ蓄積スヘシ

第五條 準備本部金中營業資本金豫備金其他貸金及ヒ繰換金等ハ漸次之ヲ徵集シ爾後本部金ヲ以テ公債證書ヲ購入シ又ハ一時繰換貸ヲナスヲ得ス尤モ常用ノ歳入ニ先チ歳出ヲ要スルトキ一時繰換貸ヲナシ及明治十年四月大藏省乙第十五號達ニ依リ舊藩藩貸下金年賦返納等ノ廉へ上納シタル公債證書ヲ購入スルハ此限ニアラス

第六條 準備本部金ヲ以テ既ニ購入シタル公債證書ハ重モニ減債部ニ向テ賣拂フヘシ但時機ニ依リ之ヲ市場ニ賣拂フコトヲ得

第七條 大藏卿ハ準備本部金中ヲ以テ國債局ヲシテ明治七年九月第九十三號布告ニ依リ舊貨幣ノ交換ヲナサシメ及正貨鑄造ノ爲メ官私有鑛山ノ出績其他金銀銅地金ヲ購收セシムルヲ得但シ其金額ハ一周年ノ豫算ヲ以テ豫メ太政官ニ開申スヘシ

第八條 大藏卿ハ外國荷爲替其他ノ方法ニ依リ準備金中ノ紙幣ヲ内外ノ正貨若シクハ金銀地金ニ交換スルコトヲ勉ムヘシ但其方法規則金額ハ豫メ内閣ニ其案ヲ具狀シ裁可ヲ得テ之ヲ

定ムヘキモノトス

第九條 大藏卿ハ前條外國荷爲替等ノ方法ニ依リ外國ニ於テ收得セシ準備本部金中ノ正貨ヲ以テ外國債償還金及ヒ各應ノ外國費金ノ爲替拂ニ充用シ又ハ逆爲替ノ方法ニ依リ外國ニ於テ内國人ヨリ正貨ヲ領收シ内國ニ於テ準備本部金中ノ紙幣ヲ交付スルコトヲ得

第十條 減債基金ハ公債證書ヲ購入シテ收益ヲ計リ其收益金(又ハ基金)ノ内ヲ以テ經常歳出ニ係ル國債償還ノ歳額ヲ補充ス

第十一條 大藏卿ハ毎六箇月準備金ヲ成立スル所ノ各種ノ貨幣地金公債證書ノ内譯竝ニ其出納ノ現計ヲ太政官ニ報告スヘシ但太政官ノ要メアルトキハ定期ニ拘ハラヌ本條ノ報告ヲ爲スヘシ

第十二條 大藏卿ハ前條ノ外毎年準備金ノ決算書ヲ調製シテ太政官ニ進達スヘシ但準備本部ノ決算ハ毎年度收支ノ現計ヲ以テシ減債部ノ決算ハ各年度所屬ノ收支ヲ以テスヘシ

明治十五年一月十六日太政官達第五號ヲ以テ會計法ヲ改定セルモ準備金ニ關スル規定ハ別段ノ變更ヲ見ス

準備金ハ從來準備本部及減債部ノ二ニ大別シタリシカ明治十六年一月二十三日準備金中ニ始メテ軍備部ヲ設置セリ是ヨリ曩々明治十五年中陸海軍軍備擴張ノ廟議アルニ當リ大藏卿ハ太政官ノ諮問ニ對シ準備金中新タニ軍備部ヲ置キ造酒煙草等ノ増税金七百五拾萬圓ノ内軍費ヲ支出シ殘贏アル年ハ之レヲ該部ニ移シテ保存シ其不足アル年ハ該部ヨリ支出スヘキ旨ヲ上答シ同年十二月三十日ヲ以テ裁可セラレタルモノナリ今其上答ノ要旨ヲ擧クレハ左ノ如シ

造酒煙草等ノ諸稅額一箇年凡七百五十拾萬圓ヲ收入シ得ヘキ見込ニ有之而シテ軍艦維持ノ儀ハ逐年艦數ノ増加ニ從テ其額相當ニ候ニ付前年ニ有餘ヲ存シ後年ノ不足ヲ補フヘキ一種ノ計畫ヲ要シ且方今ノ如ク内國銀貨缺乏ノ際ニ在テハ海軍卿上請ノ如キ巨額ノ銀貨目下支辨ノ道無之候間新艦製造費ハ先以テ年々通貨參百萬圓ヲ目的トシ其銀貨ヲ要スル分ハ總テ時價交換取計陸兵増加費ハ年々通貨百五十拾萬圓ヲ目的トシ右新艦維持ニ係ル費用及ヒ東京灣砲臺建築ニ關スル一切ノ費トモ前同様ノ振合ヲ以テ増稅金中ヨリ別途支辨候事ニ御決定有之度御裁可ノ上ハ準備金中新ニ軍備部ヲ置キ該七百五十拾萬圓中交付ノ殘額有之卒ハ該部ニ移シテ國庫中ニ管守シ不足ノ年ハ該部ヨリ支出補填スル一法ヲ設ケ而シテ該部ノ金額ハ誓テ陸海軍更張並臨時非常ニ際シ候軍費ノ外一切支出ヲ禁シ云々

明治十六年度以降右上答ノ旨趣ヲ實行シ同年度ニ於テハ増稅金七百五十拾萬圓ノ内軍費ヲ交付シタル殘額百五十拾六萬七千四百拾八圓五拾八錢五厘ヲ軍備部繰入トシテ常用部ヨリ準備金へ繰入レ同年四月十日ヲ以テ軍備部收支取扱方ヲ定メタリ其條項左ノ如シ

第一條 軍備部ハ明治十六年度以降歲計豫算上ニ於テ指定シタル金額ヲ(軍備繰入金)トシテ之ヲ準備金ニ挿入シ以テ蓄積スルモノトス

第二條 從前準備金ハ準備本部及減債部ノ二種ナルニ今之レニ軍備ノ一部ヲ加ヘ總テ準備金ト稱スト雖モ各部皆其性質ヲ異ニスルヲ以テ彼是互ニ流用スルヲ得ス

第三條 歲計豫算上ニ於テ指定シタル金額ヲ準備金中ヨリ陸海軍兩省へ交付スルトキハ軍備部ヨリ支出スルモノトス

第四條 軍備部ハ平時非常トモ陸海軍ノ外ハ一切支出スルヲ得ス

第五條 軍備部へ受入レ及拂出ス金額ハ一切常用ニ於テ收支シ他應ト直接ノ收支ヲ爲ササルヘシ

斯クテ同年十二月十一日準備金中ニ更ニ豫備部ヲ設置セリ蓋シ豫備部ハ國幣非常ノ豫備ニ充ツル爲メ及常用金ノ歳入ニ先チ歳出ヲ要スル場合ノ繰換金ニ充ツルノ二途ニ供センカ爲メ從前常用臨時歳入ノ部ニ編入セシ通常貸付ノ返納金ヲ豫備部ニ繰入レンコトヲ大藏卿ヨリ太政官ニ稟議シ明治十六年十二月十一日裁可ヲ得タルニ始マレリ其稟議左ノ如シ

兼テ準備金ヨリ各廳へ支出相成居候營業資本金及繰換金並諸貸付金等去ル十四年度以來追々常用ヨリ準備へ戻入致シ候儀ハ全ク準備金ヲ充實ナラシメンカタメノ趣意ニ有之而シテ一旦常用ヨリ準備へ戻入致シ候上ハ右營業資本等ノ返納金有之候時ハ常用ノ歳入ニ組入ルヘキハ當然ニ有之候へ共右等巨額ノ金員ヲ其年度へ收入スルトキハ一時歳入ニ餘裕ヲ生シ隨テ溢支ノ弊ヲ醸成スルノ恐ナキ能ハス依テ右返納金ノ處理ヲナスハ今日ニ於テ尤樞要ノ事件ニ有之候ニ付第ト審案候處該金總テ常用へ收入セス直ニ準備金へ挿入シ而シテ更ニ豫備部ノ一部ヲ置テ之ヲ繰入シ一切他用ニ供セス全ク非常ノ豫備ト常用金ノ歳入ニ先チ支出ヲ要スルトキ繰替金ニ充ルトノ二途ニ供シ度存候抑常用金繰換ノ差支候節ハ從來準備金ヲ以テ繰換支辨致シ來候へ共先年該金中ヨリ別ニ減債基金ヲ分置シ又近來正貨幣ヲ收得セン爲メ種々計畫ヲ爲スニ從ヒ紙幣ハ漸次減少シ爲メニ該繰換ニ充用シ能ハサルノ場合モ可有之ニ付豫メ之レカ準備ヲナサ、ル可ラサルハ勿論ニ有之右ニ就テハ既ニ日本銀行ヨリ一時借入金ヲナシ或ハ國庫證

券ヲ發行スルノ目的ニ有之候得共現今ノ景況ニテハ右ヲ以テ充分補足シ得ヘキ譯合ニモ難立
 至去迎先年ノ如ク他ニ支辨ヲ圖リ候ハ最モ不好事ト苦慮罷在候折柄幸該返納金ノアルアリテ
 殊ニ普通ノ歳入ニモ無之候得ハ旁以テ前陳ノ如ク準備金中ノ別儲金ト致シ候ハ、第一準備金
 ヲシテ將來充實ナラシムルノ趣意徹底シ又常用溢支ノ弊ヲ未萌ニ防キ其他非常ノ費途ヲ支ヘ
 常用一時ノ不足金ヲ補充スル等夫是好都合ト存候就テハ從來常用ノ歳入ニ編入致來候通常貸
 付ノ返納金ヲモ來十七年度ヨリ右同様取計申度存候仍テ此段相伺候至急御裁令被下度候也

明治十六年九月十七日

大藏卿 伯爵 松方正義

右ノ如ク準備金中豫備部ノ新設ニ伴ヒ其收支取扱ノ規程ヲ要スルヲ以テ明治十七年三月二十六
 日準備金豫備部收支取扱要領ヲ左ノ如ク定メタリ

準備金豫備部收支取扱要領 (明治十七年三月二十六日)

- 第一條 準備金豫備部ハ準備金基本第四部ニシテ常用ノ支出ニ係ル通常貸付金及元準備ノ支
 出ニ係リ明治十四年度以後漸次常用ノ支出ニ變更セシ別段貸付金ノ返納金ヲ蓄積スルモノ
 トス
- 第二條 通常貸付金ハ分テ救助貸勸業貸外國債代價雜貸官方貸養藩石高貸ノ七種トス
- 第三條 別段貸付金ハ分チテ各廳營業資本各廳繰替金諸貸付金ノ三種トス
- 第四條 通常貸付金及別段貸付金ヲ徵收シ之ヲ豫備部ヘ納付スルノ事務ハ總テ國債局ノ主管
 トス其徵收金ハ常用ノ歳入出ヲ通過セス直ニ豫備部ニ納付ス
- 第五條 豫備部金ハ非常ノ用途ニ供シ及常用ノ歳入ニ先チ歳出ヲ要スルトキニ當リ一時常用

部へ繰換貸ヲ爲スモノトス

此ノ如クシテ明治十六年十二月準備金中ニ豫備部ヲ設置セシ以來明治十八年度ニ至ル迄該部ヘ
 收入シタル諸貸付返納金ノ總計ハ四百壹萬六千貳百四拾四圓七拾六錢七厘ニ至レリ然レトモ常
 用部歳計ニ於テ未タ入ラサルニ先チ出スモノ多キハ大率秋冬五六箇月間ニシテ毎年金額貳千萬
 圓内外ノ繰合ヲ要スヘキ實況ナルニ拘ラズ準備金ハ毎ニ之ニ對スルノ餘裕アルニ非サルヲ以テ
 寧ロ大藏省證券ヲ發行シテ之カ支辨ノ途ヲ開クノ優レルニ若カサルヲ認メ明治十七年九月大藏
 卿松方正義ハ案ヲ具シテ太政官ニ建議セリ其要旨左ノ如シ

國庫ノ收支ハ豫算有之毎務必ス相償フヘキモノニ候得共其入ルヤ定期アリ其出ルヤ虛日ナシ
 故ニ未タ入ラサルニ出スモノ既ニ多ク一時國庫ノ空乏ヲ告ケ大率秋冬五六箇月間金額貳千萬
 圓内外ノ繰合セテ要スルハ年々避クヘカラサル實況ニ有之候尤準備金中ヨリ繰換ヘキ筈ニ候
 得共平常必スシモ之ニ對スル餘裕アルニアラス殊ニ目下歳入ノ増加ヲナスハ即チ歳出ノ増加
 セサル可ラサル故ニ有之歳出多ケレハ右繰合セテ要スル金額モ隨テ多キヲ加ヘ益困難ヲ極メ
 候ニ付篤ト考案處候此場合ニ於テ當省ヨリ定期仕拂ノ證券ヲ發行シ其授受賣買ヲ許シ以テ支
 辨ノ正路ヲ開キ候得ハ管ニ繰合セ金ノ補助ヲ得ルノミナラス自ラ會計上ノ一弊竇ヲ相塞キ可
 申候 (下略)

右建議ハ太政官ノ納ル、所トナリ明治十七年九月二十日遂ニ太政官第二十四號布告ヲ以テ大藏
 省證券條例ヲ發布スルニ至レリ爾後此條例アルヲ以テ復々準備金ハ常用部ヘ繰換貸ヲナスヲ要
 セス隨テ諸貸付ノ返納金モ之レヲ準備金ヘ收入スルニ及ハス直ニ常用部ヘ收入スルコト、爲シ

乃チ明治十七年度歳入出豫算ニ於テ之ヲ歳入ノ部へ編入シタリ而シテ準備金ハ從來一、本部二、減債部三、豫備部四、軍備部ノ四部ニ分チ其收支ヲ異ニシ來リシカ當時既ニ紙幣支消ノ法ニ關シテハ別ニ定ムル所アリ明治十九年一月一日ヨリ正貨ト交換スル事トナリ國債償還ノ法亦別ニ企畫スル所アルノミナラス紙幣交換基金ト爲ス可キ正貨ハ其實準備本部、減債部、豫備部ノ三部ニアル正貨ナルヲ以テ軍備部ヲ除クノ外別ニ三部ヲ區別スルノ必要ナキヲ以テ明治十九年一月二十二日準備金中減債部豫備部ノ二部ヲ準備金本部ニ合併シ準備金ハ準備本部軍備部ノ二ニ大別セリ明治十九年二月二十四日準備金取扱順序ヲ改正シ同年四月一日ヨリ實施スルコト、セリ蓋シ此改正ハ出納順序ノ改正ニ伴ヒ其必要ヲ生シタルモノニシテ準備金ニ屬スル一切ノ事務ハ大藏大臣ノ命ヲ奉シ出納局長之ヲ整理シ現金及ヒ料塊ハ金庫局ニ於テ管守シ諸證書類ハ出納局之ヲ管守ス而シテ日本銀行橫濱正金銀行ヲシテ取扱ハシムル事項ヲ規定シ竝ニ備荒儲蓄課及整理課ニ於テ取扱フヘキ事項ヲ定メタリ即左ノ如シ

準備金取扱順序 (明治十九年二月二十四日)

- 第一條 此取扱順序ハ準備金規則ニ基キ之ヲ定ム
 - 第二條 準備金ニ屬スル一切ノ事務ハ大藏大臣ノ命ヲ奉シ出納局長之ヲ整理スヘシ
 - 第三條 準備金中ノ現金及ヒ諸地金ハ金庫局ニ於テ之ヲ管守シ其現金諸地金ニ非ナルモノ即諸證書類ハ出納局ニ於テ之ヲ管守スヘシ
- 但海外ニ於テ收入スル金員ハ在外公館及外國銀行又ハ橫濱正金銀行倫敦支店等へ預ケ金トス

第四條 左ノ條項ハ基金ヲ日本銀行ニ下渡シ同銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ但其方法細則ハ別段ノ手續ニ因ルヘシ

- 一 正貨交換ノ事
 - 第十八國立銀行三井物産會社等ヨリ金銀貨ヲ交換收入スルコト
 - 造幣規則ニ因リ造幣局ヨリ發行シタル成貨拂渡證書ニ對シ其成貨ヲ拂渡スコト
- 二 諸地金購入及造幣局へ輸入ノコト
 - 官礦產出ノ金銀銅地金ヲ購入スルコト
 - 第一國立銀行第三國立銀行及其他地金商等ヨリ金銀地金舊貨幣ヲ購入スルコト
 - 前諸項中金銀分ハ政府輸入地金トシテ造幣局へ輸入シ銅地金ハ大藏省ノ達ニ隨ヒ處分スルコト

第五條 左ノ條項ハ基金ヲ橫濱正金銀行ニ下渡シ同銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ但其方法細則ハ別段ノ手續ニ因ルヘシ

- 一 海外荷爲替ノ事
 - 十五年二月十三日太政官裁可ノ海外爲替金取扱規程ニ因テ爲替取組ノ事
 - 右荷爲替金海外ニ於テ返納通知ヲ得テ返納決算ヲナスコト
- 二 正貨交換ノ事
 - 金銀貨幣ヲ交換取得スルコト
 - 造幣局發行ノ成貨拂渡證書ヲ割引購入シ造幣規則ニ基キ其證書ヲ以テ日本銀行ニ就キ

成貨ヲ受取ルコト

- 三 諸地金購入及造幣局へ輸入ノコト
- 四 在外公館及外國銀行預ケ金ノ内若干ヲ預リ又領事ノ指揮ニヨリ右預ケ金ヲ以テ爲替若クハ地金ヲ購入シテ本邦へ回送ノ手續ヲナスコト
- 五 購入外國七歩利付公債證書ノ保存及之レニ係ル元利收入ノ取扱ヲナスコト
- 第六條 左ノ條項ハ備荒儲蓄課ニ於テ之レヲ取扱フヘシ
 - 一 米穀ヲ購入シテ海外ニ輸出版賣シ其代金ヲ在外公館へ預ケ入ル、コト
 - 二 北海道税品昆布ヲ購入シテ前項ノ手續ヲナスコト
- 第七條 左ノ條項ハ整理課ニ於テ之レヲ取扱フヘシ
 - 一 準備金直接貸地金買入代先渡荷爲替貸等ノ未納金ニシテ年賦返納ヲ許可シタルモノ及ヒ豫備金ヲ徴收スルコト
 - 二 諸證券(株券)ノ取扱ヒヲ爲スコト
- 第八條 日本銀行及橫濱正金銀行ニ於テ取扱フヘキ條項ハ總テ出納局ニ於テ之レヲ審査シ備荒儲蓄課及整理課ニ於テ取扱フヘキ條項ハ總テ同局ニ於テ之レヲ整理スヘシ
- 第九條 時機ニヨリテハ出納局ニ於テ直接ニ海外預ケ金ノ爲替拂ヲ爲シ又ハ銀地金ヲ購入スルコトアルヘシ
- 第十條 在外國官民ニ於テ外國貨幣ヲ在外公館へ納入シ其逆爲替ヲ以テ代リ金ヲ請求スルトキハ之レカ仕拂ヲナスヘシ

第十一條 第四條第二項第五條第三項第四項ニ掲クル諸地金ノ金分ハ定型金塊銀分ハ銀貨ニ鑄造シ銅地金ハ或ハ銅貨ニ鑄造シ又ハ賣拂フヘシ

第十二條 都テ造幣局ニ輸入シタル諸地金ニ對シ又ハ第四條第一項第二ノ手續ニ因リ收入シタル造幣局成貨或ハ金塊拂渡證書ハ期限ニ至リ該局ヨリ成貨及金塊ノ受取方ヲナスヘシ

第十三條 準備金整理上ニ關スル海外電信料其他ノ費用ハ準備金ヨリ支出スルコトヲ得ヘシ

第十四條 紙幣交換基金ヲ日本銀行へ交付ノ爲メ之レヲ金庫局へ渡スヘシ

第十五條 常用其他國庫金ニ對シ金繰ノ都合ニモ關スル貸借ハ之レカ取扱ヒヲナスヘシ

第十六條 準備金收入及支出取扱方ハ別段ノ順序ヲ以テ之ヲ定ム

右ノ如ク出納計算法ノ改正ニ基キ準備金取扱順序ヲ改メタルヲ以テ明治十九年三月二十六日準備金收支順序ヲ定メ準備金收入支出ニ關スル取扱方ノ細則ヲ定メ同年四月一日ヨリ實施スルコト、爲セリ即左ノ如シ

準備金收支順序 (明治十九年三月二十六日)

- 第一條 準備金ノ支出ハ主務局ニ於テ支出伺書ヲ仕出し出納局(配賦課) (總務局備荒儲蓄課及整理課ニ於テ取扱フモノ) 及主計局(雜種金課)ニ合議シ大藏大臣ノ決裁ヲ請フヘシ
- 第二條 前條支出伺書決判ヲ經タルトキハ之レヲ主計局(雜種金課)ニ送付シ同局ハ要傳票ノ爲メ更ニ之レヲ出納局(配賦課)ニ送付シ同局ヨリ總務局(傳票課)へ送付スルモノトス
- 第三條 總務局(傳票課)ニ於テ前條ノ決議冊ヲ得レハ支出傳票ヲ作り之レヲ金庫局へ送付シ同時ニ其行主務局へ命令スヘシ而シテ其原議冊ハ主計局主簿課へ送付スルモノトス但同局ニ

於テハ整理簿登記ノ後チ之ヲ記録局ヘ送付スルモノトス

第四條 主務局ニ於テ第三條ノ命令ヲ得レハ實際金圓ヲ任拂フ爲メ任拂切符(第一號)ヲ製シ其案内書ハ金庫局ヘ送付シ本切符ハ受取人ヘ交付スヘシ (但主務局切符ヲ發シタルトキハ出納局準備金課ヘ送付スヘシ)

第五條 金庫局ニ於テ前條ノ案内書ヲ得タルトキハ第三條ノ傳票ニ照シ又受取人任拂切符ヲ持參セハ之レヲ案内書ニ照シテ現金ヲ任拂ヒ日々報告書(第二號)ヲ作り出納局(配賦課)及主計局(主簿課)ヘ送付スルモノトス

第六條 主計局主簿課ニ於テハ前條ノ報告ヲ得テ原簿以下ノ帳簿ニ騰記シ又出納局(配賦課)ニ於テモ記帳スルモノトス

第七條 諸地金ヲ支出スルニ付テモ亦第一條第六條マテノ手續ニ準スルモノトス

第八條 準備金ノ收入ハ主務局ニ於テ上納書(第三號)ヲ製シ甲乙丙號ヲ納金者ニ交付スヘシ

第九條 納金者ハ前條ノ納金書ヲ現金ニ添テ金庫局ニ上納シ金庫局ニ於テハ該書ノ甲乙號ニ檢印シテ納金者ニ交付シ丙號ハ留置クモノトス

第十條 納金者ハ前條金庫局ヨリ返付ノ上納書甲號ヲ自己ニ收受シ乙號ハ主務局ニ送付シテ決了スルモノトス

第十一條 金庫局ニ於テ第九條ニヨリ現金ヲ受取リ日々報告書(第四號)ヲ作り出納局(配賦課)及主計局(主簿課)ヘ送付スルモノトス

第十二條 出納局(配賦課)及主計局(主簿課)ニ於テ前條ノ報告ヲ得テ記帳スルハ第六條ニ同シ

第十三條 主務局ニ於テ第十條上納書乙號ヲ得タルトキハ納金整理上申書ヲ作り主計局(雜種金課)ニ合議(總務局備荒儲蓄課及整理課ニ於テ發スル)シ大藏大臣ノ決判ヲ經タル上(總務局備荒儲蓄課及整理課ニ於テ發シタルモノハ)主計局(主簿課)及出納局(配賦課)ニ送付スヘシ但主計局(主簿課)及出納局(配賦課)ニ於テ本文ノ決議書ヲ得レハ第十一條ノ報告ニ照查シ了テ之ヲ記録局ニ送付スルモノトス

第十四條 諸地金ノ收入ニ付テモ亦第八條ヨリ第十三條マテノ手續ニ準スルモノトス

第十五條 海外ニ於テ收入ノ金圓ヲ在外公館及外國銀行ヘ預ケ入ル、モノハ該館ノ領收證票等ニ因リ主務局ニ於テ納金整理上申書ヲ作り出納局(配賦課)ニ合議シ(總務局備荒儲蓄課及整理課ニ於テ發シタルモノハ)大藏大臣ノ決判ヲ請フヘシ

第十六條 前條上申書決判ノ上(總務局備荒儲蓄課及整理課ニ於テ發ス)出納局(配賦課)ニ送付シ同局ニ於テ記帳ヲ了シ主計局(主簿課)ヘ送付シ同局ニ於テ記帳ノ上該原書ハ記録局ニ送付スルモノトス

第十七條 金庫ノ出納ニ關セスシテ甲科目ヨリ乙科目ニ轉記スルモノハ關係銀行等ノ報告ニ因リ伺書ヲ作ル等第十五條第十六條ニ準スヘシ

第十八條 海外預ケ金並諸地金等ヲ本邦ヘ取寄スルトキハ出納局ニ於テ之カ命令案ヲ作り大臣ノ決判ヲ得テ在外公館或ハ銀行等ニ命令シ其現金及地金ハ金庫局ヘ送致セシメ其計算書ハ出納局(準備金課)ニ送付セシムルモノトス但金庫局ニ於テハ出納局(準備金課)ヨリ上納書ヲ得ル迄ハ保護預リトスルモノトス

第十九條 出納局(準備金課)ニ於テ前條ノ計算書ヲ得タルトキハ精算ヲ了シ第八條ノ上納書ヲ製シ金庫局ヘ送付シ金庫局ニ於テ其上納書ヲ得テ現金及地金ヲ收入シ該書ノ甲乙號ニ檢印シテ出納局(準備金課)ニ返付スルモノトス

第二十條 前條ノ順序ヲ了シタル後金庫局主計局出納局ハ尙第十一條第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 又在外公館ヲシテ毎月二回電報ヲ以テ收入金額(計概)ヲ出納局(準備金課ニ受ケ)ヘ報告セシメ同局ニ於テ別段ノ帳簿ニ記帳シテ實際ノ在高ヲ知ルニ便スルモノトス

第二十二條 主計局主簿課ニ於テハ日計表(國庫原簿)ヲ作り日々大藏大臣ヘ上呈スルモノトス但出納局(配賦課)ニ於テモ日計表(國庫原簿)ヲ作り主計局(主簿課)ト照合スルモノトス

第二十三條 準備金收支ニ係ル計算科目ハ別表(第一)ニ因ルヘシ

第二十四條 主務局ニ於テハ實際事務ノ調理スルタメ明細簿ヲ設ケ準備金ノ運換ヲ明瞭ナラシムヘシ但本條記帳ハ別表(第二)ノ帳簿科目ヲ以テ明瞭記載シ毎土曜日ノ殘高ヲ以テ計算表ヲ作り主計局(主簿局)ノ計表ニ照合スヘシ

準備金 計算科目 基本

諸 (貸方ノ部)

貸金及預ケ金 利息

本 部
軍 備 部
各 年 度 紙 幣 銷 却 元 資
爲 營 金 先 收

諸 先 收 金

正貨交換差益	諸地金類益	輸出品諸益	公債證券利子及當元金差益	地所家屋費下料	株券收入	米穀賣拂代先收	昆布同上	地金同上	銀金塊	外銀塊	金銀混合地塊	官銀塊	官銀塊	同金銀混合地塊	舊金幣	外銀幣	官銀幣	丁銀幣	第一精煉銅	
(借方ノ部) 損	諸	諸	紙幣交換基	諸地金	紙幣交換基	諸	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館
正貨交換差損	諸地金類損	輸出品諸損	紙幣交換基	天型保金塊	雜種地金	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館	在 外 公 館

第三章 金銀銅地金ノ購收及賣却

第一節 舊金銀貨幣ノ購收

準備金ヲ以テ金銀地金類ヲ購收スルニ至リタルハ專ラ正貨蓄積ノ主意ニ出テタル者ニシテ明治五年六月創設ノ準備金規則第五條ニ之カ規定ヲ設ケ準備金ハ臨時ノ價格ヲ較計シテ專ラ金銀地金又ハ古金銀又ハ在來通貨ノ類又ハ洋銀類ヲ購入シ或ハ之ヲ精製シテ新貨ニ鑄造シ或ハ之ヲ常用ニ賣却シテ其増殖ヲ勉ムヘキ旨ヲ定メ同六年十二月二日改正ノ同規則第十五條第二十一條同八年五月十五日改正ノ同規則第十九條第二十三條同九年五月五日改正ノ同規則第二十六條第三十一條同十年七月十一日改正ノ同規則第十六條第二十二條同十一年七月一日改正ノ同規則第十條同十四年八月五日改正ノ同規則第五條第七條及同十四年十二月九日改正ノ同規則第四條第七條第八條ニモ前同様ノ規定ヲ設ケ内國官私鑛山產出ノ金銀人民所有ノ地金及舊金銀貨幣類ヲ始メトシ造幣局貨幣拂渡證書(人民ヨリ金銀地金ノ造幣局ヘ輸入シ貨幣ノ鑄造ノ請ヒタルトキ試驗メトシ造幣局貨幣拂渡證書ノ上其成貨高ヲ定メ造幣局現貨ノ交付マテ輸入人ヘ下付シ置ク證書)竝ニ外國產出ノ金銀地金等ヲモ購入スルコト、セルニ基クモノナリ

而シテ舊金銀貨幣ハ新貨ニ改鑄ノ爲メ地金トシテ之ヲ取扱ヒタルモノニシテ明治七年九月五日太政官第九十三號布告ヲ以テ舊金銀貨幣價格表ヲ頒布シ尋テ同十五日大藏省第九十三號達ヲ以テ舊金銀貨幣引換手續ヲ定メ府縣豫備金ノ内ヲ以テ舊貨ト交換シ其代リ金ハ追テ大藏省ヨリ受取ルヘキコト、定メ斯クテ引換タル舊金銀貨幣ハ之ヲ準備金中へ受入レタルモノナリ右太政官布告竝ニ舊金銀貨幣引換手續左ノ如シ

布告第九十三號 (明治七年九月五日)

明治六年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除クノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候此旨布告候事

舊金銀貨幣價格表

今般舊金銀貨幣價格比較表ヲ製シ以テ偏ク天下ニ頒布スル所以ノモノハ金銀舊貨ノ猶民間ニ散布藏匿シテ改鑄ヲ得サルモノ少カラス大ニ貨幣ノ眞理ヲ失ヘル事ヲ懼レテナリ雖ニ戊辰ノ始メ官風ニ貨幣取調書ヲ頒布シ廣ク世ニ公ニスト雖モ其事皆造幣開業以前ノ舉ニ係リ一時在來舊貨幣ノ標準ヲ立ツル迄ニテ其依ル所ノモノハ當時通用貳分判壹兩ヲ以テ主本トナシ比例ヲ立テ價位ヲ定ムルモノニシテ今日發行ノ本位貨幣ニ比スレハ其金銀純分ニ至リテ稍増加アルヲ免レス試ミニ貳分判百兩ヲ取り精製鑄造スルニ其費用ヲ除キ去リ猶ホ平均八圓内外ノ剩差ヲ生スルヲ以テ自然其價格モ一定セス民間ノ賣買實際疑惑ヲ生シ或ハ舊貨幣ヲ以テ非常高價ノモノト心得一意ニ之ヲ庫中ニ藏匿シ通貨ノ利用ヲ閉チ貿易ノ能力ヲ失ハシム依テ今般造幣寮ニ於テ再ヒ慶長以下大小各種ノ舊貨幣ヲ集メ一切精密ニ試驗分析シ各種毎ニ其品位量目ヲ詳ラカニシ本位壹圓金貨ヲ以テ主本トナシ各其價格ヲ定メ更ニ別冊ノ通價格比較表ヲ製セリ就テハ自今舊貨幣ヲ儲藏スルモノハ右比較ヲ標的トシ速ニ改鑄スヘシ如シ夫レ其身僻遠ノ地ニ在ル歟又ハ其儲フル所ノモノ少數ニシテ改鑄ニ便ナラサルモノ等ハ今般布告ノ旨ニ隨ヒ

一切政府ノ公納ニ換用シ或ハ通用貨幣ト交換シ空シク庫中ニ藏匿セシムルノ弊ヲ除キ去リ世ノ有用ヲ妨害スル勿ルハシ猶丁銀小玉銀ノ如キアリト雖モ量目品位難驗ニシテ一定セス隨テ一個ノ價格ニ至リ各不同ヲ生シ豫メ之ヲ定メ難シ故ニ比較表中ニ不掲候條一般ノ地金ト見做シ可申此旨相達候也

明治七年八月

大藏卿 大隈重信

凡例

- 一 表中ノ上段ニ各種ノ舊貨幣一個ノ價ヲ掲載スルハ凡テ舊貨幣ヲ公納シ或ハ兌換スルニ當リ爾來兩分朱ノ呼稱ヲ廢シ個數ヲ以テ算スレハナリ
- 一 表中ノ下段ハ舊貨幣ノ量目品位及ヒ改鑄ノ費用ヲ詳明ニシ之レヲ新貨幣ト比較シ價格ノ由ツテ出ツル所ヲ瞭然タラシム
- 一 量目ニ用ユル一匁ハ凡ソ我八分八厘ニ當ル如シ新舊貨幣ノ價格ヲ計算セント欲セハ其詳カナルハ新貨條例ニ就キ參考スヘシ

慶長小判 一個	拾〇圓〇六錢四二	慶長小判拾兩量目五匁七二二六二	金八五六・九
		武藏壹分判拾兩量目五匁七二二六二	銀一四二・五
		內金四匁八九五一四	銀〇〇〇・六
		內銀〇匁八一四〇五	
		此新貨百〇貳圓五拾四錢九八四	
武藏壹分判 一個	貳圓五拾壹錢六〇	七拾六錢九一二	精製分析料
		內金四匁八九五一四	造幣料
		內銀〇匁八一四〇五	試驗分析料
		拾〇錢二五五	
		殘百〇〇圓六拾四錢二二四	

元祿小壹分判 一個 六圓八拾六錢五七
貳朱判 一個 四圓七拾五錢八二

元祿金小壹分判 拾兩量目五号七一二五二
貳朱判
內 金三号二二三四三 位千分中 金五六四、九
銀一号四六七二四 雜 〇〇四、九
此新貨六拾九圓九拾八錢三九一
內 五拾貳錢四八八 費用前ニ同シ
六 七拾壹錢一四七
六 九 九 九 八

殘六拾八圓六拾五錢七五八

乾字小壹分判 一個 五圓拾五錢六五
壹圓貳拾八錢九一

乾字金小壹分判 拾兩量目三号〇〇二四二
內 金二号五〇三一八 位千分中 金八三四、〇
銀〇号四九六七三 雜 〇〇六、五
此新貨五拾貳圓五拾四錢三〇八
內 五拾壹錢一八〇 費用前ニ同シ
五 錢二五五

殘五拾壹圓五拾六錢四六六

享保小壹分判 一個 拾〇圓拾壹錢五六
貳圓五拾貳錢八九

享保金小壹分判 拾兩量目五号六七九五二
內 金四号九二四一四 位千分中 金八六七、五
銀〇号七五二五四 雜 〇〇〇、五
此新貨百〇參圓〇七錢二四七
內 七拾七錢三〇四 費用前ニ同シ
拾 圓〇四錢〇三七
七 〇 〇 〇 七
殘百〇壹圓拾五錢五九九

元文小壹分判 一個 五圓七拾五錢八九
壹圓四拾壹錢九七

元文金小壹分判 拾兩量目四号一九六一四
內 金二号七四〇九二 位千分中 金六五三、二
銀一号四四八九三 雜 〇〇一、五
此新貨五拾八圓六拾九錢二七四
內 四拾四錢〇二〇 費用前ニ同シ
五 六拾〇錢五五一
五 錢八七〇
殘五拾七圓五拾八錢九三三

文政貳分判 一個 貳圓五拾貳錢三六

文政貳分判 拾兩量目四号二〇五九二
內 金二号三六七九三 位千分中 金五六三、〇〇
銀一号八二九五七 雜 〇〇二、〇〇
此新貨五拾壹圓四拾四錢七二五
內 五拾壹錢七八五 費用前ニ同シ
五 錢一四四
殘五拾〇圓四拾七錢二〇三

文政小壹分判 一個 五圓〇貳錢九三
壹圓貳拾五錢七三

文政金小壹分判 拾兩量目四号二一五一〇
內 金二号三五七九三 位千分中 金五五九、四
銀一号八四八七四 雜 〇〇二、〇
此新貨五拾壹圓貳拾六錢四四八
內 五拾壹錢六三四 費用前ニ同シ
五 錢一二六
殘五拾〇圓貳拾九錢二四〇

壹朱金 一個 拾六錢〇一

一朱金拾兩量目七号一五〇〇〇
內金〇号八八〇一六 位千分中 金一二三、一
銀六号三四九一〇 銀八七四、〇
此新貨貳拾六圓貳拾六錢二六七
內參拾七錢五七六 費用前二同シ
貳拾四錢二七四 錢六二六
殘貳拾五圓六拾壹錢七九一

文政貳分判 一個 貳圓貳拾貳錢二七

文政貳分判拾兩量目四号二〇九五六
內金二号〇五二五八 位千分中 金四八七、六
銀二号一五二〇八 銀五〇一、四
此新貨四拾五圓參拾貳錢〇二九
內參拾參錢九九〇 費用前二同シ
四拾八錢〇七八 錢五三二
殘四拾四圓四拾五錢四二九
保字トモ云
天保金小判拾兩量目三号六一二二一四
內金二号〇四九八九 位千分中 金五六七、五
銀一号五五八六四 銀四三一、〇
此新貨四拾四圓五拾〇錢四九四
內參拾參錢三七九 費用前二同シ
四拾六錢五〇三 錢四五
殘四拾參圓六拾六錢一六一

天保小判 一個 四圓參拾六錢六二

古貳朱金 一個 參拾六錢四五

古貳朱金拾兩量目四号一九八九四
內金一号三五二九六 位千分中 金二九八、四
銀一号九三八八四 銀六九九、九
此新貨貳拾九圓七拾四錢九三二
內參拾參錢三二二 費用前二同シ
貳拾貳錢九七五
殘貳拾九圓拾六錢一三一

五兩判 一個 拾八圓七拾〇錢四四

五兩判一枚量目一号〇八四六二
內金〇号九〇八三七 位千分中 金八三七、五
銀〇号一七四〇八 銀一六〇、二
此新貨拾九圓〇五錢九二六
內拾四錢二九四 費用前二同シ
拾九錢二八二 錢九〇六
殘拾八圓七拾〇錢四四四
正字トモ云

安政小判 一個 參圓五拾〇錢五二

安政金小判拾兩量目二号八九〇一〇
內金一号六四六四九 位千分中 金五六九、七
銀一号二二七五四 銀四二八、二
此新貨參拾五圓七拾貳錢八三五
內參拾六錢七九六 費用前二同シ
參拾七錢三一五 錢五七三
殘參拾五圓〇五錢一五一

安政貳分判 一個 九拾五錢〇三

安政貳分判拾兩量目一号六二六八九

內金〇号七五八七六 位千分中 銀七〇九二

此新貨拾九圓四拾〇錢一二四

內拾四錢五五一 費用前ニ同シ

殘拾九圓〇〇五六四

新小判拾兩量目一号〇六八九四

內金〇号六一三三四 位千分中 銀五七三六

此新貨拾參圓貳拾九錢五二七

內拾九錢九七一 費用前ニ同シ

殘拾參圓〇四錢三五五

新貳朱金拾兩量目一号九三二八二

內金〇号四四三八五 位千分中 銀七六九〇〇

此新貨拾壹圓拾壹錢四六六

內八錢三三六 費用前ニ同シ

殘拾〇圓八拾八錢九九三

新小判 一個 壹圓拾〇錢四三

安政貳分判 一個 九拾五錢〇三

新貳朱金 一個 拾參錢六一

新貳分判拾兩量目一号九三二六九四

內金〇号四四二五九 位千分中 銀七六九〇五

此新貨拾壹圓〇八錢八五三

內拾參錢三一六 費用前ニ同シ

殘拾〇圓八拾六錢四二八

新貨大判一枚量目五号三二〇六七

內金三号五七五四九 位千分中 銀六六二〇〇

此新貨七拾六圓拾四錢七三九

內七拾八錢一五三 費用前ニ同シ

殘七拾四圓七拾壹錢八六二

元祿大判一枚量目五号三〇九〇四

內金三号七六六五四 位千分中 銀四四八〇四

此新貨六拾〇圓四拾壹錢九二九

內六拾五錢三一四 費用前ニ同シ

殘五拾九圓貳拾七錢一〇二

新貳分判 一個 五拾四錢三二二

元祿大判 一個 七拾四圓七拾壹錢八六

元祿大判 一個 五拾九圓貳拾七錢一〇

新大判 一個 貳拾八圓貳拾六錢六八

新大判一枚量目三号六二九八九

內金一号二四六八七 位千分中 金三四三、五
銀二号三三〇三三 銀六三九、二
雜〇一七三

此新貨貳拾八圓八拾貳錢九八八

內參拾壹錢六二二 費用前ニ同シ
貳拾壹錢八〇四 錢八八二

殘貳拾八圓貳拾六錢六八〇

安永貳朱銀拾兩量目二十六号二四九八三
內銀二十五号六五九二一 位千分中 銀九七七、五
雜〇三二、五

此新貨參拾貳圓八拾九錢六四二

內六拾五錢七九三 錢二九〇

鑄造料
試驗分析料

殘參拾貳圓貳拾〇錢五五九

文化貳朱銀拾兩量目十九号三三七二九

內銀十八号九二八七 位千分中 銀九七八、〇
雜〇三二、〇

此新貨貳拾四圓貳拾四錢五九九

內四拾八錢四九二 錢四二四

費用前ニ同シ

殘貳拾參圓七拾參錢六八三

文政壹朱銀拾兩量目十三号五三一一九

文政壹朱銀 一個 拾〇錢三五

內銀十三号一八九五五 位千分中 銀九七四、七
雜〇三二、三

此新貨拾六圓九拾〇錢九六七

內參拾參錢八一九 錢六九一

費用前ニ同シ

殘拾六圓五拾五錢四五七

古壹分銀 一個 參拾四錢七〇

古壹分銀拾兩量目十一号一五四三三
內銀十一号〇五八四二 位千分中 銀九九一、六
雜〇〇八、六

此新貨拾四圓拾七錢七四六

內貳拾八錢三五五 錢四一八

費用前ニ同シ

殘拾參圓八拾七錢九七三

壹朱銀 一個 七錢四〇

壹朱銀拾兩量目九号七四五三五
內銀九号四三一五九 位千分中 銀九六七、八
雜〇三二、二

此新貨拾貳圓〇九錢一七三

內貳拾四錢一八三 錢二〇九

費用前ニ同シ

殘拾壹圓八拾參錢七八一

壹分銀 一個 參拾壹錢一七

壹分銀拾兩量目十一号一二五〇四
內銀九号九三四六六 位千分中 銀八九三、〇
雜一〇七、〇

此新貨拾貳圓七拾參錢六七四

內貳拾五錢四七三 錢二七四

費用前ニ同シ

殘拾貳圓四拾六錢九二七

安政貳朱銀 一個 四拾六錢五一

安政貳朱銀拾兩量目二十五号一〇二五〇

内銀二十九号六四七五七位千分中 銀八四四六

此新貨參拾八圓〇〇九七〇

銀一五五、四

内七拾六錢〇一九 費用前ニ同シ

參銀八〇一 殘參拾七圓貳拾錢一五〇

舊金銀貨幣引換手續

大藏省第九十三號達 (明治七年九月十五日)

府

縣

今般太政官第九十三號公布ヲ以テ舊金銀貨幣價格比較表御頒布相成候ニ付テハ右ノ價格ニ基
キ諸公納竝ニ交換等勝手タルヘク候處動スレハ從來ノ風習ニ拘泥シ舊貨ノ質分何物タルヲ了
知セス非常高價ノモノト心得往々人民ノ庫中ニ埋没シ之レカ爲メ世上ノ公益ヲ妨ケ候モ之レ
アリ或ハ新貨ニ改鑄致度モノモ其身僻遠ノ地ニ住シ其手續ノ不便モ之レアリ又ハ些少ノ金高
ナルヨリ遂ニ止ムヲ得ス儲蓄スルノ類モ鈔カラス總テ右等ノ向ハ各地方官ニ於テ厚ク注意シ
其利害得失懇々説諭シ無差支交換等取計ヒ可申候尤右交換ニ付テハ別段準備相設ケ候儀ニハ
及ハス各府縣豫備金ノ内ヲ以テ夫々取計ヒ可申依之別紙手續書相添ヘ此旨相達候事

但右交換ノ儀ニ付テハ専ラ人民ノ便利ヲ要シ候儀ニ付大數ノ分ハ其府縣ノ都合ニ依リ其趣
申立候トモ差支之ナキ様取計可申小數ノ分ニ至リテハ眞贋見分ケ候上ハ速ニ引換遣スヘク
之カタメ手數ヲ厭ヒ引換ヲ拒ミ候等ノ儀無之様精々注意可致且亦丁銀小玉銀ノ儀ハ量目品

位等難駁ニシテ一定セス隨テ一個ノ價格ニ至リ各不同相生シ取極メ難ク候間右價格比較表
ニ記載之ナク候尤人民ニ於テ右丁銀所持ノ向ハ地金ト見做シ取扱候儀ハ苦シカラス候得共
公納交換等へ相用候儀相成ラス候條地方官ニ於テ篤ト注意シ如シ右様ノ向之アル節ハ精々
説諭ニ可及候事

舊金銀貨幣引換手續書

第一條 租稅其外諸公納ニ舊金銀貨幣相用上納候節ハ直ニ其地方廳へ差出スヘシ地方廳ニ於
テハ銀行又ハ爲替方へ申付納人目前ニ於テ檢査ノ上價格表ニ照ラシテ領收スヘシ

但右檢査竝包換等ノ手數料ニ限リ地方廳ニテ豫備金ノ内ヲ以テ立換ヘ其上納金千分ノ一
則百圓ニ付拾錢ノ割ヲ以テ銀行又ハ爲替方へ下ケ渡シ其所得トナサシム可シ

第二條 諸公納ノ外新貨ト交換致シ度望ミノ者ハ是又地方廳へ差出シ第一條手續ノ通り檢査
ノ上豫備金ノ内ヨリ繰換置キ引換遣ス可シ

但此手數料ハ前條ノ割合ヲ以テ持主ヨリ出サシム可シ

第三條 檢査ノ上若シ贋物不正ノ舊金銀貨幣之アル節ハ撮出シテ持主へ下ケ戻スヘシ若シ持
主ヨリ精製分析ヲ願フトキハ造幣規則ニ從テ造幣寮へ差出サスヘシ

第四條 若シ一時ニ多數交換申出豫備金ノ内ニテ引換差支候節ハ其趣大藏省へ申立速ニ引換
方取扱フヘシ

第五條 地方廳ニ於テ領收セン舊金銀貨幣ハ諸公納ノ分ト雖豫備金ニテ繰換普通ノ貨幣ヲ以
テ成規ノ通り上納致シ追テ諸公納ノ分交換ノ分トヲ區別シ明細帳ヲ以テ毎三箇月ニ東京府

外二十六縣ハ東京第一國立銀行京都府外一府三十四縣ハ大阪出張支店へ送致スヘシ
但送致ノ期限竝ニ部分概別スト雖モ若シ期限中餘分ノ金高ニ至リ候節ハ臨時相納メ且府
縣ノ都合ニ依リ東京大阪何レニテモ時宜次第送致方取計フヘキ事

東京第一國立銀行へ送致ノ部

東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 茨城縣 足柄縣 千葉縣 新治縣 熊谷縣 栃木縣
濱松縣 静岡縣 山梨縣 筑摩縣 長野縣 宮城縣 福島縣 磐前縣 山形縣 置賜縣
岩手縣 青森縣 若松縣 水澤縣 酒田縣 秋田縣 相川縣
大阪出張支店へ送致ノ部

京都府 大阪府 兵庫縣 長崎縣 奈良縣 堺縣 三重縣 度會縣 愛知縣 滋賀縣 岐
阜縣 敦賀縣 石川縣 新川縣 豐岡縣 鳥取縣 島根縣 濱田縣 飾磨縣 北條縣 岡
山縣 小田縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 名東縣 高知縣 愛媛縣 福岡縣 三浦縣
小倉縣 大分縣 佐賀縣 白川縣 宮崎縣 鹿兒島縣

第六條 送致ノ後若シ不足或ハ賸物不正ノ舊金銀貨幣混入セルアレハ銀行又ハ爲替方ニ於テ
辨納セシムル儀ト可相心得事

第七條 右第一條手数料第二條第五條採換金其他送致ノ入費等都テ豫備金ノ内ニテ立換置キ
明細帳ヲ以大藏省へ申立別途之レヲ請取ルヘシ

但送致ノ入費ハ可成丈ケ減少ノ方法ヲ以テ運輸方取計ヘキ事

右引換手續ニヨリ準備金中へ人民所有又ハ官私鑛山產出ニ係ル舊金銀貨幣其他金銀地金ノ類ヲ

受入レタル外ニ常用部上納金中ニ古金銀アリタルトキモ之ヲ準備金部へ轉入シタリシカ明治九
年七月四日大藏省乙第六十號達ヲ以テ同月以降諸上納金ノ舊金銀貨幣地金類トモ其上納ニ先チ
一旦國債寮ニ於テ買入レ直ニ準備金部へ受入ル、コト、シ其代金ヲ以テ上納ニ立ツヘキ旨府縣
へ令達シ左ノ通り古金銀類其他取扱順序ヲ定メタリ

大藏省達乙第六十號 (明治九年七月四日)

府 縣

諸收納金ノ内古金銀貿易銀洋金銀公債證書金銀銅屬ノ地金雜種混合地金ノ類是迄現品ノ儘直
ニ上納ニ相立來候處今般出納順序改定ニ付右等ノ各種ハ一旦國債寮ニ於テ買入ノ上其代金額
ヲ以テ本納ニ可相立候條本年七月一日以降右種類ノ上納及ヒ古金銀交換方等別紙ノ通可取計
此旨相達候事

古金銀類其他取扱順序

第一條 古金銀ヲ以テ諸上納金ノ内へ納入スル分ハ定價(七年九月十三號)ヲ以テ一旦國債寮(東京
へ賣拂ノ上其代金ニテ上納ニ立ヘシ)

第二條 貿易銀及洋金銀ニテ諸上納ニ立ツル分モ同前國債寮ニ賣拂代金ヲ以テ上納ニ立ツ可
シ尤洋金銀ノ内豫メ價格ヲ付シテ取立テタルモノハ直ニ其價格ヲ以テ代金トシ若シ豫メ價
格ヲ付セスシテ取立テタルモノハ洋銀(四)ハ一弗通貨壹圓トナシ洋金ハ之レヲ洋銀(四)價
ニ比例シ更ニ洋銀一弗通貨壹圓ノ割ニテ計算スヘシ

第三條 諸公債證書ヲ以テ上納スルモノ、内奉還祿ノモノへ拂下ケ地代ニ宛上納ノ分ハ七年

第八十三號公布引現金證書高千圓ニ付九百拾壹圓六拾四錢參厘七一四ノ價格其他ハ最初右ヲ以テ上納ニ立ヘキ事由申牒ノ節相定メタル價格ヲ以テ國債寮ニ賣渡シ其代金ヲ以テ上納ニ立ヘシ

第四條 前條ノ三種ハ價格既定ニ付該品上納ノ際代金ヲ本行ニ記シ物品ヲ腹書ニシタル大藏卿宛上納證書ヲ副へ送達スレハ賣買手續ハ主務寮課ニ於テ之ヲ辨シ追テ代金本納受取證ヲ交付スヘシ

第五條 金銀銅屬地金雜種混合地金ノ類得遺失物及ヒ其他ノ事故ニ因リ公收スヘキモノハ評價アレハ其評價評價ナキモノハ出納寮(東京)ニ於テ鑑定評價セシメ其價格ヲ以テ國債寮ニ賣渡シ同寮ヨリ代金引出切符ヲ受取直ニ出納寮ニ就キ假納證書ト交換シ追テ代金ヲ本行ニ掲ケ品銘(金銀銅地金雜種混合地金銅地金雜種及個數量目等ヲ腹書シタル大藏卿宛ノ上納證書ヲ副へ)大阪へ納メタル分ハ假納證書ト共ニ送達シ上納ニ立ツ可シ

第六條 前條ノ各種賣渡ヲナスハ東京ハ國債寮大阪ハ同支寮ニ限ルヘシ之レヲ送達スルノ際各廳官吏附屬スルトキハ該吏ヨリ賣渡ノ手續ヲナシ通運會社及郵便等ニテ遞達スレハ東京ハ本省中受付課之レニ代リ其手續ヲナシ直ニ本納スヘキモノハ之レヲ納入シ府縣へ本納領收證書ヲ交付ス若シ又價格未定ニシテ上納證書ヲ達セサルモノハ出納寮ノ現品預リ證書寫ヲ以テ之レヲ通知スルニ付府縣ニ於テハ之レニ照シテ第五條ニ示セシ如ク上納證書ヲ送達スヘシ而シテ假納證書ハ受付課ニ預リ置クヘシ尤大阪ハ國債支寮府縣ニ代リ其手續ヲナシ府縣へ預リ證書寫及假納證書ヲ交付スルモノトス

第七條 凡前各條ニ掲載セシ國債寮へ賣拂フヘキ各種ノ金銀類ハ價格既定シタルモノト未定ノモノトニ拘ラス其上納ヲ要スル毎ニ必ス其現品ヲ送致スヘシ而シテ該現品ハ先ツ出納寮ニ預ケ該寮ノ預リ證書ヲ以テ賣拂ノ手續ヲナシ國債寮ノ代金引出切符ヲ得テ之レヲ假納シ更ニ假納證書ヲ受取ル者トス

第八條 前各條ノ如ク現品賣拂代ヲ以テ上納スヘキ種類ノ内府縣其他ヨリ是迄租稅寮へ納メ來タル分ハ從前ノ如ク其儘租稅寮ニ納入シ同寮ヨリ國債寮ニ賣拂ヒ方ノ手續ヲナスヘシ

第九條 洋金銀等一旦納入スヘキ者該廳ニ於テ他ニ支用スヘキ目途在テ許可ノ上現貨ハ其廳ニ据置キ證書ヲ製シ納入スヘキ者モ第二第四條ノ如ク其價格ニ因リ代金ヲ本行ニ認ムヘシ

第十條 前條ノ如ク賣拂代金ニテ上納セシ各種追テ勘定組立ノ節ハ代金ヲ本行ニ掲ケ種類ハ腹書ニスヘシ尤經費仕拂殘金ノ分ハ勘定帳書式ノ通りタルヘシ

第十一條 古金銀交換ノ基金ハ國債寮ヨリ相渡スヘクニ付交換ノ都度及豫備金ノ内ヨリ繰換タル分共同寮ニ申立之レヲ受取交換セル古金銀ハ直ニ同寮(東京)へ上納スヘシ

舊金銀貨幣ノ交換ハ各府縣廳ノ外東京ニ於テハ第一及ヒ第三國立銀行等ニ於テモ人民ヨリ交換シテ取纏メ之ヲ國債局へ上納シ大阪ニ於テハ直接人民ト交換ヲナセリ然ルニ明治十八年ノ初ニ當リ舊貨幣ノ市價動モスレハ交換價格ノ右ニ出ツルモノアリ往々海外へ流通スルノ傾ヲ見ルニ至リタレハ新ニ日本銀行及橫濱正金銀行本支店又ハ代理店ヲシテ時價(即市價)ヲ以テ該貨幣ノ買上ヲナサシメタリ其日本銀行及正金銀行へノ命令書ハ左ノ如シ(但正金銀行ノ支店ト同文ニテ大ナルハ括弧ス)

大藏省ヨリ日本銀行へ達(明治二十八年一月二十七日)

舊金銀貨幣ヲ時價及舊貨幣價格表ノ價格ヲ以テ左ノ手續ニ據リ買上クヘシ此旨相達候事

- 一 舊金銀貨幣買上元金トシテ當省國債局ヨリ順次紙幣及金銀貨ヲ下渡スヘシ尤モ其銀行大阪支店取扱ニ係ルモノハ出納局大阪出張所ヨリ下渡スヘシ
- 二 時價ヲ以テ買上クヘキモノハ紙幣ヲ以テ拂渡スヘシ但時價紙幣相場也ハ最モ確實ノモノヲ撰ミ國債局及出納局大阪出張所へ届出ツヘシ
- 三 舊貨幣價格表ノ價格ヲ以テ買上クヘキモノハ代リ金ハ金銀貨幣ヲ以テ拂渡ストモ又ハ金銀貨幣ヲ紙幣ニ換ヘ拂渡ストモ人民ノ望ニ任ス可シ但其交換相場ハ當日又ハ前日ノ平均相場ヲ用ユヘシ
- 四 其銀行本店ニ於テ買上ケタルモノハ國債局へ大阪支店ニ於テ買上ケタルモノハ出納局大阪出張所へ各勘定書ヲ添ヘ十日毎ニ取纏メ上納スヘシ
- 五 其銀行各地代理店ニ於テモ此手續ニ據リ取扱フヘシ尤買上元金ハ其銀行本支店へ下渡スヘキニ付各地代理店へ分配シ又買上ケタル舊金銀貨幣ハ本支店ニ於テ取纏メ上納スヘシ
- 六 買上代金ノ千分ノ一ハ手数料トシテ其銀行へ給與スヘシ
- 七 買上ケタル舊金銀貨幣出納局ニ於テ鑑査ノ際贋金等ヲ發見セシトキハ其銀行ノ負擔タルヘシ

右命令ニヨリ日本銀行並ニ正金銀行トモ其支店扱ニ係ル交換基金ハ出納局大阪出張所ヨリ直ニ

下渡スコト、ナセルカ日本銀行ノ分ハ造幣局成貨拂渡基金ノ内ヲ以テ支拂ハシムル積ナルヲ以テ其例ニ倣ヒ支店ノ分ハ同出張所ヨリ直ニ下渡シ差支ナシト雖モ正金銀行神戸支店へハ成貨拂渡基金ノ下渡ナク且正金銀行へ下渡スヘキ海外荷爲替基金及正貨交換基金トモ總テ本店へ下渡スヘキ規定ナルヲ以テ舊貨幣交換基金トシ直接支店へ下渡スヘキ分ノミ然ラサルハ不都合ナリトノ理由ニ依リ同年三月二十七日舊金銀貨幣買上手續中橫濱正金銀行ノ分ヲ變更シテ右基金モ本店へ下渡シ本店ヨリ支店へ分配セシムルコト、シ左ノ如ク改正ヲ加ヘタリ

- 一 取扱ニ係ルモノハ出納局大阪出張所ヨリ下渡スヘシノ文字ヲ削除シヘハ本店ヨリ分配スヘシノ文字ヲ加フ
 - 二 及出納局大阪出張所ノ文字ヲ削除ス
 - 四 買上ケタル舊貨幣ハ勘定書ヲ添ヘ十日毎ニ取纏メ國債局ニ上納スヘシ尤神戸支店ニソ買上ケタル分ハ出納局大阪出張所へ現品ヲ上納シ同所ノ預リ證書ヲ以テ上納スヘシ
 - 五 其銀行各地代理店ニ於テモ此ノ手續ニ據リ取扱フヘシ尤買上基金ハ其銀行本店ヨリ各地代理店へ分配スヘシ又買上ケタル舊貨幣ハ便宜本支店へ回漕セシメ第四項ノ例ニ據リ上納スヘシ
- 而シテ舊金銀貨幣價格表ハ明治十八年七月六日ニ至リ大藏省告示第三百三號ヲ以テ之ヲ改正シ左ノ如ク定メタリ

舊貨幣價格表

元文

壹分判 一個 壹圓四拾四錢九厘
內金貨四圓四拾〇錢四厘
內金貨四圓四錢五厘

此貨幣金五拾六圓八拾參錢六厘一四
銀壹圓八拾五錢七厘六〇

計五拾八圓四拾九錢參厘七四

內金貳拾七錢四厘〇九
同參拾九錢七厘八五
同參錢八厘五一
同參錢八厘五八

費用前二同シ

殘金五拾六圓四拾六錢四厘三〇
銀壹圓八拾〇錢〇厘九一

計五拾七圓九拾六錢五厘一一

與文トモ云

文政貳分判拾兩量目四号二〇五九二

內金二号三六七九三 位千分中 金五五三〇〇
銀一号八二九五七 金四三三〇〇
銀〇〇二〇〇〇

此貨幣金四拾九圓四錢一厘六五
銀貳圓參拾四錢五厘六一

計五拾壹圓四拾四錢七厘二六

內金貳拾參錢六厘七九
同參拾四錢三厘七一
同貳錢參厘四六

費用前二同シ

殘金四拾八圓五拾貳錢壹厘一五
銀貳圓貳拾七錢四厘〇三

計五拾〇圓七拾九錢五厘一八

與文トモ云

文政金小判拾兩量目四号二一五一〇

內金二号三五七九三 位千分中 金五五九〇六
銀一号八四八七四 金四三三八六
銀〇〇三〇〇〇

此貨幣金四拾八圓八拾九錢四厘三一
銀貳圓參拾七錢〇厘一八

內金貨五圓六拾壹錢六厘
內金貨四圓八錢壹厘

內金貨四圓四拾〇錢四厘
內金貨四圓四錢五厘

文政 貳分判 一個 貳圓五十四錢〇
內金貨貳圓四拾貳錢六厘
內金貨貳拾壹錢四厘

內金貨四圓八拾參錢六厘
內金貨四圓八拾九錢九厘

小判 一個 五圓〇六錢壹厘
內金貨四圓八拾參錢六厘
內金貨四圓八拾九錢九厘

內金貨四圓八拾參錢六厘
內金貨四圓八拾九錢九厘

文政

壹分判 一個 壹圓貳拾六錢五厘
內金貨壹圓貳拾〇錢八厘
內金貨壹圓五錢七厘

計五拾壹圓貳拾六錢四厘四九

內金貳拾參錢五厘七九
同參拾四錢貳厘二六
同貳錢參厘七〇

費用前二同シ

殘金四拾八圓參拾壹錢六厘二六
銀貳圓貳拾九錢七厘八六

計五拾〇圓六拾壹錢四厘一一

壹朱金拾兩量目七号一五〇〇〇

內金〇号八八〇一六 位千分中 金一二三〇
銀六号二四九一〇 銀八七四〇
銀〇〇二二九

此貨幣金拾八圓貳拾五錢壹厘二〇
銀八圓〇壹錢壹厘六六

計貳拾六圓貳拾六錢貳厘八六

內金八錢八厘〇二
同拾貳錢七厘七六
同八錢〇厘一二

費用前二同シ

殘金拾八圓〇參錢五厘四二
銀七圓七拾六錢七厘一九

計貳拾五圓八拾〇錢貳厘六一

與文トモ云

文政貳分判拾兩量目四号二〇九五六

內金二号〇五二五八 位千分中 金四八七六
銀二号一五一〇八 銀五一一〇
銀〇〇一四〇

此貨幣金四拾貳圓五拾六錢貳厘四九
銀貳圓七拾五錢七厘八〇

計四拾五圓參拾貳錢〇厘二九

文政 貳分判 一個 貳圓貳拾參錢七厘

內 金貨貳圓貳拾參錢七厘
同銀貳圓貳拾參錢七厘

金貳拾〇錢五厘二六
同貳拾九錢七厘九四

費用前ニ同シ

殘金四拾貳圓〇五錢九厘二九

計四拾四圓七拾參錢貳厘九四

保字トモ云フ

天保金小判拾兩量目三号六一二二一四

內 金二号〇四九八八位千分中 金五六一七五
銀一五五八六四 銀〇〇三一〇

此貨幣金四拾貳圓五拾〇錢六厘八七

計四拾四圓五拾〇錢五二二

同貳拾九錢七厘五五

費用前ニ同シ

殘金四拾貳圓〇錢四厘三三

計四拾參圓九拾四錢壹厘六一

古貳朱金 拾兩量目四号一九八九四

內 金二号九三三八八位千分中 金二九九八四
銀二〇〇一七

此貨幣金貳拾五圓九拾八錢壹厘五九

計貳拾九圓七拾四錢九厘三四

同拾八錢壹厘八七

費用前ニ同シ

古貳朱金 一個 參拾六錢七厘

小判 一個 四圓參拾九錢四厘

天保 壹分判 一個 壹圓〇九錢九厘

內 金貨壹圓〇五錢〇
同銀壹圓四錢九厘

內 金貨參拾貳錢壹厘
同銀參拾貳錢壹厘

銀七錢七厘二九

殘金貳拾五圓六拾七錢四厘四二

計貳拾九圓參拾貳錢七厘二〇

五兩判一枚量目一号〇八四六二

內 金〇号九〇八三七位千分中 金八三七七五
銀〇〇二〇〇

此貨幣金拾八圓八拾參錢六厘〇八

計拾九圓〇五錢九厘二六

同拾參錢壹厘八五

費用前ニ同シ

殘金拾八圓六拾肆錢參厘三九

計拾八圓八拾貳錢九厘七六

正字トモ云フ

安政金小判拾兩量目二号八九〇一〇

內 金一号六四六四九位千分中 金五六一七五
銀一三三三五四 銀〇〇二八二

此貨幣金參拾四圓四拾四錢壹厘七七

計參拾五圓七拾貳錢八厘三五

同貳拾參錢八厘九九

費用前ニ同シ

小判 一個 參圓五拾貳錢八厘

內 金貨參圓參拾七錢四厘
同銀參圓參拾五錢四厘

安政 壹分判 一個 八拾八錢貳厘

內 金貨八拾四錢參厘
同銀八拾四錢九厘

安政
貳分判 一個 九拾五錢五厘
內 金貨七拾七錢七厘
內 銀貨四拾七錢八厘

殘 金貨拾參圓七拾參錢八厘二二
銀貨四圓五拾參錢八厘一六
計參拾五圓貳拾七錢六厘二九
安政貳分判拾兩量目三号六二六九九八
內 金〇号七五八七六 位千分中 金二〇九九二
銀二号八六〇六〇 位千分中 銀七〇八八七一
此貨幣 金拾五圓七拾參錢參厘八一
銀參圓六拾六錢七厘四三

計拾九圓四拾〇錢壹厘二四
內 金七錢五厘八八
同拾壹錢〇厘一四
同參錢六厘二三
費用前ニ同シ
殘 金拾五圓五拾四錢七厘七九
銀參圓五拾五錢五厘五三
計拾九圓拾〇錢參厘三二

新
小判 一個 壹圓參拾壹錢參厘
內 金貨壹圓貳拾五錢六厘
內 銀貨五錢七厘

新小判拾兩量目一号〇六八九四
內 金〇号六一三二四 位千分中 金五七三六
銀〇号四五三三三 位千分中 銀四二四〇
此貨幣 金拾貳圓七拾壹錢四厘二一
銀五拾八錢壹厘〇七
計拾參圓貳拾九錢五厘二八
內 金六錢壹厘三一
同八錢九厘〇〇
同參錢九厘九二
同五厘八一
費用前ニ同シ
殘 金拾貳圓五拾六錢參厘九〇
銀五拾六錢參厘三四

壹分判 一個 參拾貳錢八厘
內 金貨壹拾壹錢四厘
內 銀貨壹錢四厘

新貳朱金 一個 拾參錢七厘
內 金貨拾壹錢四厘
內 銀貨貳錢參厘

計拾參圓拾貳錢七厘二四
新貳朱金拾兩量目一号九三三八二一
內 金〇号四四三八五 位千分中 金二二九九〇
銀一号四九〇四八 位千分中 銀七六九九〇〇
此貨幣 金九圓貳拾〇錢參厘七九
銀壹圓九拾壹錢〇厘八七
計拾壹圓拾壹錢四厘六六
內 金四錢四厘三九
同六錢四厘四三
同參錢九厘二〇
同壹錢九厘一一
費用前ニ同シ
殘 金九圓〇九錢四厘九七
銀壹圓八拾五錢貳厘五六
計拾〇圓九拾四錢七厘五參

新貳分判 一個 五拾四錢六厘
內 金貨四拾五錢參厘
內 銀貨九錢參厘

新貳分判拾兩量目一号九三六九九四
內 金〇号四四二五九 位千分中 金二二八五
銀一号四九〇四七 位千分中 銀七六九九五
此貨幣 金九圓拾七錢七厘六七
銀壹圓九拾壹錢〇厘八六
計拾壹圓〇八錢八厘五參
內 金四錢四厘二六
同六錢四厘二四
同參錢九厘一〇
同壹錢九厘一一
費用前ニ同シ
殘 金九圓〇六錢九厘一七
銀壹圓八拾五錢貳厘五五
計拾〇圓九拾貳錢壹厘七二

文政壹朱銀 一個 壹圓銀拾〇錢五厘

文政壹朱銀拾兩量目十三号五三一九一
内銀十三号一八九五五 位千分中銀九七四、七
錢〇二五、三
此貨幣拾六圓九拾〇錢九厘六八

内拾六錢九厘一〇 費用前ニ同シ
殘拾六圓七拾四錢〇厘五八

古壹分銀 一個 壹圓銀參拾五錢壹厘

古壹分銀拾兩量目十一号一五四三五
内銀十一号〇五八四二 位千分中銀九六一、四
錢〇〇八、六
此貨幣拾四圓拾七錢七厘四六

内拾四錢壹厘七七 費用前ニ同シ
殘拾四圓〇參錢五厘六九

壹朱銀拾兩量目九号七四五三五

壹朱銀 一個 壹圓銀七錢五厘

内銀九号四三二五五 位千分中銀九六七、八
錢〇三三、二
此貨幣拾貳圓〇九錢壹厘七三

内拾貳錢〇厘九二 費用前ニ同シ
殘拾壹圓九拾七錢〇厘八一

一分銀拾兩量目十一号一二五〇四

内銀九号九三四六六 位千分中銀八九三、〇
錢一〇七、〇〇

壹分銀 一個 壹圓銀參拾壹錢五厘

此貨幣拾貳圓七拾參錢六厘七四

内拾貳錢七厘三七 費用前ニ同シ
殘拾貳圓六拾錢九厘三七

安政貳朱銀 一個 壹圓銀四拾七錢〇

安政貳朱銀拾兩量目二十五号一〇二五〇
大形銀八四、六
錢一五、四
内銀二十九号六四七五七 位千分中
此貨幣參拾八圓〇〇錢九厘七〇

内參拾八錢〇厘一〇 費用前ニ同シ
殘參拾七圓六拾貳錢九厘六〇

斯クテ明治十九年ノ頃ニ至リ壹分銀壹朱銀ノ海外ニ輸出スルモノ非常ニ多額ニシテ明治十九年
度ニ於ケル輸出高貳拾壹萬餘圓ニ達セリ是ニ於テ政府ハ明治二十年三月十七日橫濱正金銀行ニ
命シ橫濱神戸ノ兩市ニ於テ壹分銀及ヒ壹朱銀ハ政府所定ノ價格ニ依ラス時價ヲ以テ買上方シ取
扱ハシメ交換ノ相場ハ時々届出シムルコト、セリ而シテ銜金銀貨幣交換ノ期限ハ數次延期セラ
レ回收セルモノハ準備金中ニ吸收シ來リシカ政府紙幣兌換ノ爲メ漸次準備金ヲ支出シタル爲メ
準備金ニ餘裕ヲ存セサルニ至レルヲ以テ明治二十一年十一月二十四日大藏省令第十六號ヲ以テ
舊貨幣ハ明治二十一年十二月三十一日限廢止スル旨ヲ公布セリ

第二節 金銀地金ノ購收

準備金ヲ以テ金銀地金ヲ購收シタルモノ、内其内國ニ於テ購收セルモノ甚タ多キハ勿論ナリト雖モ明治十六七年度以降ニ至リテハ海外ニ於テ購收シタルモノモ亦頗ル巨額ニ上レリ而シテ其海外購收ニ係ルモノ、内二種ノ區別アリテ一ハ歐米ニ於テ銀地金ヲ購收シタルモノ一ハ清國ヨリ驛金及銀兩朝鮮ヨリ沙金等ヲ購收シタルモノトス以上購收シタル金銀地金等ハ概ネ皆我造幣局へ輸送シ貨幣ニ鑄造シ又ハ定型金塊ニ型鑄ヲナセリ(定型金塊ハ明治八年八月以テ鑄造シタル品位ニ精製シ之ヲ定型金塊ニ型鑄シテ貯藏セシモノナリ)然リト雖モ往々帝室備品皇居御造幣用等ノ爲メ地金ノ儘賣却ニ付シタルモノアリ又定型金塊ノ内ニハ外國債償還ノ爲メ海外へ輸送シタルモノアリ

内國ニ於ケル金銀地金ノ供給ハ或ハ官有鑛山ノ採掘ニヨリ或ハ人民所有地金ノ購收ニヨリ之ヲ得タルモノナリ抑官鑛ノ由來ハ明治六年一月大藏大輔井上馨カ我國最良ノ鑛山十箇所ヲ撰ビ官鑛トナスノ建議ニ本クモノニシテ爾來官鑛ノ費用ハ工部大藏兩省ノ負擔トシ大藏省ニテハ準備金ヨリ支出スルコト、ナセリ大藏大輔井上馨ノ建議書左ノ如シ

鑛山ノ儀ニ付伺

御國內諸鑛山ノ儀ハ各處盛衰ノ異アリト雖モ之レヲ要スルニ天下物産ノ最ナル者ニシテ其有益モ亦大ナリト云フ可シ既ニ工部省中一寮ヲ設ケラレ右事業ヲ擔任從事仕候處頗ル其經費ニ堪へ難ク夫レ物經費ニ堪へサル時ハ其事業亦盛大ナリ難ク有益モ亦隨テ微少ニ有之實ニ造貨ノ利ヲ盡スコト能ハス遺憾ノ至リニ有之候且ツ金銀銅ノ三品ハ方今貨幣鑄造ニ付最モ急用ノ品ニ有之候就テハ官鑛ト爲ス可キ最良ノ場所十箇所許リ相撰ヒ悉皆鑛山入費ハ歲入ノ金銀ヲ

仰カス右準備金ノ内ヲ以テ取賄ヒ而テ諸鑛物ハ精製ノ上貨幣鑄造ヲナシ或ハ之ヲ賣却シ其利益ハ年々準備ニ増殖ヲ加へ極メテ盡力シ大ニ造化ノ妙利ヲ興サンコトヲ欲ス今般生野開鑛候儀ニ付工部省協議ノ次第モ有之其經費モ些少ナラス旁前條ノ通相伺候間可否御審案ノ上御下命被下度候也

明治六年一月

正 院 御中

大藏大輔 井 上 馨

右ノ建議ハ同年二月五日太政官ノ納ル、所トナリ大藏工部兩省ノ間ニ左ノ條件ヲ約定セリ

自今鑛山入費ハ工部省定額外別段大藏省準備金ノ内ヲ以テ支給スルニ依テ大藏工部ト兩省ニ所屬ノ部分竝計算向經界ヲ明ニスル等兩省ノ際ニ於テ左ノ條件約定セリ

第一條 明治六年一月一日ヨリノ諸費ハ大藏省準備金ノ内ヲ以テ渡方ヲ爲スヘシ尤鑛山寮入費仕拂方ニ付右準備ト工部省定額ノ區分ヲナスコト左ノ如シ

工部省定額金ノ内ヲ以テ可支給分

- 一 鑛山本寮中一切ノ雜費並營繕其他學校ニ關スル諸入費
- 一 官員並御雇外國人給料及旅費本寮宿直賄料ノ類
- 一 大藏省準備金ノ内ヲ以テ可支給分
- 一 鑛山所用ノ器械並諸鑛物ヲ精製スル一切ノ入費諸品買上ケ代共
- 一 鑛夫給金

但外國人ト云ヘトモ鑛山事業ニ使役スル者ハ鑛夫ト同視シ給料其外此準備金ノ内ヲ

以テ仕拂フヘシ

- 一 抗中竝製鑛所營繕諸入費
- 一 諸鑛物竝諸器械共諸處運轉ノ費用
- 一 鑛山ニ屬シタル出張所ノ營繕向キ竝同處常務ニ屬スル官員其外月給旅費ヲ始メ一切ノ諸費宿直賄料ノ類共

第二條 明治五年壬申十二月二日迄ノ諸費ハ悉皆從前ノ通り工部省定額金ノ内ヲ以拂方ヲ爲スヘシ然テ同日迄ニ精製濟ノ金銀銅ハ即今別途ニ大藏省へ上納スヘシ

但精製仕掛ケ竝鑛石ノ儘堆積ノ分ハ明治六年一月一日ノ元高トナシ向後鑿出ノ分ト合シ之ヲ精製スル等ノ諸入費ハ第一條ニ分部スル處ノ準備金ヨリ支給スル月費金ノ内ヲ以テ仕拂右金銀塊ハ追々上納スヘシ

第三條 諸鑛山ニ於テ從來用ユル諸器械ノ類ハ悉皆有形ノ儘ニテ据置キ今後買入竝新調ノ分ハ勿論此準備金ノ内ヲ以テ仕拂フヘキ筈ナレハ其時々大藏工部ノ間協議ノ上可否ヲ決スヘシ

一 方今鑛山寮ヨリ手ヲ下セシ官山何箇所ト云フコトヲ報知スヘシ又此後新鑛山ヲ起サントスレハ當省へ協議ノ上可否決定ス可シ

第四條 此ノ渡シ金ノ月額ハ豫メ決定ナシ難ケレハ工部省ニ於テ凡見積ヲ立テ且現今取扱フ所ノ實費ヲ成算シ當分ノ内假リニ定額ヲナシ五箇月或ハ八箇月試シノ上本額ヲ決定スヘシ

第五條 此月費金受取方ハ其金額ヲ以テ四五日前大藏省へ申入置同省ヨリ渡日限ノ報知ヲ得

テ後請取方ヲ爲ス可シ

第六條 準備金ヨリ請取リタル金額遺拂精算帳ハ別冊ニ仕立差出日限等ハ定例ノ通りタル可シ

第七條 諸鑛山ニテ精製濟ノ金銀ハ都テ大阪出張出納寮へ相渡同寮預リ證書ヲ以テ大藏省ノ本納ノ手續ヲナスヘシ

右之通り取扱置候事

明治六年四月

大藏大輔 井上 馨
工部大輔 山尾庸三

斯ノ如クシテ金銀地金ノ供給ヲ官鑛ニ仰クコト多ク就中阿仁、院內、佐渡、生野等ハ其主要ナルモノニシテ阿仁、院內、佐渡産ハ東京へ生野産ハ大阪國債寮出張所ニ納付スルコト、セリ然レトモ人民ノ私鑛ニ仰ケルコトモ亦甚タ尠カラサリキ(明治八年秋田縣小野組借區鑛山産出銀地金買上同十四年鹿兒島縣澁谷氏借區鹿籠金坑産出金地金買上ノ類是ナリ)

明治十四年七月一日ヨリ造幣材料ニ供スヘキ諸地金購收ノ件ハ總テ造幣局ニ於テ(從來ハ國債支局於テ)取扱フコト、セリ是レ事務ヲ省略シ經費ヲ節減セントノ主旨ニ出シモノナルカ同年十二月準備金規則改正ニヨリ再ヒ舊ニ復シ國債局ニ於テ取扱フコト、ナレリ(但大阪ニ於テ取扱フヘキ大藏出納局出張所へ委託スルコト、定ム)

明治十六年五月二十七日造幣局規則ヲ改正シ内外人民ヨリ造幣ノ爲メ大阪造幣局及東京同局出張所ニ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡取扱方ヲ日本銀行へ委任セラレ同年六月二日附ニテ左ノ

命令書ヲ下付セラレタリ

日本銀行

右ハ内外人民ヨリ造幣ノ爲メ大阪造幣局及東京同局出張所ニ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡
ノコトヲ取扱ハシムルニ付左ノ條款ヲ心得ヘシ

第一條 大阪造幣局ニ輸入シタル地金ノ成貨ハ造幣局ヨリ地金輸入人ニ交付シタル處ノ貨幣
拂渡證書面ニ照シ大阪又ハ神戸ニ在ル日本銀行支店若シクハ代理店ニ於テ期日ニ至リ證書
所持人ニ拂渡ス可シ

第二條 東京造幣局出張所ニ輸入シタル地金ノ成貨ハ第一條手續ヲ以テ東京日本銀行本店又
ハ横濱支店若シクハ代理店ニテ拂渡ス可シ

第三條 造幣局或ハ出張所ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸入人ニ交付シタルトキハ即日日本銀
行本店或ハ支店ヘ通知スヘシ日本銀行ニ於テハ其通知書ヲ得タル即日若シクハ翌日國債局
或ハ大阪出納支局ニ付其通知書面ノ成貨定期預リヲ請求スヘシ

第四條 定期預リノ成貨ハ造幣局或ハ出張所ヨリ發行シタル貨幣拂渡證書ヲ國債局或ハ大阪
出納支局ニ返納シテ決算スヘシ

第五條 貨幣拂渡期日ニ先チ割引前渡ヲ請求スルモノアルトキハ造幣規則第十條ノ割合ヲ以
テ割引前渡ヲナス可シ

第六條 割引ノ利子ハ悉皆國債局ニ納付スヘシ

第七條 成貨拂渡手数料トシテ成貨千圓ニ付通貨壹圓ノ割ヲ以テ毎年六月十二月兩度ニ造幣

局ヨリ日本銀行ニ下付スヘシ

第八條 神戸又ハ横濱ニ於テ拂渡ノ成貨運搬費ハ造幣局ヨリ日本銀行ニ下付スヘシ

第九條 成貨拂渡ニ關係スル帳簿ハ國債造幣兩局大阪出納局官吏時々検査スルコトアルヘシ

第十條 貨幣拂渡證書期日ニ至リ拂渡ヲ請求スルモノナキトキハ其翌日之レヲ國債造幣兩局
及大阪出納支局ニ届出スヘシ

第十一條 成貨ヲ國債局或ハ大阪出納支局ヨリ受取リタル後異變アリトモ其損失ハ日本銀行
ノ負擔タル可シ

但シ非常兵亂ノ如キハ例外ノ處置アル可シ

第十二條 此命令ハ本年八月十六日ヨリ施行スヘシ尤モ大藏省ノ都合ニ依テハ何時ニテモ改
正若シクハ停止スヘシ

明治十六年五月二十七日

大藏卿 松方正義

然ルニ同年八月六日ニ至リ右命令書中左ノ通り改正セラレタリ

第三條 造幣局或ハ出張所ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸入人ニ交付シタルトキハ即日日本銀
行本店或ハ支店ニ通知スヘキニ付日本銀行ニ於テハ其通知書ニ照シ代リ貨幣ヲ拂渡スヘシ
尤拂渡スヘキ貨幣ハ豫メ其金額ヲ定メ成貨拂渡元金トシテ國債局或ハ大阪出納支局ヨリ下
渡スヘシ

第四條 成貨拂渡金ハ造幣局或ハ出張所ヨリ發行シタル貨幣拂渡證書ヲ國債局或ハ大阪出納
支局ニ返納シテ決算スヘシ

依テ其翌七日日本銀行ハ同行本店及大阪支店貨幣拂渡取扱手續ヲ定メ且ツ其第一條規定ノ如ク豫メ若干ノ紙幣下付ノ儀ヲ請願シタルニ大藏省ハ八月八日之ヲ聞届タル旨指令ヲ與ヘタリ日本銀行本支店貨幣拂渡取扱手續左ノ如シ

内外人民ヨリ大阪造幣局及東京同局出張所へ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡方ヲ當日日本銀行ニ命セラレタルヲ以テ本店及大阪支店貨幣拂渡取扱手續ヲ定ムル左ノ如シ

第一條 國債局及大阪出納支局ハ豫メ金額ヲ定メ東京日本銀行本店及大阪同支店へ成貨拂渡元金トシテ若干ノ金銀貨及正貨交換元金トシテ若干ノ紙幣ヲ下付サル、モノトス但横濱及神戸日本銀行代理店へハ東京及大阪日本銀行本支店ヨリ本條ノ元金ヲ隨時分置スヘシ

第二條 第一條成貨拂渡元金及正貨交換元金ノ金額及種類ハ造幣局及東京同局出張所へ輸入地金ノ景況ニ依リ國債局及大阪出納支局ニ於テ時々取極メラル、モノトス

第三條 日本銀行本店又ハ大阪支店ハ造幣局又ハ東京同局出張所ノ貨幣拂渡通知書ヲ得タルトキハ之カ點檢ヲナシ横濱及神戸代理店ニ於テ仕拂フヘキ分ハ即日若シクハ翌日本支店ヨリ其代理店ニ通知スルモノトス

第四條 地金輸入人又ハ代理人ヨリ貨幣拂渡期日ニ至リ造幣局又ハ東京同局出張所ニ於テ交付シタル貨幣拂渡證書ヲ持參シテ成貨受取方ヲ請求セハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ成貨拂渡元金ノ内ヲ以テ右證書ト引換ニ貨幣ヲ交付スルモノトス但成貨受取人ヲシテ貨幣拂渡證書ノ裏面ニ記名調印セシムヘシ

第五條 貨幣拂渡期日以前前渡ヲ請求スルモノアルトキハ御命令書第五條ニ據リ割引前渡ニ

ナス可シ尤割引前渡ハ東京日本銀行本店及大阪同支店ニ限ルモノトス

第六條 第四條第五條ノ場合ニ於テ其金銀貨ヲ紙幣ニ交換セントコトヲ望ムモノアルトキハ一旦金銀貨ヲ仕拂タル上直ニ其前日相場ヲ以テ第一條ノ正貨交換元金ノ紙幣ト交換拂フナシ該交換ノ金銀貨幣ハ更ニ成貨拂渡元金ノ内へ差加フルモノトス

第七條 第一條成貨拂渡元金及正貨交換元金ヲ受取ルトキハ甲乙號預證書又第四條ノ場合ニ於テハ丙號第五條ノ場合ニ於テハ丁號第六條ノ場合ニ於テハ戊號計算届書ヲ即日若シクハ翌日國債局又ハ大阪出納支局ニ差出スヘシ尤丙丁號計算書ニハ貨幣拂渡證書ヲ添ユルモノトス但横濱及神戸代理店ハ本條ノ計算書ハ東京及大阪本支店ニ差出スヘシ

第八條 國債局ト日本銀行本店又大阪出納支局ト日本銀行大阪支店トノ間ニ差引簿ヲ製シ成貨拂渡元金及正貨交換元金ノ收支ヲ一月毎ニ照合スルモノトス

第九條 日本銀行本店及大阪同支店ハ第一條成貨拂渡元金及正貨交換元金ヲ受取リタル都度預證書ヲ差出シ置第八條差引簿照合ノ節更ニ成貨拂渡元金及正貨交換元金ノ預證書ヲ差出シ最前差出置處ノ預證書ノ返却ヲ請求スルモノトス

第十條 此手續書實際施行ノ上不都合ノ件アルトキハ大藏卿ノ許可ヲ受ケ改正増刪スルコトヲ得ルモノトス

(書式略)

然ルニ明治十九年四月ニ至リ準備金取扱順序改定セラレタルヲ以テ金銀地金購取ノ事務ハ舊貨幣買上及正貨交換取扱ト共ニ同月十五日ヨリ日本銀行ニ於テ取扱フコト、シ同月七日其旨ヲ達

セリ其手續左ノ如シ

金銀地金買上取扱手續 (明治十九年四月十七日)

- 第一條 金銀地金舊貨幣正貨買上基金ハ毎月豫算高ヲ以テ金貨銀貨紙幣ノ三種ヲ出納局ヨリ日本銀行ヘ下付ス
- 但大阪支店ヘハ同地金庫局出張所ヨリ下付ス
- 第二條 日本銀行本支店ハ前條ノ基金ヲ以テ金銀地金其他舊貨幣正貨ヲ買上而シテ代金ノ仕拂ハ左ノ手續ニ據ル可シ
 - 一 造幣局成貨拂渡證書ニ對シテハ同種類ノ貨幣(即チ金貨ノ證書ニ對シテハ金貨ヲ拂フノ類ヲ云フ)ヲ仕拂フ可シ但期日前仕拂ヲ請求スルモノハ期日迄割引ヲナシ其殘額ヲ仕拂フ可シ
 - 二 買上金銀地金ノ代金ハ總テ造幣局試驗品位ニ據リ成貨ニ積算シ代リ金下渡シ當日ヨリ成貨拂渡期日迄ノ利子ヲ控除シタル殘高ヲ代金トシテ仕拂フヘシ
 - 三 舊貨幣買上代金ハ價格表ノ價格或ハ時價ニ依リ便宜之ヲ買上ルモノトス
 - 四 買上地金ハ造幣局試驗前及舊貨幣買上代金ノ内渡金ヲ下付スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テ若シ損失ヲ生スル時ハ其銀行ノ負擔タルヘシ
 - 五 造幣局成貨拂渡證書並金銀地金ノ代金(即チ金貨ニ紙幣ヲ請求スルモノハ金貨(時價ニ銀貨(高貨)ヲ紙幣ニ通算シ之ヲ仕拂フ可シ)
 - 六 第二項ノ代金下渡ノ場合ニ於テ第三項ノ内渡金アル時ハ其内渡金並ニ其金額ニ係ル利子(内渡金下渡當日ヨリ決算殘金下渡前日迄ノ分)ヲ引キ去ルヘシ

七 銀行會社等ヨリ正貨ノ交換ヲ請求セハ代紙幣ヲ下渡スヘシ

八 造幣局成貨拂渡證書並金銀地金買上等ニ付引去ルヘキ利子ハ金壹萬圓ニ付一日金壹圓ノ割合タル可シ

第三條 買上タル金銀地金舊貨幣正貨ハ其種類ヲ區分シ別紙第一號二號報告表ヲ出納局(大阪局ノ分ハ金庫)ヘ毎月曜日(月末ハ三十日)或(三十一日トス)差出スヘシ

但本文買上高一日五萬圓以上ニ達シタル時ハ即日差出スモノトス

第四條 買上タル金銀地金及舊貨幣ハ政府地金トシテ造幣局ヘ輸入シ同局ノ地金勘定書ヲ得テ前條ノ報告表ニ添ヘ差出スヘシ

但本店ニテ買上ケタル舊貨幣ハ漸次大阪支店ヘ回漕シ同支店ヲシテ本條ニ準シ造幣局ヘ輸入セシムヘシ

第五條 前條舊貨幣回漕ノ諸費ハ實費ヲ以テ出納局ヨリ下付スヘシ而シテ銀行ヨリハ回漕ノ都度種類内譯勘定書ヲ出納局ヘ差出スヘシ

第六條 第二條第二項ノ買上地金鑄造ニ付テノ費用ハ造幣規則ニ依リ各納人ヨリ直ニ造幣局ヘ上納セシム可シ

但別段ノ約定アルモノハ此ノ限リニ非ラス

第七條 各銀行會社等ヨリ交換收入ノ正貨ハ其銀行又ハ橫濱正金銀行ノ保護預リ證書ヲ以テ出納局(大阪支店ノ分ハ)ヘ上納スヘシ

但本條預リ證書ハ第三條第二號報告表ニ添付スヘシ

第八條 第一條ノ基金ハ第四條ニ依リ造幣局地金勘定書ヲ上納セシ場合ニ決算スルモノトス
因テ別紙第三號報告表ヲ出納局(大阪支店ノ分ハ)へ毎月曜日(月末ハ三十日或ハ三十一日トス)差出スヘシ
但本文報告表ハ一日ノ支拂高五萬圓以上ニ達シタルトキハ即日差出スモノトス

第九條 此ノ取扱ヲナスニ付其銀行へ設置スヘキ諸帳簿ハ當省ノ認可ヲ得ヘシ

第十條 金銀地金舊貨幣正貨ノ代リ金高ノ千分ノ一ノ手数料トシテ紙幣ヲ以テ下付スヘシ

第十一條 此ノ取扱方ハ政府ノ都合ニ依リ増補改正亦ハ廢止スルコトアルヘシ

(書式略)

金銀地金ノ歐米ヨリ購收ニ係ルモノハ海外荷爲替法等ニ依リ海外ニ於テ收得シタル外國貨幣ヲ
以テ外國産出ノ銀地金等ヲ購入シ之ヲ本邦へ回送シタルモノ最モ多ク明治十七年度ニ於テ始メ
テ之ヲ購入シ其後明治十八年六月政府發行紙幣ノ兌換ヲ實施セラル、ニ及ヒ之ヲ購入モ漸ク多
額ナルニ至レリ其他海外荷爲替法ニ依ラスシテ直接ニ外國ノ金銀地金ヲ買收シタルモノ無キニ
アラス今參考ノ爲メ其一例ヲ掲ケンニ明治四年十一月ウオーリシホール會社ヨリ金棹二百一個
ヲ買取リタルトキノ約定書ハ左ノ如シ

大藏省トウオーリシホール會社ノ間ニ取結ヒタル約定ノ覺書

第一條 ウオーリシホール會社ニ於テサンフランシスコヨリ金地金棹二百一個其目方九千七
百七十五ウオンスアル者ヲ取寄セ之ヲ一番ヨリ八番ニ至レル八箱ニ入レ Box ノ記號ヲ附シ
鑄造ノ爲メ既ニ大阪造幣寮へ送込ミ置候處大藏省ニ於テ右金棹ヲ買取ランコトヲ約定セリ
○此金棹ノ純分ハ九九一及九九一ト二分ノ一ナリ

第二條 此金棹ヲ鑄造スレハ其價大抵貳拾萬圓位アリ

第三條 大藏省ヨリシテウオーリシホール會社へ其鑄造シタル圓金每壹百圓ニ墨其哥銀一百
二弗ヲ拂フヘシ

第四條 ウオーリシホール會社ヨリシテ所謂八箱ノ金棹ヲ大藏省へ相渡スヘキ造幣寮宛ノ令
狀ヲ大藏省へ相渡シタルニ由テハ其請取方ハ實正ナルヘシ

第五條 所謂八箱ノ金棹鑄造相終リタル後大藏省ヨリシテ大阪造幣寮ニ於テ相行フタル検査
及鑄造ノ記録ヲウオーリシホール會社へ相渡サルヘシ

第六條 勿論鑄造ニ付テハ通常一分ノ手間代ハウオーリシホール會社ヨリシテ相拂フヘシ
右ノ證據ノ爲メ西曆一千八百七十一年第十二月十三日邦曆明治第四年十一月二日日本東
京ニ於テ所謂約定連中ヨリ各其名前ヲ記シ且其花押ヲ玆ニ貼スル者ナリ

井上 大藏 大輔

ウオーリシホール會社

而シテ右ノ外明治十九年三月橫濱正金銀行ニ命シ同行紐育出張員ヲシテ在紐育領事ノ指揮ヲ受
ケ乘港ノ銀塊(同處ノ相場ニテ)ヲ買入レ本邦ニ回送セシメタルコトアリ
金銀地金ニシテ清國ヨリ購收ニ係ルモノハ明治十六年度以降直輸出昆布賣却代金トシテ上海ニ
於テ收入シタル通常銀兩ヲ其儘本邦へ回送シタルモノ多ク其他直接ニ清國驛金又ハ朝鮮砂金ヲ
購入セシコトアリ即チ清國ヨリ銀兩ヲ購收セシハ明治十一年七月二十四日笠野熊吉ナル者ニ命
シテ之ヲ購收セシメタルヲ以テ嚙矢トス其命令書ハ左ノ如シ

長崎縣平民 笠野 熊吉

清國ニ於テ銀兩(ル)購收方其方ヘ爲取扱候ニ付命令スル條件左ノ如シ

第一條 清國銀兩購收ノ取扱ヲナサシムルニ付誠實ニ之ヲ勤ムヘシ

第二條 銀兩購收資本トシテ當初金參拾萬圓無利子ニテ其方ヘ下渡スヘシ

第三條 前條下付セシ金員清國ヘ運搬スルハ現金ヲ以テスルモ又ハ他ノ物品ヲ以テ輸送セン爲メ之レヲ臨機使用ナスハ其方ノ適宜ニ任スヘシ

第四條 資本金參拾萬圓ヲ繰廻シ一箇年間ニ我通貨六拾萬圓以上ニ當ル銀兩ヲ大阪國債支局ヘ納ムヘシ

但本文資本金精々運轉ヲナシ銀兩購收高我通貨百萬圓ニモ滿ル様厚ク盡力致スヘシ

第五條 銀兩ハ時相場ノ高下ニ拘ハラズ別紙計算書ノ通洋銀百弗ニ付通貨銀兩七十四(テール)六分三厘ノ割合ヲ以テ上納スヘシ

但我貨幣ト洋銀トノ相場ハ其銀兩上納スル日ノ橫濱相場ヲ以テ洋銀ニ引直シ計算スヘシ

第六條 別紙計算書ノ内清國ヨリ神戸港マテ兩銀運搬費ハ千分ノ五ノ割合ヲ以テ積算セシト雖モ實地運搬ノ際ニハ尙精々減少ナシ其減員ニナリシ員額ハ別段上納スヘシ

第七條 前條ノ計算ヲ以テ銀兩上納セシ度毎其代リ金我通貨ヲ以テ下渡スヘシ

第八條 資本金ヲ使用スルノ際ニ生シタル損益ハ素ヨリ當省ノ關セサル所ニシテ一切其方ノ損益タルヘシ

第九條 第三條ノ通り資本金其方ノ適宜ニ使用スルヲ得セシメ之レヨリ生スル利益ハ其方ノ

利益トナスニ付資本金ヲ清國ヘ輸送スル入費ハ一切其方之ヲ負擔支辨スヘシ

第十條 前條々ノ理由ナルニ依リ銀兩ヲ交換又ハ購收ヲナスノ手数料等ハ一切支給セサルコト

第十一條 資本金現金ヲ以テ運搬シ及ヒ他ノ物品ニテ輸送スルモ其方ノ適宜ニ使用ヲ爲サシムルニ依リ其運搬上ニ付テ危難及損失等アルモ一切其方ノ責任ナリ故ニ是等ノ事故ヲ以テ

第十二條 清國ニ於テ銀兩交換及購收ノ際其取扱上ニ就テ不都合ノ事アリ之レカ爲メ損失ヲ爲スモ皆其方ノ責任ナリ

第十三條 此ノ命令ハ滿一箇年ヲ以テ期トシ滿期ニ至リ再ヒ之レヲ命スルコトアラハ其節更ニ命令ヲ下スヘシ又期限中ニテモ實際施行上ニ於テ不適當ノ廉アラハ箇條ノ改正ヲ命令スルコトアルヘシ

第十四條 資本金下付セシ日ヨリ滿一箇年目ハ則チ此ノ命令ヲ解クノ日ナルヲ以テ期日至于資本金參拾萬圓ハ運滞ナク返納スヘシ

右條款ノ趣承諾ノ上ハ請書可差出此旨相達候事

明治十一年七月二十四日

大藏卿 大隈重信

右支那銀兩購收命令ハ明治十二年七月二十五日ヲ以テ滿期解約ノ答ナリシモ猶銀兩購收繼續ノ必要ヲ認メ其年八月十九日笠野吉次郎(熊吉)へ同十三年七月二十五日迄一箇年間該命令狀ノ條款其儘繼續銀兩購收取扱ヲ命令セシカ元來紙幣ヲ以テ内國物産ヲ購收シ之ヲ清國ニ輸出シ其代價

ヲ銀兩ニテ收受スレハ一ハ以テ國產ノ輸出ヲ増加シ且地金ヲ輸入スルノ道ヲ得ヘク一ハ以テ造幣局ノ幣材ニ充テ其成貨ニテ預ケ合銀貨戻入ノ豫備トナスヘキニヨリ明治十三年九月十三日大藏卿佐野常民ハ更ニ一箇年ノ延期ヲ太政官ニ稟伺シタルニ聞届ケラレス依テ同年十二月三日重ネテ裁許ヲ仰キタルモ遂ニ聞キ届ケラレス右貸下金ハ同十四年六月迄ニ完納セシムルコト、ナレリ

又朝鮮砂金ノ購收ニ關シテハ明治十五年七月十日大阪協同商會社長高須謙三ノ買上願ニヨリ同月二十九日砂金買上手續ヲ通達シタルカ同年十一月一日同人ヨリ重ネテ前渡金下付ヲ請願シタリシカ同月三十日運賃下渡ハ聞届難キモ一時多金入用ノ節ハ前金下渡方聞届クヘキ旨ヲ指令セリ右砂金買上手續ノ全文左ノ如シ

砂金買上手續

第一條 朝鮮國產出砂金ヲ上納スルモノハ造幣局精製分析所ニ於テ溶解ノ上同局ノ試験前大坂出納局出張所ニ於テ凡代金ノ八分通ヲ假リニ下付スルコトアルヘシ

但該國產出砂金ヲ溶解シテ塊トナシ該國在留大阪協同商會社員ノ試験表ヲ添へ上納スルモノハ精製分析所ノ溶解前該試験表ニ據リ算出セシ代金ノ九分通ヲ假リニ下付スヘシ依テ大阪協同商會ハ試験方ノ姓名印鑑及金塊ニ打込ムヘキ極印ハ豫メ出納局大阪出張所ニ届置クヘシ

第二條 造幣局ノ試験報告ヲ得レハ即日若シクハ其翌日代金ノ決算ヲナスヘシ尤試験報告ハ凡五日間ト假定スルト雖モ造幣局工業ノ都合ニ因リテハ多少伸縮スルコトスル可シ

第三條 第二條ノ決算ニ因リ第一條ノ假渡金代金ニ不足スレハ殘金ヲ下付スヘク若シ渡過トナリタルトキハ其過金ニ假渡中ノ利子ヲ添へ直ニ上納スヘシ

第四條 第一條ノ假渡金ニ對シ假渡當日ヨリ決算前日マテ及決算當日ヨリ左ノ日數ニ照シ確定地金代金ニ對スル利子徵收スヘシ但試験済ノ日決算シ得サルトキハ試験済ノ日ヨリ決算前日マテノ日數ヲ左ノ日數中ヨリ控除スヘシ

金銀貳百圓以上五百圓未満 (試験済ノ日ヨリ二十日)

同五百圓以上千圓未満 (試験済ノ日ヨリ二十日)

同千圓以上五千圓未満 (試験済ノ日ヨリ二十五日)

同五千圓以上壹萬圓未満 (試験済ノ日ヨリ二十八日)

同壹萬圓以上臨時取極ムヘシ

第五條 利子ノ割合都テ壹萬圓ニ付一日金壹圓タルヘシ

第六條 精製費及試験費ノ利子ハ代金ノ内ヨリ引キ去ルヘシ

第七條 地金代金ハ下渡前日大阪株式取引所午前午後平均相場ヲ複平均シ紙幣ニ換へ下渡スヘシ

但其相場立タサル時ハ同地刊行商要新報見當相場ニ據ルヘシ

第八條 此手續ニ據リ假渡金ヲ下付スヘキモノハ大阪府下ニ定マリタル住居アリテ身元確實ト見認ムルモノニ限ルヘシ但シ是等ノ者保證人ニ立チタルトキハ他府縣下住居ノ者ト雖モ亦假渡金ヲ下付スルコトアルヘシ

第九條 造幣局定期休業中ハ代金ノ假渡ヲ爲サ、ルヘシ
尋テ明治十六年七月二十一日砂金買上手續中左ノ如ク改正ヲ施セリ蓋シ造幣規則ノ改正ニ伴ヒ
改定ヲ要スルモノアルヲ以テナリ

砂金買上手續改正 (明治二十六年七月二十一日)

第一條 第一項八分通りヲ九分通ト改メ第二項九分通ヲ九分五厘通ト改ム
第四條 左ノ通り改正ス

第一條ノ假渡金ニ對シ假渡當日ヨリ決算前日マテ又決算當日ヨリ造幣局地金勘定書ノ貨幣
拂渡期日(期日カ日曜ナレ)ノ日數ニ照シ地金勘定書ノ成貨高ニ對スル利子ヲ引キ去ルヘシ但
價格貳百圓未滿ノモノハ決算當日ヨリ日數十五日間成貨高ニ對スル利子ヲ引キ去ルヘシ

第六條 左ノ通り改正ス

精製分析料等ハ別段造幣局ニ收入スヘシ

第七條 但書左ノ通り改正ス

但其相場立タサルトキハ相當ナル氣配相場ニ據ルヘシ

第九條 左ノ通り改正ス

在朝鮮協同商會支店ニ於テ試驗鑄解及分析濟ノ證左アルモノハ造幣局定期休業中ト雖モ假
渡ヲナスヘシ

第十條 追加

出納局大阪出張所ニ於テ砂金品位千分中金銀分七百五十分未滿ト見認メタルトキハ假渡ヲ

ナサ、ル可シ若シ造幣局ニ於テ試驗分析ノ上造幣不適當ニシテ返却スル場合ニ於テハ假渡
金及其利子ハ勿論造幣規則第十四條ノ費用ヲ添テ納ムヘシ

然ルニ明治十七年一月ニ至リ第一國立銀行頭取澁澤榮一ヨリ支那銀兩及朝鮮砂金購入取扱方ヲ
命セラレンコトヲ政府へ出願シ同時ニ右金銀購入代トシテ政府ヨリ正金銀行へ下付セル海外荷
爲替金中ヨリ參拾萬圓ヲ一箇年三朱ノ利子ヲ以テ前渡ヲ受ケ度キ旨ヲ願出テタリシカ大藏省ハ
同年二月十三日ヲ以テ同行ニ支那銀兩及朝鮮砂金買入方ヲ命シ國債局ヨリ買上代前金トシテ參
拾萬圓下渡スコト、シ左ノ如ク指令ヲ與ヘタリ

一 前渡金ハ紙幣參拾萬圓下渡スヘク候ニ付抵當トシテ公債證書時價參圓劣ヲ以テ差出スヘ
シ

二 前渡金下渡當日ヨリ決算當日マテ年四分ノ割ヲ以テ毎六箇月間利子ヲ上納スヘシ

三 前渡金ハ下渡當日ヨリ滿六箇月以内ニ銀兩及砂金ヲ上納シ決算スヘシ

四 前渡金決算濟ノ上ハ更ニ前渡金ヲ下渡スヘキニ付一箇年二回以上決算スヘシ若シ便船ノ
都合等ニ因リ止ムヲ得サル事故アリト雖モ一回半以上決算スヘシ

五 前渡金ニ對シ決算ノ爲メ上納スヘキ銀兩及砂金ハ出納局大阪出張所へ上納スヘシ

六 上納ノ銀兩及砂金ハ出納局大阪出張所ニ於テ直ニ造幣局ニ輸入シ同局ニ於テ試驗分析ノ
上回付ノ地金勘定書ニ記載ノ成貨高ノ内試驗濟ノ日ヨリ成貨拂渡期日(期日カ日曜ナレ)マテ壹
萬圓ニ付一日金壹圓ノ割ヲ以テ利子引去殘高ヲ紙幣ニ換算シ其内ヨリ精製分析料(精製ヲ
要スルモノナレハ)ヲ引去リタル高ヲ代金トシ該出張所ヨリ受取證書ヲ交付スヘシ

但本文受取證書ハ國債局ニ上納シ前渡金ノ決算ノ手續ヲ了スヘシ尤前渡金ノ利子ハ本文
試驗濟前日マテニ上納スヘシ

七 前項紙幣ニ換算相庭ハ試驗濟前日大阪株式取引所午前後直取引平均相庭ヲ復平均スヘ
シ若シ其相庭立タサルトキハ大阪商要新報氣配相庭ニ據ルヘシ

八 上納ノ銀兩及砂金造幣局ニ於テ試驗ノ上造幣不適當ナルカ其他ノ事故ニ因リ銀兩及砂金
ヲ返却スルトキハ造幣規則第十四條ニ掲クル費用ヲ上納スヘシ

九 地金購入ニ付一切ノ費用ハ勿論何等ノ損失ヲ生スルモ都テ其銀行ノ負擔タルヘシ
十 此手續ハ滿一箇年限リトス期限ニ至リ前渡金ハ無延滞返納可致事

然ルニ第一國立銀行ハ其後本邦輸出品不捌ニシテ爲換相場ノ出合惡シク爲メニ當初ノ目的ヲ達
シ難キ旨ヲ以テ同年十一月二十日更ニ置據貸下變更ノ義ヲ請願セシモ大藏省ハ同年十二月十一
日紙幣拾五萬圓年六分利付ヲ以テ下渡スヘキニ付滿一箇年間ニ二回以上地金ヲ以テ上納決算ス
ヘク從前下付セシ參拾萬圓ノ殘金ハ直ニ返納スヘキ旨ヲ指令セリ

其他三井物産會社及長崎第十八國立銀行ヲシテ砂金等地金銀ノ買收ヲナサシメタルコトアリ即
チ三井物産會社ヘハ明治十五年五月清國紋銀購收ノ爲メ前渡金拾五萬圓ヲ下付シ五箇年間ニ紋
銀代金ニテ決算スヘキコト、ナセルモノニシテ又長崎第十八國立銀行ヲシテ地金ノ購入ヲナサ
シメシハ明治十九年九月二十五日同行頭取松田源五郎ノ請願ニヨルモノニシテ同年十月一日向
一箇年間前渡金參萬圓ヲ下付シテ之カ購入ヲナサシメタリ

第三節 銅地金ノ購收及賣却

銅地金ノ購收ヲナシタルハ明治四年新貨條例(明治八年貨幣)
條例ト改稱スヲ以テ新銅貨鑄造ノ事ヲ制定セラレ
タルニ依リ其鑄造ノ材料ニ供シタルモノニシテ金銀地金ト同シク各準備金規則ニ據リ購入ヲナ
シタルモノトス而シテ政府ハ銅地金購入ノ外銅地金及銅貨ヲ時機ニ依リ賣却ニ付シタルコトモ
亦甚タ多シトス

新銅貨原料トシテ採用セシ銅地金ハ官鑛丁銅即チ鑛山局ヨリ收容セシモノ其多キニ居ルト雖モ
又私人ヨリノ購收ニ係ルモノ頗ル多シ例ヘハ別子銅荒川銅等ノ如キ即是ナリ而シテ毎年新銅貨
幣材トシテ要セシ所ノ地金ハ凡百五十萬斤ニ下ラサリシトイフ然レトモ明治十七年十月第二十
六號布告ヲ以テ同十九年十二月限リ天保錢通用ヲ禁止シ漸次新銅貨ト交換シ其交換濟天保通寶
ハ之ヲ改鑄シテ新銅貨幣材ニ供用スルコト、ナリシヲ以テ爾後其不足額ノミ之ヲ官鑛丁銅ニ採
リ又私人銅ヲ購收スルコト、ナセリ

案スルニ銅地金ノ賣却ヲナシタルハ明治四年十月、オリエンタルバンク(ハ委託シ銅百一萬五千斤
餘ヲ上海香港、カルカッタヘ賣却シタルヲ以テ嚙矢トシ引續キ翌十一月、ウオトリシホール會社ヘ
板銅及棹銅三百五十萬斤ヲ賣却セリ左ニ大藏省トウオトリシホール會社トノ約定覺書ヲ示スヘ
シ

大藏省トウオトリシホール會社ノ間ニ取結ヒタル約定ノ覺書

第一條 近來ウオトリシホール會社ハ大藏省ヨリシテ大ニ銅ヲ買取リタルニ付大藏省ニ於テ

東京大阪兩府ニ在ル所ノ板銅及棹銅ノ全高ヲ全クウオーリシホール會社ノ處置ニ任センコトヲ承知セリ其高ハ大抵三萬五千ビュル(即我カ三百五)程アリ

第二條 外國へ右ノ銅ヲ積ミ出サンカ爲メウオーリシホール會社ヨリ銅ノ賣場所ヲ求メテ不
斷世界中各所ノ價位ヲ大藏省へ報告スヘシ

第三條 此約條ニ由テ行フタル船積ハ皆半分宛ノ勘定ニテ其利益ハ不殘ウオーリシホール會
社ト大藏省ト平等ニ分配スヘシ損失ヲ生シタル時ニハ悉クウオーリシホール會社ヨリ辨ス
可シ

第四條 此約條ニ由テ輸出シタル銅ハ何レモ其價ハ一ビュル(百斤)ニ付十五弗三十五セントナ
ル可シ尤モ稅ハ濟ミタル者ナル可シ

第五條 五分ノ輸出稅ハ橫濱或ハ大阪ニ於テウオーリシホール會社ヨリ拂フ可シ去リナカラ
之レハ再ヒ大藏省ヨリウオーリシホール會社へ拂戻ス可シ

第六條 其銅ノ代價ハ一ビュル(百斤)ニ付十五弗三十五セントノ中ヨリ五分ノ割合ノ税金ヲ引
キウオーリシホール會社ヨリ其銅ヲ受取リタル上ニテ大藏省へ相拂フ可シ

第七條 棹銅ハ箱ニ入レ板銅ハ莖包ニナスヘシ尤其入費ハ大藏省ヨリ辨ス可シ

第八條 其銅ヲ船積スル時ニハウオーリシホール會社ヨリ其船積ヨリ三日以前ニ大藏省へ願
出ス可シ

第九條 東京大阪ニ於テ銅ヲ船積スル時ノ運送船ハウオーリシホール會社ヨリ其賃ヲ拂フ可
シ而シテ其格護土藏ヨリ船マテノ人足賃錢ハ大藏省ヨリ拂フ可シ

第十條 船積ノ事ニ就テノ判斷ハ全クウオーリシホール會社ニアルナリ

第十一條 右銅ヲ賣捌キタル時ニハ速ニ其勘定書ヲウオーリシホール會社ヨリ差出ス可クシ
テ斯ル勘定書ハ何時ニテモ大藏省ノ檢査ヲ受クヘキナリ

右ノ證據ノタメ西曆一千八百七十一年第十二月十三日邦曆明治四年十一月二日日本東京ニ於
テ所謂約定連中ヨリ各其名前ヲ記シ且其花押ヲ茲ニ貼スルモノナリ

井上 大藏 大輔

ウオーリシホール會社

明治九年及同十年ノ頃舊銅貨寬永通寶ヲ清國上海並ニ其他地方へ賣却シテ支那錢ト共ニ流通セ
シメタリシカ是ヨリ先キ右貨幣清國輸出ノ議アルヤ其賣却代金及需要ノ景況等ニ付上海總領事
品川忠道及在上海ビットマン氏ノ提出セル取調報告書ハ左ノ如シ

上海ビットマン氏ヨリノ報告書

上海到着ノ上余カ大久保公ニ呈晉セル第一報告ニ於テハ唯日本銅錢ノ支那へ販賣スルノ做シ
難カラサル旨ヲ記載シタルマテナリキ因テ斯ニ余カ探尋ノ結果ト著手ノ手續トノ詳細ヲ報告
セントス

先ツ第一余カ尋問セル所ノモノ即チ海關稅ノコトヲ左ニ陳說スヘシ
海關稅ノコト

條約面ニヨレハ兩國ノ銅錢ヲ輸出スヘカラストアリサレトモ其輸入ノコトニ至テハ何タル明
文ナシ故ニ無稅タルヘシトス又余カ見聞スル所ニヨリテ之ヲ察スルモ日本銅錢ノ必ス無稅通

關ヲ許サルヘキハ疑ヒヲ容レヌ乍去謹慎著手ニ之ヲ行ヒ決シテ一時ニ其大數ヲ輸入スヘカラ
 ス若シ一時ニ巨量ヲ輸入スルアラハ支那官人ハ通貨ノ相場等ニモ關係スルモノ故同人等ノ妬
 心ヲ起サシメ日本カ支那ノ通貨ニ觸手スルヲ名トシ斯ク日本カ銅錢ヲ輸入スルアラハ必ス支
 那銅錢ノ價格ヲ殞スヘキハ疑ヒナシトテ其輸入ヲ禁スルモ測ルヘカラス
 又一時ニ巨量ノ銅錢ヲ輸入シテ税關吏員ノ視目ヲ攪動セサルヲ良策トス然ルモノハ他ナシ近
 頃上海税關ハ從前條約上無税ノ外國品ヘモ税ヲ課スヘキ見込アリテ其論議アル由ヲ聞知ス而
 シテ其吏員ノ首トシテ論スル所ヲ聞クニ同人等ハ條約ノ精理ヲトリテ言辭ヲトラス又條約面
 ニハ唯外國人ノ使用ニ供スヘキ物品(玻璃器)ノミニ無税通關ヲ許シタルマテニテ若シ夫等ノ支
 那人民ノ爲ニ輸入サル、トキハ無論輸入税ヲ課セサルヘカラスト此ニ由テ之ヲ觀レハ巨量ノ
 銅錢ヲ輸入スルアラハ税關吏員ハ假令ヒ日本トノ條約面ニヨレハ明ニ賦税ノ權利ハナキニセ
 ヲ免ニ角輸入税ヲ請求スヘシト思ハル、ナリ
 余カ此ノ一點ニ斯ク説キ至ルモ必竟閣下ヲシテ(銅錢輸入ニ付キ困難)其確然タル形況ヲ認ル迄
 ハ一時ニ大數ヲ輸入スヘカラサル所以ヲ明瞭ナラシムルカ爲ナリ
 支那銀行者ノ説話ニ云ク是迄屢支那南部ヨリ巨多ノ銅錢ヲ茲ニ輸入セシカ別ニ故障ナキ故輸
 入税ニ付キテハ蓋シ何等ノ論議ナカルヘシト
 銅錢ノ種類
 當省ニ於テ重ニ支那人ノ用ユル銅錢ハ青銅錢ニテ其眞價ハ頗ル日本銅錢ニ劣レリ
 A號見本ハ支那ノ通用錢ニテ大サ何レモ一様ナリ而シテ本日ノ相場墨銀一弗ニ付一一七〇ノ

割又時トシテ墨銀一弗ニ付一一六〇ヨリ一二〇〇マテノ高低アリ

B號見本ハA號ト同種ノモノナカラ唯少ク粗惡ナル金屬ノ交物アリテ其價格墨銀一弗ニ付一
 二〇〇ノ割合ナリ

上海ヨリ凡半經線五十里以内ニアル近郡ノ使用スル處ノ銅錢ハ大抵上海ヨリ供給スルモノタ
 リ(蘇州漢江ノ郡邑モアリ)然レトモ其線以外ニアル郡邑ヘハ上海ヨリ之ヲ供給セス然ルモノハ
 夫レカ爲メ上海定價ヨリ何分カノ利ヲ占ムルアルモ運送費内地税ヲ差引カハ詎リ得失ナキ故
 ナリ

上海近傍ニ於テハ大少銅錢ニ置キ別ニ區加ヲ立テス而シテ支那錢ハ日本第一號最小銅錢(壹厘)
 ヲリモ大ニシテ且厚(固コリ)目(キ)モ其價格ニ至テハ別ニ差異ナシ又假令日本錢ハ銅質支那錢ニ
 勝ルモ支那人ノ説ニハ日本錢ハ支那錢ヨリモ脆ク隨テ碎ケ易キユヘ支那人民ノ間ニハ支那錢
 ト同一ノ價格ニ通用スヘカラスト

支那錢ハ必ス厚ク重キヲ定規トシ而シテ其量目ノ多キモノヲ貴トスルハ支那貧民ノ慣習ナリ
 キ例ヘハ支那錢一連(百枚ノ)ト日本小錢一連(百枚ノ)ヲ並ヘ置カハ支那錢ハ必ス日本錢ヨリ長カ
 ルヘシ又聞ク某郡ニ於テハ大抵下等貧民等ハ量目ヲ比較シテ錢價ノ標準トナセリト

日本壹厘錢(第三)ハ上海邊ニハ極メテ販賣シ易クシテ巨大ノ數ト雖モ漸次ニハ販賣サルヘシ實
 ニ銅錢市場ノ如キハ唯兼合ハカリノモノニテ少ク餘分ノモノアレハ忽チ大ニ其價格ヲ落シ官
 人ノ觸手ヲ引起スヘシ

日本大錢ハ多分支那北部ニハ容易ニ販賣サルヘシト思ヘリサレトモ先ツ小錢ヲ販賣スルハ日

本ノ上策ニシテ殊ニ支那人ハ大小錢ニ區別ヲ立テス且ツ支那人ハ實地老練ノモノニテ若シ大錢アルヲ認メハ必ス第一ニ大錢ヲ購求シテ其通用錢トナスヤ疑ナケレハ宜ク斯クナサ、ルヘカラス見ヨ先ツ小錢ヲ賣取スル間ニハ必ス大錢ノ價格モ其割合ニ準シテ増加セサルヲ得ス余ハ探尋ノ結果ヲ玆ニ終リ是レヨリ手續ノ詳委ニ論及スヘシ上海到著ノ上直ニ品川君ニ通信シ今回ノ事務ニ付キ是非トモ使用スヘキ手續即チ支那銀行ノ代理アセンシーニシテ相應ノ身代モアリ又各省ノ官人ヘモ權力アリテ巨量ノ銅錢賣取方ヲ擔當スヘキモノ、助勢ヲ得サルヘカラサル旨ヲ述ヘタリ

日本政府カ銅錢ヲシテ占價ノ地境ヲトスルニ付キ探尋スヘキ餘儀ナキ仲間ハ止ヲ得ス其他ヘハ多少ノ事故モアルユヘ今回ノ事務ヲ知ラシメサルヲ要スモシ然ラスシテ之ヲ世間ニ傳播セハ無益ノ議論ニ涉リ銅錢減價ノ影響ヲ引起シ結局支那貧民ノ堪ヘサルヨリ遂ニ官人ヲシテ之レニ關涉セシムルニ至ルヘシ

品川君モ全ク余ノ見込ニ同意ニテ余ハ同氏ニ余カ各般ノ作爲ニ付キ斷ヘス陳告スヘキユヘニ宜ク余カ作爲ヲ監督シテ之ヲ閣下ニ報告スヘキ旨ヲ語リタリ

余ハ綿密ニ探尋セシ後チヨレマーハンノ銀行ハ權力モアリ身代モアルモノニシテ諸事日本政府ノ今回ノ事務ヲ擔承スルニ適スヘキモノタルヲ發見セリ右銀行仲間ノ一名ハ余ノ曾テ知ル所ノモノナリキ

品川君ト諸事ヲ商議セシ上余ハ同氏ヲ右銀行者ヘ紹介シテ具ニ今回ノ事件ヲ尋問シタルニ同人等ハ「シンセー」銀行者三四家ヲ語ヒ共ニ日本銅錢ヲ輸入シテ漸次ニ之ヲ支那内部ノ諸省ニ分

配スルコトヲ擔承スヘキ旨ヲ語レリ加之同人等ハ日本銅錢上海到著ノ上買入相場墨銀一弗ニ付キ日本小錢一二三〇ノ割ト定メ其相場ニテ日本小錢(壹圓)十五萬テールヨリ二十萬テール迄ノ取引約條ヲ取結フヘキ旨ヲ語レリ勿論其場合ニハ約定金ヲ日本領事館ヘ差出シ相當ノ保證ヲ立ツヘシト

因テ余等ハ尙ホ同人等カ一弗ニ付キ一二三〇ノ割ト定メシ所以ヲ尋問シタルニ同人等ハ自己ノ手數及ヒ危難等ヲ百分ノ一半ト見積リ之ヲ其相場ニ込メ算當シタル旨ヲ答ヘリ又日本銅錢僅カ千テール乃至二千テール位ナレハ支那錢ト同一ノ價格即チ墨銀一弗ニ付キ一六〇ヨリ一二〇〇マテノ相場ニテ賣取シ得ヘキモ若シ巨量ノ高ナレハ一二三〇位ナラテハ之ヲ賣取スル能ハスト云ヘリ

又同人等ノ說話ニ云ク上海近傍ニアル諸省ノ需要ニ供スルナレハ右ノ相場ニテ二十萬テールノ高ヲ擔承スヘケレトモ若シ内部ノ諸省ニ供セントナラハ運送費ヲ拂フヘキカユヘ一弗ニ當ルヘキ銅錢ニ付一八ヲ増シ一二四八ナラテハ之ヲ引受カタシト尤モ一二四八ノ相場ナレハ前ニ云ヘル如ク約定金ヲ日本領事館ヘ出シ相當ノ保證ヲ立テ、八十萬テールノ買取約定ヲ結フヘシト此等ニ由テ推考スルトキハ余ハ同人等カ前ニ云ヘル一二三〇ノ割合ハ相當ニシテ上等ノ相場ト看做サ、ルヘカラス

此事件ニ付キ尙ホモ精密ノ境界ニ達センカ爲メ余ハ上海ニアル東洋銀行ト懇切ノ通信ヲナシタリ今之ヲ左ニ掲載スヘシ

同社ヨリノ答ニ云ク日本小錢一弗ニ付キ一二三二即チ一テールニ付キ一七〇〇ノ相場ナレハ

凡十萬テール位ハ漸次ニ賣販シ得ヘシト又云ク銅錢ハ必ス見本ト同様ナルヘシ又海關稅及ヒ賣捌方ノ責ニ任セスト其他同社ハ此事件ニ付キ多少ノ煩勞アルヘシト見込ユヘ約條ノ箇條ニ至テモ支那銀行者ハ全ク同一ナラス

余ハ右ノ實況ヲ悉ク品川君ニ示シ併テ閣下ノ最モ精密ノ基礎ニ由テ判決シ能フカタメ同氏モ更ニ尋問ヲナスヘキ旨ヲ要シタリ

支那銀行者ノ代人ハ銅錢ノ厚ヲシテ必ス見本ノ如クナラシムヘシトノ約束ハナサ、リシカ其大サニ至テハ予ノ示セル小錢(第三號)ト同様ナラサレハ買取ラサル旨ヲ語レリ

右代理者ハ品川君ニ語テ云クモシ余等ノ言ヲ承諾セシナラハ直ニ條約ヲ制定シ各郵船毎ニ要スヘキ量數ヲ報知スヘシ又郵船到着ノ上ハ直ニ其品ヲ引取り代價ヲ拂フヘシト

右銀行者ノ言ハ日本銅錢ノ支那錢ト同様ニ千個ヲ一貫トシタルモノヲ上海到着ノ上ニテ取引スルノ見積ナリ而シテ錢貫ノ事ニ付キテハ余ハ閣下ノ殊ニ注視センコトヲ望ム曾テ日本政府ヨリ支那ヘ銅錢ヲ輸入セントキ大失ヲ醸シタルモ詰リ錢貫ノ善良ナラサルカタメニアラスヤ品川君ヘモ具ニ此事故ヲ語リ且ツ上等ノ錢貫見本即チ廣東ニテ製スル芋製ノモノヲ送りタリ上海製ノ錢貫ハ鑄製ニテ錢ヲ貫スルニハ日本ニテ通常用ユル所ノモノニ勝ルト雖モ遠ク廣東製ノモノニハ及ハサリシ去リ逆代價ハ格別ノ差ナシ

廣東ニテハ錢貫一條(千個ヲ貫ス)ニ付キ代價凡貳厘(尤モ多分ニ買入ルハト)ナリ然ルニ上海ニテハ同様芋製ノモノニテ一條參厘ニシテ鑄製ノモノモ格別ノ差ナシ

右錢貫見本ヲ送付ス閣下宜ク照鑑アルヘシ蓋シ日本ニテモ同様ノ代價ニテ買入レラルヘシト

余ハ日本銅錢カ支那上海邊ニアリテ如何ナル地境ヲ占ムヘキカヲ報知スルニ付キ斯ク迄說至リタレハ最早殘ス所ナシト思考ス故ニモシ閣下ノ余カ建議ヲ可トスルアラハ電線或ハ郵船ヲ以テ此事ヲ完結スヘキ旨ヲ品川君ニ通知スヘシ

又閣下ニ陳言スヘキモノアリ外面ニハ何底マテモ品川君カ此事件ニ餘リ管預セサルノ狀ヲ示サ、ルヘカラス若シ左モナクハ同氏ノ職務上ニ於テ何カ議論ヲ生シタル場合ニハ幾分カ同氏ヲ困難ノ地ニ陥ラシムルアルヘシ

故ニ大藏省ノ吏員ヲ上海ニ派出セシメ品川君竝ニ余ト共ニ此事務ニ從事セシムルヲ好トス尤モ此事ハ品川君ノ見込ヲ寫出シタル迄ニテ決シテ余ニ於テ別ニ意見アルニアラス

扱第一ニハ先ツ三菱郵船ニ託シ小銅錢一萬テール程ノモノヲ送ハス

余ハ日本ノ材木カ頗ル支那ニ需求セラルヘキコトヲ明言シ得ヘキナリ余ヲ以テ之ヲ觀レハ日本木材ノ到底支那ニ需求セラレサルヘカラサルコトハ恰モ鏡ニ照シテ見ルカ如シ(中略)

三菱會社借庫ハ波戶場近所ニアリテ至ツテ便利ナルユヘ銅錢積込ノ費用モ極メテ僅少ナルヘシトス

日本木材ノ形況ニ付テハ未タ何タル實況ヲ得サリシ乍去支那ニ於テ之ヲ用ユルハ極メテ盛ニシテ且ツ賣販ノ利益モ多トス然レトモ其見本ノ到着スルヲ待テ詳細ノ實況ヲ報スヘシ

上海竝ニ南部ヨリ絕ヘス北部邊ヘ木材ヲ送ルハ夥多ナレトモ上海ヨリノ分ハ皆曾テ茲ニ輸入サレシモノナリ

銅錢ハ上海日本領事館へ宛テ之ヲ輸送スヘシサスレハモト無税ノモノユヘ支那税關吏ヨリ何故日本領事館ニテ之ヲ要スルヤヲ尋問スヘキ條理ナシ日本領事館へ宛テ之ヲ輸送スルトキハ好シ衆人ノ耳目ニ掛ルコトアルニセヨ領事館ノ入用三菱汽船ノ需用等ノ爲メ之ヲ輸入セリト辯解シ能フヘシ

銅錢荷造ニハ厚キ莖製ノ莖(左程費用モカ)ニテ之ヲ包ミ上海へ輸送スヘシ
余ハ此報告ヲ終ルニ臨ミ日本政府カ銅錢賣販ニ付キ容易ニ其欲スル所ノ好結果ヲ占ムルノ基礎ヲ立ルモ必竟余カ注意ノ補フ所尠カラサルヘシト云ハサルヘカラス
於上海

千八百七十六年四月十七日

ジョン、ピットマン

參議兼大藏卿 大隈 重信 閣下

上海ピットマン氏ヨリ第二回報告書

余ハ不幸ニシテ去十八日付ノ拙輪ヲ廣島丸ニ託スルノ機會ヲ失ヒ漸ク外國船ヲ以テ長崎マテ郵送シタリシカ故該狀ハ多分此書狀到着ノ前閣下ノ許ニ達セサルヘシ
銅錢ノコト

余ハ此趣旨ニツキ爾來北京ニアル英國公使館在勤ノ支那書記官、メイルス氏ト面談シタルニ同氏ハ條約面中何レノ條款ニ於テモ銅錢ヲ輸入スル爲メ海關稅ヲ拂フヘキ明文ナキ旨ヲ語レリ去リナカラ銅錢輸入ノ高ハ宜ク其量ヲ過サスシテ之レカ爲メニ通用錢ノ價格ヲ狂シ又ハ支那官吏ノ動搖ヲ招カシメサル様セサルヘカラサルコトヲ論セリ

又同氏ハ接近ノ諸省ニアル支那錢ノ錢貫ニ列ナルモノヲ見ルニ其中殆ント五分ハ日本ノ銅錢タルコトヲ思考セシ旨ヲ示セリ (中略)

支那銀行者ノ兼テ銅錢ノ事ニ付約ヲ結ハントセシモノハ既ニ支那北方ノ景狀ヲ熱視センカ爲メ該地ニ向テ發途シタルハ同人歸港ノ上其探訪ノ結末ヲ閣下ニ報スヘシ余ハ又黃河ノ總督ヲ訪ハン爲メ凡ソ十日程内地へ趣ク積リナリ一體該河ノ總督ハ前ノ該省ノ總督、ツイキボフハンノ兄弟ニシテ黃河ト某ノ大溝トニ土工ヲ起ス儀ニ付キ余ニ面接センコトヲ乞ヒタルモノナリ掘鑿機械ノ明細書ハ當港ヨリ只今注文アリタル故送付セラレンコトヲ冀望ス尤モ右ハ容易ニ販賣セラルヘシ

余カ以上陳白スル所ノ卑見ハ閣下ニ裨益アルヘシト信スルナリ、頓首
千八百七十六年四月二十五日

在上海

ジョン、ピットマン

參議兼大藏卿 大隈 重信 閣下

二白

余カ筆ヲ擱カントスルニ臨ミ偶、支那人來テ銅錢ノ事ニ付予ニ告クルモノアリ品川君ノ目前ニ於テ談話ニ及ヒタルニ年々日本銅錢ノ巨額ヲ送ル爲支那諸省ノ官吏トノ結約ハ容易ニ整フヘシト語レリ(恰モ往年日本カ海外諸國ノ爲ニ其海關ノ開カサルノ前長崎)又舊銅錢賣買ノ爲支那人ヨリ長崎ノ官吏ニ拂フヘキ巨額ノ負債アリタルハ之ヲ返辨セント欲セハ能フヘキ旨ヲモ語

レリ

在上海總領事品川忠道ヨリノ報告

今般「ピットマン」へ御託相成候舊銅錢寬永通寶ヲ本埠其他清地へ賣却ノ儀御示談相成候旨同人渡滬ノ上申聞候ニ付尙熱談ヲ遂ケ此地へ祥茂北棧駁ヲ開キ居リ候何福蔭ト申清國人左件ノ通リ申出候

- 一 貴國ノ寬永通寶ハ大小ノ不同ナク却テ清國同形ノ銅錢ヨリ成分宜敷候得共借哉形大ニシテ厚サ薄ク清國人ハ壹百文ヲ一目スルニ長短ヲ以テ其貫錢ヲ見厚キ方ヲ相好ミ候情有之日清兩種混合シテ通用不致テハ惡シカルヘキコト
- 一 外物トハ異リ金錢ハ特更ニ多數ヲ輸入セハ直ニ市井ノ相場ヲ下シ賣出スルニ障碍アレハ唯ニ外人ノ目的ニ多ク觸レサル様致度
- 一 然ル時ハ銅錢御引渡ノ翌日洋銀一弗ニ付壹千貳百五拾文換ニテ内一分五厘ヲ口錢ト定メ何程ナリトモ引請可申乍併三千弗分ノ銅錢ニ多カラサル員數ヲ一艘毎ニ持入候方可然
- 一 前條ハ拙者カ熱懇ノ清國銀行仲間ノ者ト談合ノ上永久公平ノ策ヲ以テ毫厘モ私營ナキ處ヲ申出ル事ニ出レハ他方御問合相成候モ是ヨリ外貴邦ニ取テ都合好キ御取引ハ出來間敷ト存候

右ハ小官「ピットマン」同道ニテ何福蔭竝ニ此者親懇ノ徐侶雲へ談判ノ概略ニ御座候「ピットマン」ヨリ各洋行へ問合候處是以テ同様ノ事ニ申出候右何氏ハ有福ノ者ニシテ右様ノ取扱爲致候ニハ懸念有之間敷ト被存候

一 錢貫キ竝ニ支那通用ノ銅錢ハ「ピットマン」氏ヨリ今便御照合ノ爲メ送呈候ニ付是ニテ御承知被下度願上候

一 通商章程第二十六款ニ兩國ノ銅錢ハ規則ニ從ヒ本國內ノ別港ニ積廻シノ外何レモ海外ニ輸出スルヲ許サスト有之輸入ノ事ハ記載致居ラス乍併金銀貨ト違ヒ銅錢ヲ鑄造スルハ若干歟其政府ニ利益アレハ之ヲ外邦ヨリ輸入スルハ其國ノ損亡尠カラス故ニ條約面ニ輸入ヲ禁セスト雖モ之ヲ過分輸入セハ果シテ清官其損亡ヲ解得シ終ニ難論ヲ發スルモ難計ト存候ニ付希クハ堂々不持入方良策ト奉存候特ニ過分輸入セハ相場上ニ於テ大關係ヲ生シ候ニ付毎一艘ニ二三千弗丈ケノ銅錢ヲ三菱社遺用ト積荷目錄上ニ唱へ持入一應該社ノ土蔵ニ入レ置遂ニ何福蔭へ相渡方可然ト奉存候

一 天保錢ハ清地何港ニ於テモ不通用ニ付御送清御見合ノ方可然ト奉存候
此外御國ノ俗ニ波錢ト唱へ候同形ノ大錢ハ別副ノ康熙通寶ニシテ天津北京ノ間ニ相用來候是ハ多分天津ニ御送致相成候ハ、取難流通可致ト奉存候故ニ池田天津副領事へモ其合ニ申遣置候尙右條ニ付テハ後便委細具陳可仕候也

九年四月十八日

大藏卿 大隈重信 殿

總領事 品川忠道

明治十年七月三十一日大藏卿大隈重信ハ太政大臣ニ建議シテ交換溜リ或ハ諸上納トナリシ舊銅貨ハ漸次銷潰シテ新銅貨ノ地金トナシ又ハ時機ニ依リ賣却スヘキコトヲ上申シ其允可ヲ得タリシカ當時東京本所川崎八右工門ヨリ舊銅貨銷潰方及銅塊拂下ヲ請願セシヲ以テ之ヲ許可シ其遊

守スヘキ條件ヲ左ノ如ク通達セリ

- 一 貳厘錢枚數七萬六千九百二十三枚分此量目百貫目ト見做シ鑄流後ノ減量ニ不拘右七萬六千九百二十三枚ヲ鑄潰之レヲ代金七拾八圓貳拾貳錢六厘換ノ割合ヲ以テ拂下可致事
- 但鑄潰ノ儀ハ拂受人受持ニテ其費用竝運搬入費等モ拂受人ヨリ相辦可申事
- 一 壹厘五毛錢十一萬千百十一枚分此量目百貫目ト見做シ前同斷八拾八圓八拾錢換ヲ以テ可相納候事

一 今般可拂下舊銅貨ノ總高ハ通貨ニテ凡拾貳萬圓計内貳厘錢貳萬九千圓壹厘五毛錢九千圓淺草御藏ニ於テ可相渡候事

一 原種鑄潰ノ節ハ立會官員出張取締致候條前以テ該場所等可申出候事

- 一 銅貨ノ儀ハ受取證ヲ以テ假ニ預ケ置キ候得共全ク該貨ハ鑄潰ノ上代金ト引換可相渡候事
- 一 舊銅貨預ケ高ニ對シ差出置候抵當品ノ儀ハ諸公債證書ノ内ヲ以テ可相納拂代金上納ノ節可下戻候事

一 右承諾ノ上ハ速ニ受書可差出候事

明治十年七月三日

明治十二年一月十三日在大阪大藏權少書記官河崎齊ヨリ大阪造幣局ニ苦在セル丁銅七十萬八千九百斤餘及ヒ漸次鑛山ヨリ收入スヘキ銅地金ハ貨幣材トシテ需用ナキニヨリ賣却ニ付スヘキ旨ノ建議ヲ爲セリ此建議ハ本邦銅地金ノ沿革竝ニ海外輸出ノ見込等頗ル參考ニ資スヘキモノ多キヲ以テ茲ニ之ヲ掲ク

銅地金ハ海外輸出ヲ速ニセサル可ラサルノ議

造幣局ニ於テ新銅貨鑄造ノ幣材ハ從前每一年度間丁銅及ヒ秋田間吹銅ニシテ凡ソ百五十萬斤(即八百九十九噸餘)ヲ供用スルヲ例トス而シテ本年度中之ニ充ツヘキ幣材ハ天保錢凡千〇〇三噸ヲ以テ其需用ニ供スル豫算ナリ假令臨時工業上ノ便宜ニ依リ幾分ノ丁銅ヲ要スルモ例年ノ四分一即三十七萬斤以内ニテ十分ナルヘシ然ルトキハ現ニ大阪ニ蓄在セル丁銅七十萬八千九百斤餘及追次鑛山ヨリ收入スヘキ銅地金造幣材ノ爲ニハ需用ナキモノタリ故ニ別途ノ處分ヲ要セサルヲ得サルノ時機ニ際セリ於是乎先ツ我國古來產出銅ノ景況及ヒ其何等ノ方法ヲ以テ之ヲ處分シタルカヲ稽ヘ次ニ目今大阪市場ノ景況ヲ探リ之ヲ開陳シテ以テ將來處分上ノ參考ニ供ヒン

トス

貨幣史(實價)ヲ按スルニ貞觀十八年ノ令ニ曰百姓長門ノ銅ヲ私採シ雜品ヲ作り商賣ヲ事トス例進ノ錢少ナキハ之ニ由ル故ニ之ヲ停ムト又延久二年官使ヲシテ銅金青等ヲ尋ネシムル等ノ事アリ然リト雖モ其事遠慮以テ稽フカラス徳川氏政權ヲ執ルニ及ンテ元文三年令シテ曰近年銅出ルコト不規則ニシテ長崎ヘ回送スルモノ少ナキニ付今回銀座加役トシテ大阪ニ銅座ヲ設ケ諸國銅山ノ出銅ハ悉ク其座ヘ買受ルニヨリ他所ヘ賣ラスシテ回送セヨ但試掘ニテ出銅少ナクトモ其座ヘ賣渡スヘシト且ツ長崎回リハ元價ヲ定メ他賣ハ時價トシ銅銀シホリ吹竝ニ銅吹立ハ大阪銅吹座ニ限リ諸國ノ銅ハ大阪銅座ニテ買入レ人民ヘハ大阪江戸ノ銅座ニテ賣ルヘシ等八箇ノ條目アリ爾來實曆明和天明寛政文化天保文久ノ諸年之ヲ追令スルモノ數條アリテ徹頭徹尾一意ニ諸鑛ノ出銅(即荒)及古銅地ニ至ル迄悉ク之ヲ銅座ニ推賣セシメ之ヲ精銅シテ其幾分

ヲ長崎ニ回送シ(文化年間刊行該銅鑄ニ曰ク銅ニ長崎和市ノ資ニ供スル者アリ別子秋田南部
 スル者曰ク別子秋田南部ノ三山ニ荒銅ノ儘長崎銅鑄ヘ納メテ其高古昔ハ詳ナラザレトモ
 應ノ頃ハ三山ニ百八十萬斤外ニ荒銅ノ儘長崎銅鑄ヘ納メテ其高古昔ハ詳ナラザレトモ
 カハ運搬ノ便ニ依リ不便ナルヲ訴ヘ凡五十斤ノ分モ三山ノ銅塊ニ製セシメ凡三十萬斤モ精銅
 外對州宗氏ノ依頼ニ依リ朝野貿易ノ爲毎斤一分ノ銅ノ下計リ銅ノ下計リ銅ノ下計リ銅ノ下計リ
 實波セリ此銅ハ二種ノ物即百斤ニ枚及ヒ目今一斤計リ銅ノ下計リ銅ノ下計リ銅ノ下計リ
 用トシテ之ヲ拂下ケ又ハ寛永以降ノ諸錢或ハ磁品等ノ料トナル如シ(方銅目録ニ曰ク其機
 ケハ皆匠師ノ種子ノ用方長ナル者ハ承露ノ用長條ナルモノハ條條ノ用アリコト蓋シ其機ノ機
 鑄道々江戶邊トシテ其代價又曰ク運搬ノ分ハ追々往復セシキ事アリ而シテ市中銅ハ専リ
 斤據リ同年々三箇度宛合九十萬斤ノ拂下ケナリ三十萬(明治維新ノ際ニ於ケルヤ戊辰四月ヲ以テ布告
 シ舊銅座ノ遺制ニ依リ大阪銅會所(同年七月續山)ヲ設置シ諸國ノ出銅及ヒ古銅地銅ヲ右會所ニ
 致サシム而シテ二年二月ニ於テ續山司ニテ定位ヲ設クト雖モ時價賣買不苦外國賣渡ハ必ス運
 上所ヘ届出ノ上計フヘシト令シ續テ翌三月五步稅ニテ輸出ヲ令シ一時稍其禁ヲ弛メ更ニ同年
 十一月ニ於テ新貨幣鑄造ニ付金銀銅トモ(東京竝ニ大阪)大藏省ニ於テ相當ノ價ヲ以テ買上ケ諸
 方ニ於テ勝手賣捌ヲ禁スト令シ尋テ四年七月ニ至リ金銀銅トモ國內限リ勝手賣買自由營業セ
 シメ銅ハ是迄ノ通り五步稅ニテ輸出ヲ許可ス於是乎古來銅地推賣ノ禁始テ全ク放解除セリ
 右ノ經歷ニ據レハ今ヲ去ル十年前迄ハ其禁令ヲ嚴ニシ銳意之ヲ推賣セリ(之ヲ商況ノ第一期トス)明治二年
 二月發令時價賣買ヲ許シ稍其禁ヲ弛ムルニ當リ商況漸ク一變シ大阪市中該商業ニ從事スルモ
 ノ二様アリ曰ク銅吹商ナリ銅地金商ナリ銅吹商ハ各礦ノ荒銅ヲ購入シテ之ヲ時好ノ精銅ニ製
 シ銅地金商ハ其精銅ヲ以テ之ヲ各地ノ得意先キ及府内ノ銅器商ニ販賣スルヲ業トス是時ニ當

リ住友吉左衛門ナル者アリ從來官府推賣ノ際ニ於テ久シク銅吹商中ノ魁ニシテ加フルニ昔テ
 別子ノ銅礦ヲ所有セルヲ以テ内地需用延地銅ノ供給ノミニテハ到底所産ノ續銅ヲ賣捌キ得ヘ
 カラサルヲ覺知シ大ニ其工作ヲ改良シ銅礦ノ所在ニ就キ銅吹所ヲ設ケ彼ノ德川氏ノ末路條銅
 ノ運輸ニ便ナラサルヲ以テ一束シテ銅塊ヲ作ラント試ミタル遺意ニ則リ丁銅十八枚ヲ以テ百
 斤ノ量ニ適セシメ之ヲ製銅シテ(續川氏)銅塊ノ料トシテ常ニ丁銅ニ以テ外國貿易ノ料ニ宛テ(府
 銅ト稱ス)頗ル其聲價ヲ博セリ(成辰ノ際續川氏ノ大坂銅座ニ貯蓄セル銅地金巨萬斤ノ内續川一
 番亞國商ニ賣却セ)於是他ノ銅吹商靡然其製銅ニ倣フニ至ル未タ幾ナラスシテ新貨幣鑄造一付
 キ金銀銅トモ時價相當大藏省ヘ推賣ノ令ニ遭ヒ新銅貨幣材ノ用亦大ナルヲ以テ更ニ造幣ニ適
 當ス可キ中丁銅ヲ製シテ之ニ供シ尋テ四年發令勝手賣買ノ自由ヲ得ルニ及テ一時内外ノ需用
 増加シ隨テ其價格モ又昇騰シ明治五六年七八年頃迄ハ銅地ノ景況頗ル繁盛ノ色アリ(第二期ノ商況トス)
 是ヨリ先キ元小野組借區秋田阿仁銅山ニ於テ製銅セシコトアリ其破産ニ及ヒ該銅處分上一關
 シ八年中見本ヲ大阪ニ送り然ル後九年六月迄ニ秋田縣ヨリ大阪支局ニ回著セル丁銅及ヒ大小
 形銅間吹銅荒銅等ノ合原價九萬八千餘圓(該銅ハ何年ノ產出ニ係ルモ)ニシテ漸次之ヲ幣材ニ
 供シ同年七月ニ至リ尙該銅ノ原價九萬五千餘圓及ヒ人民ヨリ購入溜リ丁銅元價七萬九千餘圓
 ノ現銅ヲ支局ニ貯蓄ス而テ同月中續山局ノ協議ニ依リ爾來官鑄產出銅ハ悉ク當局ニ購入ノ約
 ヲナシ相接シテ回著シ別ニ府下商民ノ製銅即中丁銅ヲ要セサルヲ以テ一切其購收ヲ廢セリ此
 際市中銅地中多量ノ需用ハ貿易銅ト造幣材ト外ニ普通延地銅ノ需用トノ三途アリシカ忽然其
 一途ヲ失ヒシヲ以テ商況漸ク澁縮シ又前年ノ價格ヲ有セス故ヲ以テ銅吹商中二三其業ヲ廢ス

ル者有ルニ至ル目下獨リ該業ヲ接續シ常ニ職工ヲ蓄ルモノハ住友吉左衛門(元別子銅山ノ大坂ノ銅吹所)喜多川榮助(元小田中兵)孝橋安兵衛(元津屋ト印)等ニシテ纔ニ時好ニ應シテ貿易用ノ並丁銅ト内地用ノ延銅トノ製作ヲ(住友ハ延地ノ製トセリ)第三期トス(右ノ如クナルヲ以テ古來諸國ノ產出銅ハ一旦悉ク之ヲ大阪銅座ニ致サシメ更ニ之ヲ精製シ其幾分ヲ貿易ニ供シ其幾分ヲ内地ノ需用ニ宛テタルノ事實ハ之ヲ徵スルニ足レリ)海外貿易微々ノ時ニ於テ猶且如此銅地ノ我國ニ裕餘アル幕吏既ニ之ヲ知ル歟其舉稱スヘキニ似タリ然リト雖モ其產出銅ノ目今ヨリ多量ナリシヤ貿易ノ銅質其當ヲ得シヤ否ヤハ明知スルニ由ナシ要スルニ其推賣年間ハ官府一家ノ專有ニ屬スルヲ以テ製銅及ヒ貿易上ノ術モ亦官吏一己ノ私智ニ出テ物產繁殖上最緊要ナル進取競争ノ勢力ニ乏シク著シキ改良ヲ得サリシナルヘシ而シテ其第二期ニ於テ禁令ヲ解クヤ採礦者ニ銅吹商ニ未タ曾テ之ヲ自由ニ賣買シ之ヲ海外ニ賣買スル等ノ經驗ナキヲ以テ望洋迷津各自ノ意見頗ル相背馳ス(此際從來内地用ノ延銅程ノ價格ヲ得スト畢竟並丁銅ハ德川氏ノ頃輸出セシ銅質ト同位)幸ニシテ並丁銅ノ外商ニ適シ續テ造幣ノ爲メ多量ノ中丁銅ヲ需用セシニ際シ一時其價格ヲ有セリ其第三期ニ及テ又貿易用ノ並丁銅ト舊來需用ノ延地銅ノ外供給(銅吹商ノ既ニ依レハ延地銅ノ需用高ハ毎年概不定リタル者ニテ僅カノ高ナリ而シテ當時ナキ)置備ノ際ヨリ大ニ其高ヲ減セリト畢竟各藩城郭邸第佛寺廟所等ノ需用自ラ減セシニヘカナキヲ以テ之ヲ第二期ニ比スレハ商況頗ル減殺セリ(拾一年十月頃ヨリ)稍價格ヲ増シ並丁銅百斤ニ出スレハ別ニ(然ル)況シヤ今又造幣材ノタメ舊銅貨ヲ用ヒ秋田產出銅ノ需用ヲ減スルニ於テハ海外貿易ナリ内地供用ナリ到底該產出銅ノ高ヲ新ニ市場ノ銅地ニ増加スルノ理ナルヲ以テ其商況ニ影響スルコト實ニ少々ナラサルヲヤ八九年以來阿仁產出銅ノ大阪支局ニ回著スル

ヤ各種其銅質尤純良ニシテ大小ノ形銅及ヒ長丁銅ノ如キハ尤造幣局ノ所好ニ適シ比來輸入セシ銅地中ノ第一等トセリ依テ該銅ヲ以テ延地銅ニ代用シ得ヘキヤ頃日試ミニ長丁銅三片ヲ探リ之ヲ銅吹商ニ示セシニ其湯鑄ノ適度及ヒ模形等ニ於テハ直ニ延丁銅ト稱シ得サルトモ此伸暢ノ力ハ十分延地丁銅ニ代用シ得ルヲ以テ百斤ニ付貳拾壹圓六拾錢換(此時延丁銅貳拾貳圓五錢六)ヲ以テ五萬斤ノ拂下ケテ請求スルニ至ル然ハ則チ今之ヲ延地銅トナシ販賣セハ必ス需用スヘシト雖モ延地銅需用ノ高ハ甚タ僅々ニシテ該續ヲ舉テ之ニ供スヘカラス況ンヤ採礦ノ進取ニ隨ヒ其產出ノ量ヲ増ニ於テハ更ニ其需用ノ盛大ヲ謀ラサル可カラサルノ時機ニ際スルニ於テオヤ抑古昔以來今日ニ至リ内國ノ銅地ヲ海外ニ輸出シ未タ曾テ缺乏ヲ内地ニ聞カサルハ其產出ニ富ミ内國ノ需用ニ餘アル論ヲ待タス今銅地商ノ說ニ據ルモ市中銅地賣買ノ高其多量ナルハ海外輸出ヲ最トスト然ラハ則將來秋田銅ノ處分ハ之ヲ海外所好ノ製銅ニ作り外商ニ貿易ニセスンハアル可ラス

今ヤ内國ヨリ輸出セル物產中其量ノ大ナル蠶絲茶石炭ノ如キハ特ニ日本產ヲ以テ海外ノ貴重スル處タリ然リ而シテ並丁銅輸出ノ如キハ稍之ト性質ヲ異ニス如何トナレハ外商ノ該銅ヲ需用セル專ラ洋銀ノ時價及ヒ海外爲替相場ノ景況ニ應シ時ニ臨ミ其現金ノ爲替ヲ以テ貨幣ヲ自國ニ送ルヨリモ寧ロ何商品ヲ撰ハス外國ニ使用シ得ヘキ現商品ノ舶載ヲ欲セル際ニシテ需用ヲナスモノナレハ常ニ間斷ナク需用スルモノニ非ス則輸入出ノ相適ハサル際止ヲ得ス我金貨ヲ廢ラスト一般ノ性質ナルモノ、如シ然ルニ目今貿易ニ供スルハ必ス並丁銅ヲ以テ便トスル所以ノモノハ德川氏以來輸出セシ品位ニ同質ニシテ外商ノ見慣レタルニ依ルモノ、如シ然リ

ト雖モ彼其如此キ劣等ノ銅地ヲ舶載シ更ニ之ヲ熔解製銅セハ再度ノ熔解ニ依テ其雜分ヲ燃散スヘキ適度ヲ度リ其價ヲ低フスルノ習慣タルヲ免カレス今ヤ貿易年間尙淺ク且銅地ノ輸出未タ盛大ナラサルヲ以テ必ス日本輸出銅ハ該形ノ丁銅ナリト一般ニ之ヲ識認スルニハ至ラサルヘシ抑モ之ヲ内ニシテハ地金ノ疎通ヲ謀ラサル可カラス之ヲ外ニシテハ良産ノ聲價ヲ博セサル可カラス銅地輸出ノ策ハ今日ニ於テ一大急務ナルモノ、如シ若夫製銅ノ品位ヲ改良シ輸出ノ方按ヲ考定スルニ至テハ本局自ラ成算アラシメ復費セス

明治二十年二月二十一日ニ至リ三井物産會社ヨリ舊壹厘銅貨ヲ清國上海へ輸出シ洋銀ト交換方ニ付大藏省へ請願セシヲ以テ同月二十四日之ヲ許可シ併テ契約ノ條款ヲ規定セリ即チ左ノ如シ

- 一 舊壹厘銅貨ハ當局ノ都合ニ依リ大阪又ハ長崎ニテ下渡ス可シ
- 二 前項ノ銅貨ハ其會社ニテ荷造シ彼地景況ヲ酌量シ輸送スヘシ但荷造方ハ散亂ノ憂ナキ様注意スヘシ
- 三 交換代ハリ洋銀ハ上海我カ領事館へ上納シ同館ノ領收證ヲ以テ當局へ上納スヘシ
- 四 輸送荷造費並ニ運賃等ハ實費ヲ以テ下付スヘシ
- 五 現品ヲ下渡シタル後ハ如何ナル損失ヲ生スルモ其會社ノ負擔タルヘシ
- 六 此取扱ヲナスニ付手数料トシテ原價ニ對シ千分ノ五ヲ給與ス
- 七 此ノ取扱方ノ順序ハ當局ノ都合ニ依リ何時ニテモ更正亦ハ停止スルコトアル可シ

明治十七年十月以降漸次天保錢ヲ引揚ケ新銅貨ニ改鑄スルコト、ナリシヨリ明治二十一年同十二年頃ニ至リ新銅貨ノ流通非常ノ巨額ニ達シ引續キ猶ホ改鑄スルニ於テハ通貨過多ニ失ヘル

ノ虞アルヲ以テ一旦國庫へ引揚ケシ天保錢ハ爾後之ヲ準備金部ニ移シ地金トシテ賣却スルコトトシ其損失ハ白銅貨鑄造發行ノ益金ニテ補填スルノ計畫ヲ立テタリ左ニ大藏大臣伯爵松方正義ヨリ明治二十一年七月内閣へ報告シタル所ノモノヲ掲ク

内閣へ報告

明治十七年十月第二十六號布告及同年同月第二十三號布達ニ據リ交換セシ天保錢ハ新銅貨ニ鑄造ノ筈(即十七年一月申)ニテ爾來追々改鑄致來候處現今新銅貨ノ流通額ハ實ニ千貳百餘萬圓ノ額ニ達シタリ而シテ銅貨流通上ノ景況ヲ視ルニ稍流通額ノ多キニ過クルノ憾ナキニアラス然ルニ目下天保錢國庫ノ貯藏高ハ貳百五拾七萬七千餘圓ニ有之尙此上改鑄ヲ續ケ候ハ、流通上銅貨ハ格外ニ多キヲ加ヘ民間取引上却テ不便ヲ來シ可申ト存候因テ右引上ケタル天保錢ハ之レヲ準備金部へ移シ同部ニ於テ地金トナシ賣却可致(天保錢ノ稱價八厘ハ其實價五六厘ノ過失アリハ不可)而シテ其損失補填ノ方按等ハ尙取調稟議可致此段及報告候也

明治二十一年七月四日

一 天保錢參百八拾七萬八千四百參拾貳圓四拾參錢二厘

舊政府發行高

内

天保錢參百貳萬貳千百參圓貳拾九錢四厘 二十一年五月迄引上ケ高

差引殘

天保錢八拾五萬六千參百貳拾九圓拾參錢八厘 未引上高

但追テ引キ上ケノ上地金トナスヘキ分

一 天保錢參百貳萬貳千百參圓貳拾九錢四厘 二十一年五月マテ引上ケ高

内

天保錢四拾四萬四千五百貳拾參圓參拾錢四厘 二十一年五月マテノ改鑄高

差引殘

天保錢貳百五拾七萬七千五百七拾九圓九拾九錢 二十一年五月末ニ地金トナスヘキ高

一 天保錢參百四拾參萬參千九百九圓拾貳錢八厘 地金トナスヘキ高

内

金貳百四拾八萬九千七百七圓拾錢六厘 賣却手取金

但天保錢稱價八厘ニ付金五厘七毛九八ニ當ル

差引

殘金九拾四萬八千貳圓貳錢貳厘

同損失高

目今銅地金ノ相場ヲ以テ豫算スレハ前書ノ如クナレトモ將來相場ノ高下ニ依テハ右損失ハ尙増減ヲ來スヘシ

天保錢鑄造ノ損失ヲ白銅貨鑄造ノ殖益ヲ以テ補填ノ試算

頃日現在ノ天保錢準備金ヘ移シ之レヲ地金トシテ賣却ノ議相伺置候得共白銅貨鑄造ノ議起リ依テ更ニ考按スルニ右天保錢ノ損失ハ左ノ白銅貨ヲ鑄造シテ其益金ヲ以テ補填候テハ如何即試算左ニ相伺候

一 金七拾參萬四百七拾四圓七拾壹錢

但現今金庫ニアル天保錢貳百五拾四萬五千五百七拾九圓九拾九錢ヲ鑄造地金トシテ賣却ノ損即別紙計算書一印ノ通り

一 金七拾參萬四百七拾四圓七拾壹錢

右白銅貨八拾五萬貳千四百六拾貳圓七拾貳錢八厘ヲ新規鑄造スルノ益金別紙計算書二印ノ通り

(造幣局調ニ據リ算出)

右天保錢賣却ノ損ハ白銅貨鑄造ノ益ヲ以テ補填ノ事ニ相成候テハ如何

白銅貨ノ鑄造ハ未タ御決裁無之儀ナリ天保錢鑄造ハ目下ニ迫リ候事故其事業前後シテ不都合ニ候ヘ共自然右ノ方向ニテ可然候得ハ右天保錢損失ハ一時準備金ヨリ流用シ追テ白銅貨殖益ヨリ戻入ノコトニ可致乎

右ノ如クスレハ白銅貨鑄造高多キニ過クルノ議アルヘケレトモ過日伺置候文久錢貳厘錢等ハ計算書程ノ高ハ無之乎又五拾錢以下ノ小紙幣モ追々引揚ケノ場合ニ付右白銅増鑄候モ流通上差響ハ無之ト存候此段相伺候也

天保錢鑄造ニ係ル損失ヲ白銅貨鑄造殖益ヲ以テ補填スルノ計算

一 天保錢貳百五拾四萬五千五百七拾九圓九拾九錢 明治二十一年五月末日政府在

此賣却代金貳百拾五萬參千參拾五圓七錢七厘

但半精製トナシ百斤ニ付拾八兩ニ賣却ノ積リ即我貳拾四圓八拾貳錢八厘ニ當ル

内

金參拾參萬七千九百貳拾九圓七拾九錢七厘

半精製輸出入稅荷造等ノ諸費

差引手取金

百八拾壹萬五千五百五圓貳拾八錢

右手取金ト流通高ト比較

金七拾參萬四百七拾四圓七拾壹錢

天保錢鑄潰賣却ノ損

一 白銅貨八拾五萬貳千四百六拾貳圓七拾貳錢八厘

白銅貨要鑄高

四萬五千四百拾五圓九拾壹錢參厘

白銅地金代並運賃保險料

貳萬五千四百參拾四圓參拾七錢五厘

交銅代

五萬千百參拾七圓七拾參錢

鑄造費並工業減

小計金拾貳萬千九百八拾八圓壹錢八厘

差引

七拾參萬四百七拾四圓七拾壹錢

白銅鑄造ノ益

天保錢鑄潰ノ損

白銅錢鑄造殖益

差引無増減

是ヨリ先キ新銅貨ニ改鑄セシ剩餘ノ天保錢ハ時機ニ依リ内外市場ニ賣却セシメタルコトアリ即
明治二十一年三月支那地方銅貨騰貴ニ付三井物産會社ハ天保錢精鍊銅一百擔(凡一萬斤)<sup>上海賣捌
價格十八
兩五</sup>ヲ試ニ輸出賣却セシコトヲ申請シタルヲ以テ大藏省ハ同月二十四日之ヲ許可セリ斯ノ如ク
シテ天保錢ヲ鎔解銅及精製銅ノ兩種ニ型鑄シ支那地方へ輸出セシニ鎔解銅ハ黑色ヲ帶ヒ銅貨ヲ

失シ爲メニ當初ノ見込ニ違ヒ望人少ク半精製ノ方却テ人氣宜シキ旨三井物産會社ヨリ上申セル
ヲ以テ大藏省ハ造幣局ニ命シ爾後專ラ半精製銅ニ型鑄シテ輸出賣却セシムルコト、ナセリ尋テ
同年六月三井物産會社ハ試賣ノ爲メ倫敦へ天保錢ノ精製半精製及鎔解ノ分各一萬斤宛ヲ回送セ
シコトヲ申請セシヲ以テ大藏省ハ同月十九日之ヲ許可スル旨ヲ指令セリ

斯ク鑄潰天保錢銅塊ヲ三井物産會社ニ託シテ上海並ニ倫敦へ輸送試賣セシニ漸々販路開ケ稍目
途ヲ達スヘキ景況アリシヲ以テ引續キ内外各地ニ於テ賣捌クコト、シ明治二十二年三月一日右
販賣ニ係ル取扱方ヲ三井物産會社へ命令シ併テ上海及倫敦領事へ其監督ヲ依託セリ大藏省ヨリ
三井物産會社ニ與へタル命令左ノ如シ

三井物産會社へ命令

舊銅貨鑄潰販賣方ヲ其會社へ命令スルコトアル可シ依テ之ヲ命シタル節ノ取扱方左ノ通
リ心得ヘシ

一 鑄潰銅塊販賣方ヲ命スルトキハ各銅塊秤量ノ上之ヲ金庫局大阪出張所ヨリ其會社へ下渡
ス可シ

一 前項銅塊ハ海外へ輸出若シクハ内地ニ於テ販賣スヘシ其代價ノ定メ方ハ出納局又ハ金庫
局大阪出張所ノ指揮ヲ乞フ可シ

一 海外へ輸出スルモノハ其積船證書ヲ金庫局大阪出張所ヨリ彼地我領事へ送付スヘキニ付
該船積證書ハ金庫局大阪出張所へ差出ス可シ但銅塊彼地到着ノ上ハ其旨我カ領事へ申出
該船積證書ノ下付ヲ乞ヒ尙其賣先並代價收納日限等届出ツヘシ

一 販賣代價ハ第一項ノ數量ニ對シ上納スヘシ

一 海外ニ於テ賣却ニ係ル代金ハ其賣上勘定書ニ該代金爲替券ヲ添へ其地我カ領事へ差出スヘシ

但倫敦ハ橫濱正金銀行支店ノ爲替券タル可シ

一 内地ニ於テ賣却ニ係ル代金ハ其賣却地ノ都合ニ依リ出納局若シクハ金庫局大阪出張所へ上納スヘシ

一 運搬費其他販賣ニ付テ要スル費用ハ實費ヲ以テ下付スヘキニ付明細書ニ受領者ノ證書ヲ添付シテ請求スヘシ

一 銅塊ヲ下渡シタル後ハ如何ナル損失ヲ生スルモ其社ノ負擔タル可シ

一 販賣ニ係ル手数料ハ賣上代價ニ對シ海外ハ其千分ノ十五内地ハ其千分ノ八ヲ下付スヘシ

一 大藏大臣ヨリ内閣へ提出セル報告書中ニ明カナル如ク明治二十一年九月國庫ニ在ル天保錢貳百五十拾貳萬五千貳百九拾貳圓ヲ準備金部へ移シ爾來鑄潰又ハ賣却ヲ實施セシカ準備金部ハ政府紙幣ノ整理ト共ニ明治二十二年度中ニ全ク閉スルコト、ナリシヲ以テ天保錢ニ關スル事業ハ悉皆造幣局へ引渡スコト、ナセリ其詳細ハ引繼計算書ニ就テ之ヲ知ルヘシ

計算書

一 天保錢貳百五十拾貳萬五千貳百九拾貳圓 (明治二十二年四月二日)
(日造幣局へ引繼高)

内

天保錢八千圓

(輸出試賣トシテ鑄潰並ニ精製)
 製煉ノ爲メ造幣局へ輸入ノ分)

同	壹萬圓	右同斷破碎ノ爲メ造幣局へ輸入ノ分
同	參千圓	右同斷溶解ノ爲メ造幣局へ輸入ノ分
同	五百圓	民業鑄潰試驗用トシテ三井物産會社へ渡ノ分
同	四百圓	右同斷ノ分大阪製銅會社渡ノ分
同	拾八萬千圓	破碎ノ爲メ造幣局へ輸入ノ分
同	貳拾九萬千八百參拾貳圓	半精製ノ爲メ造幣局へ輸入ノ分
同	參拾萬百圓	型塊銅ニ製煉ノ爲メ製銅會社へ渡ノ分
小計天保錢七拾九萬四千八百參拾貳圓		
差引殘		
天保錢百七拾參萬四百六拾圓	天保錢百七拾參萬四百六拾圓	天保錢ノ儘現存ノ分
内		
天保錢百七拾貳萬四百六拾圓		難波倉庫在高
天保錢壹萬圓		製銅會社倉庫在高

第四章 公債證書及株券、地券ノ購收並ニ賣却

第一節 公債證書ノ購收並ニ賣却

準備金ヲ以テ公債證書ノ賣却ヲナシタルハ明治五年六月創設ノ準備金規則第六條、同六年十二月二日改正ノ同規則第十五條、同八年五月十五日改正ノ同規則第十九條、同九年五月五日改正ノ同規則第二十三條、第二十四條、同十年七月十一日改正ノ同規則第十六條、第二十二條、同十一年七月一日改正ノ同規則第十條、同年同月創定ノ減債金規則第十九條、第二十條、同十四年八月五日改正ノ準備金規則第六條、第九條、同十四年十二月九日改正ノ同規則第五條、第六條、第十條ニ依リ之レカ購入及賣却ヲナシタルモノニシテ其購入ハ素ト準備金ノ利殖ヲ計リ國債償還ノ基本ヲ增加スルノ目的ニ出テタルモノナリト雖モ秩祿公債證書及金祿公債證書ヲ購收シテ其ノ價格ノ下落ヲ防キ又ハ明治九年國立銀行條例ノ改正ニ際シ當初舊條例ニ依リ各銀行ヘ下付シタル金札引換公債證書ノ購收ヲナシタルモノアリ左ニ其次第ヲ記述スヘシ

明治七年家祿奉還者ニ秩祿公債證書ヲ賜與セラレ其賣却ヲ許可セラル、ヤ當時我カ金融市場ニ於テハ未タ公債證書ノ何物タルヲ知ラス之レヲ所持スルモノ亦現貨ヲ得ント欲スルノ急ナルヨリ終ニ其價位ヲシテ非常ノ低下ヲ來タサシメ自然該公債證書下賜ノ目的タル士族等就産ノ途ヲ阻碍セントスルノ虞アリシヲ以テ即チ準備金ヲ以テ之ヲ買上クルノ議ヲ決シ同年八月二十四日之ヲ正院ヘ上申シ同月三府五十五縣ニ對シ示達ヲナシ以テ其買上ヲ實施シタリ其正院ヘノ上申書及府縣ヘノ示達左ノ如シ

正院へ上申書

家祿奉還ノ者へ賜リ候公債證書賣買ノ儀被差許候處就産ノ際現貨ヲ欲スルノ急ナルヨリ格外
低價ニ賣拂趣ニ相聞ヘ之カ爲メニ資本ヲ耗損候テハ自然營業上充分ノ目的ヲ達シ難ク折角奉
還ヲ許サレ候御趣意ニ相悖リ候間今般當省別口準備金ノ内ヲ以テ買上ノ方法相立別紙ノ通り
家祿奉還ノ者有之候府縣へ相達候間此旨上申仕置候也

明治七年八月二十四日

大藏卿 大隈重信

太政大臣 三條實美殿

各府縣へ達

家祿奉還ノ者へ資本トシテ下賜候公債證書ノ儀ハ外國人ヲ除クノ外一般賣買被差許候就テハ
各自所有主ノ便利ニ任シ自由ニ典賣致シ不苦候得共間々現貨ヲ欲スルノ急ナルヨリ格外低價
ヲ以テ賣拂候ヤノ趣畢竟產業著手ノ際不得止ノ事情ニ出候得共之カ爲メ資本ヲ耗損候テハ小
給ノ者共往々ノ營業被爲立度御趣意ニモ悖リ慙然ノ次第ニ付當今御多端ノ際ニハ候得共格別
ノ譯ヲ以テ若シ證書高百圓ヲ現貨八拾圓以下ニテ賣却ヲ欲スル者モ有之節ハ八拾圓ヲ以テ管
轄廳ニ於テ買上候様可致尤右ハ資本ヲ賜リ候當人所持ノ分ニ限リ特ニ差許候儀ニテ他人ヨリ
買受ケ候分ハ不相成候此旨家祿奉還ノ者共へ豫メ及恐達候願出候得ハ豫備金ノ内ヲ以テ相渡
置一箇月分取纏ノ詳細仕譯書相添へ現貨受取方當省へ申出ヘシ此旨相達候事
而シテ明治十一年九月金祿公債證書ノ書入質入ヲ解禁セラル、ニ及ヒ亦非常ノ低價ヲ以テ之カ
賣買ヲナシ爲メニ從前家祿賞典祿ヲ受ケタル者ノ困難ヲ來タサンコトヲ慮レ即チ太政官へ經同

ノ上同月九日大藏卿内務卿連署ヲ以テ各地方官へ左ノ示達ヲナシ金祿公債證書亦一定ノ價ヲ以
テ準備金へ買入ル、コト、定メタリ

今般金祿公債證書書入質入並ニ賣買約定取結候儀被差許候處從來家祿賞典祿ヲ以テ専ラ生計
ヲ營ミ來リ候者共別ニ前途營生ノ目的モ不相立右公債證書ヲ以テ輕々敷一時金融ノ便ヲ謀リ
又ハ目下困難相迫リ深ク其得失ヲ不願格外ノ低價ヲ以テ取引致シ損耗相招キ候者往々可有之
モ難計候ニ付此際別紙手續書ノ通り右公債證書保護ノ方法取設候條望ノ者ハ管轄廳へ可願出
此旨金祿公債證書相渡候者へ布達候事

明治十一年九月九日

内務卿 伊藤博文

大藏卿 伊藤博文

金祿公債證書保護手續

第一條

金祿公債證書下付ノ後孤兒寡婦ハ勿論其他何人ニ限ラス右證書保護方ニ差支ユル等ノ者保護
方ヲ本管廳又ハ寄留管廳へ願出ルニ於テハ各管廳ニテ其公債證書ヲ預リ預ケ主へハ證書ヲ下
付シ其公債證書ニ對シ預ケ主へ年々利子渡方及當籤ノ節元金渡方等ヲナスヘシ

第二條

金祿公債證書買上ケ方ヲ願フ者ハ本管廳又ハ寄留管廳へ書面ヲ以テ其旨申出ヘシ然ルトキハ
證書百圓ニ付五分利付ノ分ハ六拾四圓六分利付ノ分ハ七拾參圓七分利付ノ分ハ八拾貳圓一割
利付ノ分ハ百圓ノ割合ヲ以テ買上可致ニ付各管廳ニ於テ其願ヲ一箇月限リ一ト纏メニ致シ上

申書ヲ添ヘ大藏省ヘ稟請スヘシ

但大藏省ノ都合ニ依リ買上方ヲ差止ルコトアルヘシ

第三條

前條ニ所謂金祿公債證書ヲ預リ又ハ買上ヲナスモノハ今般管廳ヨリ本人ヘ下賜シタル金祿公債證書ニ限ルヘシ他ヨリ書入質入又ハ買上セシ金祿公債證書ハ此ノ例ニ依ルコトヲ得ス

然ルニ翌十二年ニ至リ東京大阪兩株式取引所ニ於テ金祿公債證書ノ賣買相場ヲ立ツルニ及ビ各地方ノ金融モ漸ク疏通スルノ景況アリタルヲ以テ準備金ヲ以テ買上クルノ必要無ニ至リ同年十一月十三日其年十二月限り該證書ノ一定價格買上ヲ廢止スヘキ旨ヲ各府縣ニ示達シタリ

尙金札引換公債證書買上ニ係ル事由ヲ略陳センニ明治五年十一月創メテ國立銀行條例ヲ制定セラル、ヤ國立銀行ハ其資本金十分ノ六ヲ政府紙幣ニテ大藏省ニ上納シ以テ六歩利付金札引換公債證書ノ下付ヲ請ヒ更ニ此ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ノ下付ヲ得之ヲ世上ニ流通セシメ又資本金十分ノ四ハ本位金貨ヲ以テ積立テ其發行紙幣ノ交換準備ニ充ツル定メニシテ銀行紙幣ハ全ク兌換紙幣ノ性質ヲ有セリ然ルニ當時正貨ノ海外ヘ流出スル者漸ク多カリシヲ以テ數銀行カ債ニ發行セシ銀行紙幣モ隨テ發行スレハ隨テ銀行ニ歸來シ明治九年ニ至テハ殆ト同紙幣ノ跡ヲ市場ニ絶ントスルノ狀況ニシテ國立銀行營業ノ困難少ナカラサリシカ同年八月適同條例ノ改正ニ際シ從前下付シタル開業免狀ヲ返納セシメ更ニ新條例ノ規定ニヨリ開業ノ手續ニ至リタルヲ以テ即國立銀行ハ舊ニ舊條例ニヨリテ交付ヲ請ヒタル金札引換公債證書ノ買戻ヲ政府ニ出願スルニ至レリ是ニ於テ省議之ヲ許シ遂ニ元價ヲ以テ之ヲ準備金中ヘ買上ルニ至リタル者ナリ

右ノ如キ事情アリタルヲ以テ準備金ヲ以テ買上タル公債證書ノ中最モ多數ヲ占メタルハ秩祿金祿及金札引換公債ノ三種ニシテ以上購收シタル公債證書ノ内明治八年十二月十日ヲ以テ大藏卿内務卿連署ノ上三府六十縣ヘ内達シタル主意ニ基キ各府縣公私學校資金ニ對シ之ヲ賣下ケタルモノアリ是レ蓋シ當時人民ノ篤志ヲ以テ公私學校ヘ寄附シタル學資金保存ノ爲メ公債證書購入ノ望ミアル諸學校ニ對シ準備金中ニアリタル公債證書ノ賣下ヲナシタルニ外ナラス其府縣ヘ内達左ノ如シ

學資金ヲ以テ公債證書賣下方府縣ヘ内達

從來人民ノ篤志ヲ以テ學資トシテ公私學校ヘ寄附致シ候金穀ノ儀ハ其學校ニ於テ貨殖ノ方法ヲ設ケ永久費用ニ充ツヘキハ勿論ニシテ隨テ寄附致候得者隨テ消費候者ニハ無之候處或ヘ主管人取扱ノ良否ニ依リ貨殖ノ爲メ貸付候共抵當品經査ノ不行届等有之自然資金損失ノ憂不少畢竟年々一定ノ收得有之不動產ヲ購求致候外兩全ノ法無之然ルニ不動產連モ漸々買入ノ都合ニ無之テハ一時良好ノ賣物ハ有之間敷依テ公債證書ヲ買置キ年々利子ヲ確收致シ良好ノ不動產有之候ヘハ隨テ購求致候方稍可然哉ニ候得共右公債證書ニテモ世間賣買ノ相場モ有之是又一時ニ巨額ノ購求モ調兼又ハ相場ノ昇降ヨリ計算上ノ差違ヲ生シ旁苦情モ可有之被察候處幸ヒ即今大藏省ニ於テ公債證書收領有之候ニ付府縣學資保障ノ爲メニ候ヘハ左ノ定價ヲ以テ賣下ケ現金入用ノ節ハ何時ニテモ右定價ニテ買上ケ候様都合可相成候間府縣ニ於テ寄附金ヲ以テ公債證書賣下ケ度望ミ有之諸學校ハ取調證書金高竝ニ證書ノ種類等區別シ大藏省ヘ申出候様可致此旨及内達候也

明治八年十二月十日

大藏卿
内務卿

三府六十縣

八年十二月調

- 一 新公債證書 百圓ニ付現金五拾八圓
(朱書) 但來一月ヨリ一月ニ付凡半圓上リ
- 一 秩祿公債證書 百圓ニ付現金八拾圓
(朱書) 但來一月ヨリ一月ニ付凡壹圓上リ
- 一 舊公債證書 百圓ニ付現金拾八圓
- 一 記名公債證書 百圓ニ付現金百圓

其後明治十五年ニ至リ政府紙幣兌換ノ準備ニ充用スヘキ正貨ノ増殖ヲ急務トスルニ及ヒ準備金ヲ以テ購入セル公債證書ヲ以テ其費途ニ支辨スルニ決シ其年八月三日大藏卿ヨリ太政官へ京議ノ上其裁可ヲ得タルヲ以テ漸次之ヲ市場へ賣却シタリ其京議ニ係ル書面ハ左ノ如シ

(上略)即今財政困難ノ原因タル首トシテ正貨紙幣ノ價差ニ有之而シテ其之レヲ降スルノ策タル流通紙幣ヲ程度ニ減却シ專ラ正貨ヲ國庫ニ貯藏シ而シテ後漸次紙幣兌換ノ端緒ヲ開キ候儀第一ノ急務ト存候就テハ現今準備本部ニ有之候正貨ヲ以テ減債部ニ貯蓄セル公債證書ト交換シ以テ追々正貨收貯ノ途ニ支辨シ併セテ非常ノ用途ニ備置キ候様仕度(下略)

此公債證書ノ出入ハ明治七年ヨリ始マリ同十九年度ニ於テ悉皆其決算ヲ了シタリ今同年間準備

金ヲ以テ購取シタル公債證書ノ員額ヲ統計スレハ其内國公債額面高四千八百參拾四萬千貳百九拾八圓外國公債額面高九萬八千六百磅ニシテ當籤及賣却高亦之レニ同シ該證書ノ種類等ヲ示セル計表ハ左ノ如シ

種類	事由		入		支	
	購取公債證書額面高	購取代價	當籤賣却公債證書額面高	元	價	
舊公債	一、四〇五、八九三	三三一、七三六、六八八	一、四〇五、八九三	三三一、七三六、六八八		
新公債	一、八六八、六二五	一、二〇一、八七七、九三七	一、八六八、六二五	一、二〇一、八七七、九三七		
金札引換公債	二、九四三、一〇〇	二、九四三、一〇〇、〇〇〇	二、九四三、一〇〇	二、九四三、一〇〇、〇〇〇		
秩祿公債	六、〇三七、七〇〇	五、三三〇、四一〇、〇五二	六、〇三七、七〇〇	五、三三〇、四一〇、〇五二		
起業公債	六、九三二、二五〇	五、四九一、二〇一、四〇〇	六、九三二、二五〇	五、四九一、二〇一、四〇〇		
五分利付金祿公債	七、六七九〇	四、八四〇、一〇四	七、六七九〇	四、八四〇、一〇四		
六分利付金祿公債	六、三三〇、一八五	四、五九九、三〇七、五七五	六、三三〇、一八五	四、五九九、三〇七、五七五		
七分利付金祿公債	二、八三九、〇二五	二、三〇五、〇七二、〇九七、四	二、八三九、〇二五	二、三〇五、〇七二、〇九七、四		
一割利付金祿公債	七、六六七三〇	七、六七、〇〇六、五〇〇	七、六六七三〇	七、六七、〇〇六、五〇〇		
外國舊公債	八、四六〇〇	四〇〇、八九三、四八五	八、四六〇〇	四〇〇、八九三、四八五		
外國新公債	一、四〇〇〇	七、八一六、二四七	一、四〇〇〇	七、八一六、二四七		
合計	四八、三四一、二九八 九八、六〇〇	三九、三〇一、一七五、七〇二	四八、三四一、二九八 九八、六〇〇	三九、三〇一、一七五、七〇二		

右公債證書ノ賣却ニ依リ生シタル損益如何ヲ計算スルニ益分ノ損分ヨリ多キコト七百拾八萬八

千四百六拾八圓九拾七錢貳厘ナリトス其所以ハ該公債證書タル價ヲ定メテ之レカ買上ヲナシ又ハ之ヲ賣却シタルモノアリシヲ以テ右等ノ内ニハ賣買上若干ノ損失ヲ免レサルモノアリシト雖モ當籤元金及賦金ニ係ル差益又ハ利子ノ收入額巨多ナリシニ由リ上記ノ如キ益分ヲ見ルニ至リタルモノナリ即チ左ノ如シ

公債證書ニ係ル益分

八、九〇〇、九五二、三二七

公債證書ニ係ル損分

一、七二二、四八三、三五五

差引益分超過

七、一八八、四六八、九七二

第二節 株券地券ノ購收及賣却

株券及地券ヲ準備金中ニ所有セシハ橫濱正金銀行、日本銀行、共同運輸會社(明治十八年九月三號會社ト改稱ス)及海上保險會社ノ創設ニ際シ之カ獎勵保護ノ爲メ特ニ政府準備金ヲ以テ其株主中ニ加入シタルモノ其他大藏省舊爲替方小野組及島田組ノ閉店ニ當リ其所有ノ抄紙會社(今製紙會社ト稱ス)株券及地券等ヲ一時準備金へ買入レタルモノ等ニシテ孰モ其際特ニ太政官ノ裁定ヲ俟テ之ヲ執行シ又ハ明治十年七月十一日改正ノ準備金規則第十六條(同條ニ曰ク上略其出納科目ヲ左ノ)第二十二條及同十一年七月一日改正ノ同規則第十條等ニ依リ之ヲ取扱ヒタルモノナリ而シテ橫濱正金銀行株券ノ内壹百萬圓及日本銀行並ニ日本郵船會社ノ株券ハ太政官若クハ内閣ノ合達ニ依リ帝室資産中へ引繼ヲナシ其他ハ悉皆之ヲ人民へ賣却シタリ以下序ヲ逐フテ其概要ヲ敘スヘシ
明治十三年橫濱正金銀行ノ創立アルヤ其目的トスル所金銀貨幣ノ供給運轉ヲ便ニシ務メテ内外

貿易ノ間ニ介シ漸次外國爲替ノ商權ヲモ恢復セントスルニアリテ其事業容易ナリトイフ可フス是ニ於テ同銀行ハ當時ノ資本金三分ノ一即チ壹百萬圓ヲ政府ヨリ差加ヘラレ以テ内外人ノ信憑ヲ鞏固ニセンコトヲ出願セリ而シテ政府亦タ其成立ヲ希望シタリシヲ以テ特ニ之ヲ聽許シ其差加金ハ準備金ヨリ交付スルコト、ナセリ是レ即チ準備金中ニ該行ノ株券壹百萬圓ヲ所有スルニ至レル所以ナリトス
然ルニ該行創設ノ際ニ於テ株主中へ其募集セシ株金ヲ以テ金札引換公債證書ヲ購收シ大藏省ニ抵當ニ差入ルレハ相當額ノ銀貸ヲ借受クルカ或ハ該行ニ於テ銀券ヲ發行スル事ヲ得ヘキ内約アリタルモ大藏省ニ於テハ遂ニ之ヲ許可セザリシヨリ株主中ニハ不快ノ感ヲ抱クモノ尠カラスシテ類ニ物議ヲ生シ結局是等ヲ口實トシテ平穩鎮店或ハ官民分離等ノ說ヲ主張スルモノアリ爲メニ内部ノ和氣ヲ缺キ大ニ該行ノ發達ヲ阻害スル虞アルヲ以テ不穩ノ行動アル株主ノ所有スル株券六千四百十四株ヲ代リ紙幣七拾萬四千貳百五拾七圓貳拾錢ニテ準備本部へ買收シ其主義ヲ畫一ニシテ確實ニ營業セシメ以テ將來ノ好結果ヲ期セントシ明治十六年四月十八日大藏卿ヨリ太政官へ稟伺シ同年五月七日允可ヲ得同行株券六千四百十餘枚ヲ準備金中へ購收セリ但右株券ハ一時準備本部へ買收スルモ時機ニ依リ他へ賣渡スコトアルヘク又利益配當等一般人民所有ノ分ト取扱フ同一ニシ從來準備本部ヨリ差入アル株金ノ分トハ混同セサルコト、セリ尋テ同年四月二十三日ニ至リ橫濱正金銀行領取ヨリ當時商況不振ノ爲メ巨多ノ滯貨ヲ生シ到底通常積立金ノミニテハ補充スル能ハサルヲ以テ別段積立金及今後別段積立金トシテ備ヘ置クヘキ分ヲモ流用補填センコトヲ請願セルニヨリ其已ムヲ得サル事情アルヲ察シ太政官へ稟議ノ上之ヲ許可セル

ヲ以テ從テ政府ヨリ差加ヘタル株金ニ於テモ同様其積立金ヲ滯貸補填金ヘ流用セシムルコト、ナレリ斯ノ如クシテ横濱正金銀行ハ政府ノ保護ニ依リ一時ノ危急ヲ遁レタルカ同年末ニ至リテハ行務頗ル整頓シ準備金モ充實スルノ好況ニ達シタルヲ以テ曩ニ政府ノ購收シタル株金六千四百十四株ハ頭取原六郎ノ願ニ任セ銀貨ヲ以テ(買上ノ時價ヲ以テ銀貨ニ換算セル價額ニテ)賣拂フコトトナセリ是レ銀貨ヲ以テ拂下クルコトハ自ラ準備金ニ正貨ヲ收得スルノ一手段タルヲ以テナリ日本銀行資本金ノ半額ハ之ヲ政府ニテ引受ケ其株主トナルヘキコトハ明治十五年三月一日同行ノ設立ニ際シ太政官ヘ建議書中已ニ是ヲ規定セル所ナルヲ於テ同年六月二十七日太政官第三十二號布告ヲ以テ愈日本銀行條例ヲ制定セラル、ヤ右資金ハ準備金ヲ以テ補充スヘキコトニ定メ即チ當時資本金總額壹千萬圓ニ對シ募集スヘキ五百萬圓ノ半額ヲ支出シ以テ同行株券ヲ領收シタルモノトス

以上記述シタル横濱正金銀行及日本銀行政府所有株券中横濱正金銀行補助金ニ係ル株券百萬圓及日本銀行政府入金ノ株金貳百五十萬圓ハ明治十七年十一月十八日大藏卿松方正義ノ建議ニ依リ帝室資産ニ編入スルコト、ナシ翌十八年五月十四日宮内省ヘ其引渡ヲ了セリ左ニ大藏卿ノ建議書ヲ掲ク

伏而惟ルニ帝室ハ億兆具瞻ノ歸スル所萬國衣冠ノ朝スル所苟モ供御豊カニシテ内帑充ツルニアラスンハ豈ニ能ク光榮ヲ存シ尊嚴ヲ保ツヲ得ンヤ蓋シ定式ノ供御ハ國庫毎歲ノ經費ヲ以テ之ヲ辨スルコトヲ得ルト雖モ事ノ惠郵獎勵等ニ涉ルモノニ至テハ別ニ供給スル所アルニアラスンハ則其不時ノ需求ニ應センコト難シ竊ニ之レヲ海外諸王國ニ徵スルニ帝王ハ皆國庫定額

ノ外別ニ王室私有ノ財産アリテ或ハ貧窮ヲ賑卹シ或ハ技術ヲ獎勵スルニ皆資ヲ此ニ仰ケリ我カ國ニ於テモ必ス當ニ國庫經費ノ外ニ帝室內供ノ財産ヲ備ヘサルヘカラス普天率濱王臣王土ニ非ルナシト雖モ國家ノ經濟ヲ整理スルニ至テハ必ス帝室ノ内帑ニ屬スル者ト國政ニ關スルモノトノ境界ヲ分明ナラシメサル可ラス是レ帝室財産ノ設ケ缺クヘカラサル所以ナリ而シテ帝室財政設備ノ事ハ計畫自ラ廟謨ノ存スルアルヘシト雖モ是レ多クハ不動産ニ關スルモノニシテ急速御一定ノ場合ニモ至リ難カラシ乎仍テ惟フニ我カ政府ハ曩キニ日本銀行ヲ創立シ其株金ノ半額即チ五百萬圓ヲ引受ケ以テ之ヲ保護セラル又横濱正金銀行ノ創立スルヤ政府ヨリ補助金トシテ株金百萬圓ヲ下付セラレタリ此二項ノ金額タルヤ國庫毎歲ノ收入額ヨリ支出セシニアラスシテ皆之ヲ大藏省ノ準備金ニ仰キ殊ニ政府カ該株金ヲ引受クルヤモト全國ノ經濟ヲ謀リ保護ノ主旨ニ在リテ之レカ潤益ヲ收メ以テ歳入ノ増加ヲ圖ルノ意ニ非サレハ今斷然之レヲ擧ケテ帝室財産ノ一部分ト爲スモ亦不可ナルコトナカルヘシ抑日本銀行ハ全國理財ノ樞機ニシテ財政ノ整理ヲ謀ルモノナレハ必ス其基礎ヲ固シ其信憑ヲ厚フシ以テ之レヲ永遠ニ維持セサル可ラス今其株券ヲ擧ケテ帝室ニ歸シ其威信ニ依リテ之レヲ統理セハ惟フニ以テ帝室供御ノ敷乏ヲ補フノミナラス又以テ全國經濟ノ大本ヲ固フスルヲ得ヘシ然リ而シテ日本銀行ノ株券ハ條例ニ依リ現ニ半額ノ入金アリテ政府ノ持株ハ乃チ貳百五十萬圓ナリ漸次事業ノ擴張スルニ及ンテハ終ニ五百萬圓ヲ入金スヘキナレトモ今ヤ猶大藏省準備部金額種類釐革ノ際ナルヲ以テ今之レヲ帝室ニ歸シ横濱正金銀行株金百萬圓ヲ併セテ帝室財産ノ一部分トシ其利子ヲ以テ惠恤獎勵等ノ用ニ供セラレ度此段仰 上裁候也

明治十七年十一月十八日

太政大臣 三條 實美 殿

大藏卿 松 方正 義

尋テ明治二十年ニ至リ日本郵船會社ノ株券金額貳百六拾萬圓ヲ同シク帝室資産ニ編入シ同二十三年東宮御所御建築費トシテ復タ準備金ヨリ金貳百五拾萬圓ヲ編入スルコト、ナセリ
明治十五年五月共同運輸會社創設ノ舉アルヤ農商務卿西郷從道ハ同社資本金補助ノ儀ヲ太政大臣ヘ建議セリ其建議書竝ニ指令ハ即チ左ノ如シ

共同運輸會社創設ノ儀ニ付伺

海運ヲ興スハ國家富強ノ實歩ヲ占ムルノ長計タル言ヲ俟タサルニ付夙ニ玆ニ畫策セラル、ヲ以テ其進歩大ニ觀ルヘキモノナキニアラスト雖モ百事亦著シク進動スルヲ以テ今日ニ在テハ未タ以テ之ト併進スルヲ得サルノ歎ナキヲ免レス目下海運ノ實況如何ヲ觀察スレハ比年商船ノ數大ニ増加スルニモ係ラス海運ノ運銀ハ漸次騰貴ヲ致シ各所ノ產物ハ產地ニ停滯シテ爲メニ製産力ヲ阻喪スルカ如キノ現況ヲ呈出シタルハ其因蓋シ一ナラサル可シト雖モ閩國商船ノ數寡少ニシテ未タ以テ貿易ノ用ニ充ツルニ足ラサルニ緣ルモノト言ハサルヲ得ス現ニ三井物產會社又ハ三菱會社等ノ如ク多數ノ船舶ヲ所持スルモ猶且外國船ヲ借入レテ其業務ヲ補フヲ見レハ亦以テ船隻ノ不足ヲ徵スルニ足ラン
是ヲ以テ新タニ運濟業ヲ創メント企ツル者各地ニ於テ觸起スト雖モ其資力ノ乏シキヨリ何レモ永遠ノ目的ヲ期スルヲ得ス議カニ垂朽ノ老船ヲ購入シ或ハ低廉脆弱ノ新船ヲ製造シテ專ラ一時ノ射利ヲ苟且スルニ過キサレハ海上ノ危險ハ倍加ハリ未タ其船資ヲ復セサルニ早ク既ニ

覆沒ノ慘害ヲ被ムル者甚タ巨多ナリトス斯ノ如クシテ猶ホ數年ヲ經過セハ管ニ國幣ヲ靡スルノミナラス將來運濟業ヲ企圖スルモノハ熱腸ヲ放冷シテ永ク貿易ノ進路ヲ杜絶スルニ至ラン畢竟海運事業ノ如キハ巨萬ノ資金ヲ備フルニアラサレハ之ヲ維持スル最モ難シト是ヲ以テ先進ノ諸邦多クハ國庫ヨリ幾分ノ費額ヲ補助シテ其業ヲ翼贊スルヲ慣例トス故ニ今海運ヲ盛ニセントセハ決シテ之ヲ民力ノ自然ニ放任ス可カラス政府大ニ之ヲ獎勵シテ一大共同運輸會社ヲ創設センノミ

此會社ヲ創設セントセハ其資本金ハ少クモ四百萬圓ヲ要ス可シ而シテ其貳百萬圓ハ政府ヨリ他ノ貳百萬圓ハ汎ク全府縣ニ於ケル本業ニ間接若クハ直接ノ關係ヲ有スル者ヨリ募集シ將來其事業ノ擴張スルニ隨ヒ漸次之ヲ増募ス可シ又此會社ハ内外運輸ヲ專業トスレハ汽船帆船ヲ併セテ所持スルヲ必要トスルヲ以テ資本金四百萬圓ノ内其貳百五拾萬圓ハ汽船ニ其百萬圓ハ帆船ニ又其五拾萬圓ハ營業上ノ資金トシテ供用セシム可シ但シ政府ノ出金ニ屬スル貳百萬圓ハ通貨ヲ以テ其拂入ヲナサス直ニ汽船(百四拾萬圓)及ヒ帆船(六拾萬圓)ヲ新造シ或ハ購入シテ該社ニ下付シ其船代價ヲ以テ株金ト爲ス可シ

汽船ノ製造ハ本邦ニ於テ未タ適當ノ製作所之ナキヲ以テ已ムヲ得ス英國ニ注文セサルヲ得スト雖モ帆船ノ製造ハ近時寢ク其歩ヲ改良ノ域ニ進ムルヲ以テ内地ニ於テ新造スルヲ得可シ然レトモ内地製ノ帆船ハ英國製ノモノニ比スレハ其價值幾分(一割)金歟高貴ナレハ豫メ低價ヲ以テ船材拂下ノ方法ヲ許可スルカ若クハ更ニ製造費ノ幾分ヲ補助シテ英國製ノモノト稱同價ヲ以テ製造セシムルヲ要ス

斯ノ如クシテ該社ヲ組織スルモ運漕ノ業タル其船價ニ巨萬ノ金額ヲ費シ就中汽船ヲ維持スルノ費用甚タ莫大ナレハ其純益極メテ少ナシ是ヲ以テ政府ハ宜シク他ノ株主ト其損ヲ共ニスルモ其利ヲ共ニセサルヲ以テ本旨トシ每期純益金ノ配當モ年二歩ヲ以テ限リトスル等非常ノ特典ヲ與フ可シ但シ一方ニ於テ此ノ如ク特典ヲ與フル上ハ又一方ニ於テ有事ノ日ハ政府ニ於テ本社ノ船舶ヲ自由ニ使用スル等應分ノ責務ヲ竭サシムルヲ要ス依テ政府ノ特典本社ノ責務及創設ノ要旨等別紙ヲ以テ其大意ヲ具シ上稟候間目下海運ノ實況如何ヲ深ク諒察セラレ速ニ御廟議ヲ盡サレ度御許可ノ上ハ差向キ東京ニ於テ發起者數十名ヲ精選シ創業定款申合及ヒ營業等ニ屬スル諸規則方案等爲取調追々相伺或ハ御届可仕候此段仰 上裁候也

明治十五年五月三十日

農商務卿 西郷 從道

太政大臣 三條 實美 殿

右指合伺之趣開届金百參拾萬圓交付致スヘキニ付大藏省へ協議四年間ニ右金額可受取事

明治十五年七月十二日

是ニ於テ右交付金ハ元ト株金トシテ該社へ交付スルモノナレバ準備金ヨリ支出スヘキヤ否ヤニ付キ大藏省ヨリ同年十一月二十八日ヲ以テ太政官へ稟伺シタルニ差向キ該金中ヨリ交付スル債ト心得ヘキ旨指令アリ然ルニ同年十一月一日農商務卿ヨリ共同運輸會社既定ノ資本金參百萬圓ヲ増シテ六百萬圓トナシ政府株金モ亦二倍ニ増加シ以テ堅牢耐久ノ船舶ヲ製造シ當初ノ目的ヲ達シタキ旨同社出願ノ趣ヲ太政官へ上申シ太政官亦之ヲ聽許シ金額交付方等大藏省へ協議ヲ遂クヘキ旨ノ指令ヲ下付セルヲ以テ右増額モ亦準備金ノ内ヨリ支出渡方ヲナスコト、セリ是ニ於

テ政府ヨリ同社へ差加フヘキ株金總計貳百六拾萬圓ハ之ヲ準備金中ヨリ交付シタルヲ以テ同部中ニ同額ノ該社株券ヲ所有スルニ至レリ而シテ明治十六年三月五日大藏卿松方正義ハ共同運輸會社株金ノ内へ政府ヨリ差加ヘシ百參拾萬圓ハ紙幣ヲ以テ其員額ヲ定メアリシモ該會社へ交付セシ特典書第一項(第一項ニ曰ク政府ニ於テ臨時非常ニ際シ供用スルニ足ルヘキ汽船及帆船ヲ新充府ノ株金ニ)ニヨレハ右金額ハ船舶ヲ製造或ハ購收シ之ヲ以テ該會社ノ株金トナスノ規定ナルヲ以テ該船舶ヲ製造購收スルニ必要ナル銀貨又ハ外國貨幣(本文船舶ノ内ニハ現ニ外國ニ於テ購收シハ勢ヒ現貨ヲ以テ時價ニ既定紙幣ノ具額ヲ支出セサルヲ得スシテ若シ右正貨ヲ需用ノ時ニ紙幣ヲ以テ他ヨリ買入テハ自然市場ノ相場上ニモ影響スルカ故ニ太政官へ經伺ノ上準備金中ノ正貨ヲ支出スルコト、ナセリ)

斯ノ如クシテ共同運輸會社船舶中汽船ハ英國へ注文シ帆船ハ内地ニ於テ製造セシムルコト、ナセシカ明治十六年五月英國ニ於テ汽船買入代金ノ内英貨五萬磅ハ紙幣ヲ以テ支拂フコト能ハサルヲ以テ政府ヨリ差加フヘキ株金外ナルモ同會社ノ願ニ由リ會社ヨリ紙幣ヲ納レ準備金即チ銀貨ト交換シテ以テ之カ支拂フナセリ而シテ同會社用帆船ハ内地ニ於テ製造セシムルコト、ナセシハ内國製ハ其價格外國製ニ比スレハ稍高直ナルモ以テ内地ノ造船業ヲ發達セシメントノ主意ニ外ナラザリシカ而カモ斯ノ如ク高價ノ船舶ヲ製造スルトキハ資本金ノ減額ヲ來タスヲ以テ同社長代理小室信夫ハ帆船製造現費ノ金額ヨリ二割ヲ削減シ船價取極メアリタキ旨請願ニ及ハルモ是レ政府當初ノ豫算ニ支吾シ不都合少ナカラサルヲ以テ曩ニ貸付セシ汽船一艘ヲ下付シテ同會社ノ損失ヲ補填スルコト、ナセリ

政府準備金ノ内ヨリ共同運輸會社へ差加フヘキ株金總計ノ内百參拾萬圓ハ已ニ差加ヘ濟トナリ
 殘リ百參拾萬圓ハ明治十八年度ヨリ同二十年度迄三箇年間ニ割合支出スヘキ豫定ナリシモ同會
 社ニ於テ倫敦外債償還ノ爲メ必要ヲ生シ政府差加殘額ヲ一時ニ繰上ケ明治十八年六月迄ニ悉皆
 支出スルコト、ナセリ

斯ノ如ク政府ノ補助ニ依リ其成立ヲ見ルニ至レル共同運輸會社ハ明治十八年九月三美會社ト合
 併シテ日本郵船會社ト改稱シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ而シテ政府ノ差加ヘタル株金貳百
 六拾萬圓ハ明治二十年三月三十一日內閣總理大臣ノ達ニ依リ同年四月十二日宮内省へ之カ引渡
 ヲナスニ及ヘリ其達書左ノ如シ

一金貳百六拾萬圓

日本郵船會社補助ニ係ル株券

右金額帝室資産ニ被屬候條宮内省へ引渡スヘシ

又抄紙會社株券地券及家屋ヲ準備金中ニ所有スルニ至リタルハ主トシテ明治九年中大藏省舊爲
 替方小野組ノ閉店ニ際シ同組ニ對シ政府貸下金ノ抵當トナリ居リシモノ及其所有ノモノヲ一時
 購入シタルモノニシテ當時右等ノ財産ハ一旦之ヲ競賣ニ付シタルモ格外ノ低價又ハ毫モ望ミ人
 ナク大藏省ニ於テ執行スヘキ同組負債處分上差支ヲ生シタルヲ以テ已ムヲ得ス低價ニテ之ヲ準
 備金へ購收スルニ至レルモノトス地券中ニハ同爲替方島田組ヨリ購入シタルモノアリ是又同組
 ノ閉店ニ際シ一時ノ處分ニ出テタルモノナリ而シテ右ノ抄紙會社株券及地券家屋ハ其後之ヲ人
 民へ賣却ニ付シ以テ其決算ヲ了シタリ

今株券地券等ノ收支員額ヲ統計スレハ其受入高六百八拾六萬壹千九百八圓八拾六錢七厘ニシテ

拂出高亦之ニ同シ即チ左表ノ如シ

種類事由	受入		宮内省へ引渡高		賣却	
	券面高	購收代價	券面高	原價	券面高	原價
橫濱正金銀行株券	一、六四一、〇〇〇.〇〇	一、五〇五、五五五.〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇.〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇.〇〇	一、六四一、〇〇〇.〇〇	一、五〇五、五五五.〇〇
日本銀行株券	二、五〇〇、〇〇〇.〇〇	二、五〇〇、〇〇〇.〇〇	二、五〇〇、〇〇〇.〇〇	二、五〇〇、〇〇〇.〇〇	〇	〇
日本郵船會社株券	二、六〇〇、〇〇〇.〇〇	二、六〇〇、〇〇〇.〇〇	二、六〇〇、〇〇〇.〇〇	二、六〇〇、〇〇〇.〇〇	〇	〇
製紙會社株券	五、二五〇、〇〇〇.〇〇	三、二七〇、〇〇〇.〇〇	〇	〇	五、二五〇、〇〇〇.〇〇	三、二七〇、〇〇〇.〇〇
地券	六、七二七、二八六.七	六、七二七、二八六.七	〇	〇	六、七二七、二八六.七	六、七二七、二八六.七
家屋	七三六、〇〇〇.〇〇	七三六、〇〇〇.〇〇	〇	〇	七三六、〇〇〇.〇〇	七三六、〇〇〇.〇〇
合計	六、八六一、九〇八.八六七	六、八九八、五五五.〇六七	六、一〇〇、〇〇〇.〇〇〇	六、一〇〇、〇〇〇.〇〇〇	七、六一、九〇八.八六七	七、九八、五三六.〇六七

右株券地券等ニ生シタル損益計數ヲ掲クレハ益分ノ損分ヨリ多キコト七拾五萬九千參百六拾壹
 圓貳拾九錢四厘ナリトス其所以ハ益分ニ於テハ利益配當金又ハ地所家屋貸下料ノ收益多カリシ
 ト雖モ損分ニ於テハ僅々家屋ノ修繕費等ニ止レルヲ以テナリ即チ左ノ如シ

株券地券等ニ係ル益分

七五九、九六四.〇八九

株券地券ニ係ル損分

六〇二、七九五

差引益分超過

七五九、三六一.二九四

尙前記諸株券ノ外東京海上保險會社資本金中へ差加ヘ金ヲナシタルモノアルヲ以テ聊カ附記ス

ル所アランニ同社ノ創立ニ就テハ明治十六年五月三十一日農商務卿西郷從道ヨリ船舶保險事業
興起ニ關スル建議アリ同年十一月五日政府ハ四拾萬圓ヲ其資本ニ加ヘ別ニ船舶検査所創設費壹
萬參千圓ヲ交付スルコトヲ指令シ左ノ命令書ヲ發セリ

命令書

- 第一條 其社ノ資本金ハ政府ヨリ四拾萬圓人民ヨリ六拾萬圓合額百萬圓ト定ムヘシ
- 第二條 其社ハ船舶貨物ノ保險ヲ以テ專業トナスヘシ
- 第三條 政府ハ東京神戸函館ニ於テ船舶検査所ヲ置キ其社ノ出願ニ應シ船體機關ノ検査ヲナ
シ證狀ヲ與フヘシ但シ検査料ヲ徵收スヘシ
- 第四條 船舶貨物トモ検査官ノ付與セシ證狀等級内ノ船舶ニアラサレハ保險ヲナスヘカラス
- 第五條 船舶ノ保險ハ汽船七萬圓帆船貳萬圓ヲ以テ制限トナスヘシ
- 第六條 政府ノ株金ハ民有資本金(六拾萬圓)ヲ以テ損失ヲ辨償スルノ際ニ當リ政府ノ監査官又ハ其
社ノ申請ニ依リ株高ニ割合之ヲ拂入ルヘシ
- 第七條 政府ニ於テ拂込タル株金ハ年々ノ保險收益ヲ以テ株高ニ割合之ヲ拂戻スヘシ
- 第八條 保險收益ハ營業諸費役員賞與及保險損失ヲ仕拂タル殘額ノ二割ヲ拂込ノ株高へ配當
シ餘ハ都テ積立金トナスヘシ
- 第九條 保險損失ノ仕拂ハ左項ノ順序ニ隨フヘシ
- 第一 積立金
- 第二 保險收益金

第三 資本收益金

第四 資本金

第十條 政府監査官ヲシテ每期諸帳簿ヲ檢閲シ又ハ臨時検査セシムルコトアルヘシ

第十一條 會社ハ每期精算ナル決算報告書ヲ政府へ差出スヘシ

第十二條 會社取締役七名ヲ置クヘシ内二名ハ政府ニ於テ特選シ五名ハ株主ニ於テ投票公選
スヘシ

第十三條 特選取締役ハ會社ノ定款ニ從ヒ總會議ニ臨ミ投票スルコトヲ得ヘシ但特選取締役
ト雖モ總會議ニ於テ三分ノ二以上ノ決議ニ依リ其退職ヲ政府ニ上請スルコトヲ得ヘシ

第十四條 會社營業ノ期限ハ船體保險開業ノ日ヨリ二十箇年ト定ムヘシ
但シ右命令書中第八條第九條第十條ハ同社ノ懇請ニ依リ左ノ如ク改正シタリ

第八條 保險收益ハ營業諸費役員賞與及保險損失ヲ仕拂ヒタル殘額ノ二割ヲ總株高百萬圓ニ
配當シ餘ハ總テ積立金トナスヘシ

第九條 保險純益ノ二割ヲ總株高百萬圓ニ配當シ其政府株高ニ對スル配當金ハ別種積立金ト
ナシ危險準備ニ充ツヘシ

第十條 保險損失ノ支拂ハ左項ノ順序ニ隨フヘシ

第一 積立金

第二 保險收益金

第三 別種積立金

三廉合計シテ純益總高トナル

第四 資本金

右東京海上保險會社資本金中差加金ハ該社收益ヲ以テ戻入レヲ爲スノ契約ニシテ一時差加金ニ對シ其後悉皆納入ヲ了シタルヲ以テ前表ニ之ヲ計上セス

第五章 貸金及預リ金

第一節 貸金

準備金中貸金ハ明治六年十二月二日改正ノ準備金規則第十六條同八年五月十五日改正ノ同規則第二十條同年八月八日改正ノ同規則第二十條同九年五月五日改正ノ同規則第十七條同十年七月十一日改正ノ同規則第十六條第二十一條同十一年七月一日改正ノ同規則第十五條第十六條同十四年八月五日改正ノ同規則第五條同年十二月九日改正ノ同規則第五條ニ由リ貸出シタルモノ及ヒ特ニ太政官若クハ内閣ノ裁定ヲ得テ貸出シタルモノナリ其種類ヲ舉ゲハ各廳營業資本貸(海軍船所陸軍省砲兵工廠佐渡生野嶺山崎富岡製鐵所等)諸向一時ノ繰換貸(地租改正費地券用紙製送如キ官廳ニ於テ直接ニ事業ヲ經營セル營業資本ノ類)諸向一時ノ繰換貸(地租改正費地券用紙製送料費等)勤業資本貸(公益事業ニ從事スル會社人民等ヘ一時貸與セシモ)其他預ケ金等ノ類ナリ而シテ諸向繰換金ハ從來常用歳入金ノ内ヨリ支出シタリト雖モ會計年度決算ノ期ニ至リ償戻スル能ハサルモノアリテ往々各年度決算上支障アルニ由リ明治九年七月以降ハ之ヲ準備金ヨリ支出スルコトニ更メ其以前既ニ常用部ヨリ支出シタルモノニシテ未タ決算ニ至ラサルモノハ該貸金證書ヲ以テ之ヲ準備基金ヘ挿入スヘキモノトシ同年八月十日大藏卿大隈重信ヨリ太政官ヘ稟申セリ即チ左ノ如シ

諸向繰換金本年七月以降準備金ヨリ支辨候儀ニ付上申

諸向一般繰換金ノ儀ニ付是迄概ネ歳入金中ヨリ支辨候處其年度中ニ於テ必ス償戻可相成分ノミニ無之(地租改正費等會社決算期ニ)旁、決算上大ニ支障ノ筋有之審按候處準備金ノ儀ハ素々

運用活動ノ方法モ有之就テハ繰換金ノ儀ハ渾テ準備金ヨリ支辨候方會計上ノ都合可然乍併已ニ一般ヘ支出有之分償却ノ高ニ關ラヌ一概ニ準備ヨリ辨給候儀ハ差支候間是迄繰換支出有之金額此際決算更メテ準備金ヘ繰入致シ爾後實際償戻ニ隨ヒ該額ハ準備ヘ收納シ而シテ本年七月以降繰換金ハ前額ノ通總テ準備ヨリ支辨候筈決定仕候條此段上申仕置候也

是ニ於テ從來常用部ヨリ繰換支出シタルモノニシテ其決算ニ至ラサルモノハ貸金證書ヲ以テ盡ク之ヲ準備ノ基金ヘ繰入レ而シテ明治九年七月以降繰換金ハ總テ準備金ヨリ支出セシメタリ故ヲ以テ準備金中貸金ノ額速カニ増加スルニ至レリ然ルニ同十三年六月十三日ニ至リ太政官ノ令達ニ據リ爾後準備金ノ貸附ヲ廢止セリ即チ太政官ノ令達ハ左ノ如シ

其省事務章程追テ改正可相達候得共自今準備金貸付方ノ儀相廢止從前貸付ノ分ハ其期限通リ可取立此旨相達候事

但不得止事故有之新タニ貸出ヲ要スル時及從前貸付ノ分返納延期等ノ處分ニ及ヒ候節ハ伺ノ上取計フヘシ

翌明治十四年六月十三日更ニ太政大臣ヨリ各廳ヘノ繰換貸金モ亦廢止スルノ令達アリ即チ左ノ如シ

先般準備金ノ貸付ヲ廢シ候ニ付テハ自今各廳ヘ繰換金ノ儀モ相廢シ候條目下繰換有之分ハ常用ヨリ戻入候見込ヲ以テ金額取調至急可申出此旨相達候事

又明治十四年六月二十四日太政大臣ハ左ノ如ク各府縣ヘ令達セラレタリ

各府縣豫備金ノ儀當十三年度限り廢停候條右金額早々大藏省ヘ返納可致此旨相達候事

是ニ於テ明治十四年度ヨリ同十六年度ニ至ル三箇年間歳入出豫算表臨時歳出ノ部雜支出ニ掲載シタル員額ヲ以テ準備金中各廳營業資本及繰換金(銀行會社人民ノ貸金或ハ府縣豫備)總計千四百萬貳千九百六拾貳圓五拾九錢壹厘ハ各年度常用部ヨリ現金ノ償戻(千九百六拾貳圓五拾九錢壹厘)計千四百萬貳千九百六拾貳圓五拾九錢壹厘ヲ受ケ乃チ準備金貸金證書ヲ常用諸貸付金ノ部ヘ移シタリ

抑モ明治十三年六月十三日ノ太政官達ヲ以テ準備金ノ貸付ヲ廢止セラレシ以來準備金ノ貸金ハ各其規約ニ從ヒ單ニ之ヲ徵收スルノ一方ニ歸シタリト雖モ從前貸付ノ分ニシテ其處分ニ困難ナルモノ、太政官ヘ經伺ノ上之カ棄捐若クハ返納延期ヲ許可セル件ハ左ノ如シ

- 一 高知縣正木丑太郎外一名銅貨交換代金棄捐ノ件
- 二 東京府北島茂兵衛書籍代處分ノ件
- 三 舊鹿兒島縣ヨリ佛國ヘ注文ノ洋書代金棄捐ノ件
- 四 鹿兒島縣開拓資金繰換ノ分棄捐ノ件
- 五 英人(ワットソン)ト洋銀預合勘定ノ件
- 六 上毛繭絲改良會社貸下金ノ件
- 七 貿易商會貸下金ノ件
- 八 新燈社貸下金ノ件
- 九 廣業商會貸下金ノ件
- 十 起立工商會社貸下金ノ件

- 十一 舊法海外荷爲替金紙幣貸ヲ銀貨ニ換算ノ件
- 十二 共同運輸會社貸下金ノ件
- 十三 北陸銀行貸下金ノ件
- 十四 静岡縣水路工事費繰換ノ件
- 十五 在布哇領事館非常準備金繰換ノ件

明治十五年六月二十七日第三十三號布告ヲ以テ日本銀行條例ノ制定アリ其年十月日本銀行ノ營業ヲ開始スルヤ大藏卿松方正義ハ同年十二月日本銀行條例第十三條ニ記載シタル國庫金取扱ノ端緒ヲ開カンカ爲メ準備金中餘裕アル毎ニ時々該行ニ定期預ケ金ヲ爲サンコトヲ太政官ニ票議セリ即チ左ノ如シ

日本銀行へ定期預ケ金之儀

日本銀行ヲシテ追テ國庫金ノ取扱ニ從事セシメラル、儀ハ條例第十三條ニ於テ既ニ其豫約モ有之候儀ニ付漸ク其端緒ヲ開カン爲メ先銀行ト約定ヲ結ヒ官金收支ノ都合ヲ量リ其餘裕アル毎ニ時々定期預ケ金ヲナシ漸次其取扱ニ慣熟セシメ候様致度存候ニ付右定期預ケ金之儀至急御裁可相成候様致度此段相伺候也

明治十五年十二月

大藏卿 松方正義

太政大臣 三條 實美 殿

右ハ太政官ノ裁許スル所トナリタルヲ以テ翌十六年一月二十七日更ニ取扱條款ヲ定メ太政官ノ裁許ヲ得日本銀行ニ命令セリ

命令書

日本銀行

當省ヨリ其銀行へ定期預ケ金ヲナスニ付左ノ條款ニ遵ヒ取扱フヘシ

第一條

定期預ケ金ノ期限ハ一箇年以内トス

但政府ノ都合ニヨリ期限内ト雖モ全額或ハ其幾分ヲ引出スコトアルヘシ

第二條

定期預ケ金ノ期限三箇月未滿ノ者ハ無利息トシ三箇月以上六箇月未滿ノ分ハ利息年四分六箇月以上ノ分ハ年五分トシ期限ニ至テ元金共ニ上納スヘシ

第三條

定期預ケ金ヲナシタルトキハ一口毎ニ預リ證書ヲ金員引換ニ相納ムヘシ

第四條

定期預ケ金ヲ引出ストキハ預リ證書ヲ返付スヘキニ付右證書引換ニ金員ヲ利足ト共ニ返納スヘシ

第五條

期限内ニ定期預ケ金ヲ引出ストキハ其金額ニ限リ利足ヲ付スルニ及ハス

第六條

此定期預ケ金ニ對シテハ別ニ抵當ヲ納ムルヲ要セス

第七條

此定期預ケ金ノ證書ハ他ヘ授與セサルヘシ
右條款ノ旨趣承諾ノ上ハ請書可差出事

大藏卿 松方正義

右ノ命令書第二條ニ利息ノ定期ハ三箇月以上六箇月未満ノ分ハ年四分六箇月以上ノ分ハ年五分ト定メタルモ後金融ノ景況利子ノ歩合共一般ニ甚シキ變動ヲ來セルヲ以テ右ノ定限ニテハ頗ル不都合ヲ感スルニ至リ明治十七年六月大藏省ハ右命令書ヲ變更シ三箇月以上六箇月未満ノ分ハ年二分ヨリ四分迄六箇月以上ノ分ハ年三分ヨリ五分迄ト定メ右範圍内ヲ以テ其時ノ景況ヲ酌量シ適宜ノ歩合ヲ定メ預ケ入ル、コト、セリ然ルニ明治二十一年九月ニ至リ右命令書第二條ヲ改正シテ左ノ如ク定メタリ蓋シ從來ハ其預ケ金期限ノ長短ニヨリ三箇月以内ハ無利息トシ六箇月内外ヲ以テ利子歩合ニ制限ヲ定メタルモ元來利子歩合ハ市場ノ金融ニ準シ時々高下スルモノニシテ利子歩合ヲ一定スルハ極メテ不便ナルヲ以テ自今市場ノ景況ヲ酌量シ時々之ヲ定ムルコトトセルナリ

命令書

日本銀行

去ル十六年一月中相違候定期預ケ金命令書第二條左之通改正ス

第二條

定期預ケ金ノ期限ハ三箇月未満ハ無利息トシ三箇月以上ハ有利息トス然シテ其利子ノ歩合ハ

預ケ入ノ都度相違スルモノトス

右之趣承諾ノ上ハ請書差出スヘシ

以上敘述スルカ如ク準備金中貸金ハ明治十四年度ヨリ同十六年度ニ至リ常用部ヘ移シタリ而シテ横濱正金銀行ニ扱ハシメタル海外荷爲替金ニ對シ年賦返納ヲ許可シタルモノ等ニシテ貸金ノ性質ニ變シタルモノハ同二十三年三月三十一日ニ迄ヒ其未決算額ヲ常用部ヘ引繼キ以テ結了セリ左ニ貸金ノ總額及返納額引繼額等ヲ掲ケ其成績ヲ示スヘシ

種類	貸金高	返納高	常用部へ引繼代り金受入高	拂切高	未決算引繼高
官業資本高	一、三〇八、五〇八、一六五、九	七、八七四、一九九、二〇〇	五、九一七、八二九、三五四	三、三〇五、三二一、八八五	〇
一時繰換貸	一、〇〇三、五七四、七四五	一、〇四、五九二、九〇一、三三八	四、五八一、六三三、六一一	一、一七七、九三九、六八六	〇
勸業資本貸	五、三九八、〇九七、六三六	四、七〇二、二五五、八四〇	三、五〇三、四九九、六一六	一、八七四、六二九、六六三	五、八九四、二二五、一七
合計	一、七七一、一五七、五五〇、〇〇〇	一、五九四、八八九、六五六、二九八	一、四〇〇、九六二、五九一	三、〇七五、六二二、五三四	五、八九四、二二五、一七

右科目ノ内常用ヘ引繼代リ金受入高トアルモノハ準備金中ノ貸金證書ヲ常用諸貸付金ノ部ヘ移シ之ニ對シ常用ヨリ現金ノ償戻ヲ受ケシモノ、拂切高トアルモノハ年賦金ノ一時納ニ係ル引額及資産限リ徴收シタル残額ヲ拂ニ付シタルモノ、未決算剩餘常用ヘ引繼高トアルモノハ準備金閉鎖即明治二十三年三月三十一日迄ニ返納ニ至ラサリシモノヲ常用貸付金ノ部ヘ引繼キタルモノナリ

前表ニ掲出シタルモノ、外國庫各部内ニ於ケル一時繰換貸及準備金支出ニ係ル電信報告等ノ如キ計數アリト雖モ是等ハ都テ出納上重複ノ數ナルヲ以テ之ヲ省ケリ

第二節 預り金

準備金中預り金ハ明治九年五月五日改正準備金規則第三十二條同十年七月十一日改正ノ同規則第十八條同十一年七月一日改正ノ同規則第十九條ニ據リ預リ入レタルモノニシテ其種類ヲ擧ク
レハ驛遞局貯金保見金(日光東照宮社修繕費)物部神社修繕費備金等ノ預り金海外爲替拂先收金(在外金ヲ以テ爲替拂フナスタルモ決算迄代)地金賣拂代先收金(地金賣却ニ際シ決算迄代リ金)輸出品賣拂代先收金(輸出品賣却ニ際シ決算迄代リ金)等ノ類ナリ

而シテ驛遞局貯金保見金物部神社修繕費備金預り金ハ従前準備金運轉資本中ニ加ヘ殖利ヲ計リシト雖モ明治十五年三月一日太政官指令ニ由リ準備金ニ加ヘス公債證書ニ換ヘ別ニ積立置キ其損益ノミ準備金ノ負擔トシテ該部ニ於テ收支スルコト、セリ因テ同年三月七日預金取扱規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

預金取扱規則 (明治十五年三月七日)

第一條

驛遞局貯金及保見金並物部神社修繕費備金従前準備金へ預ケ入之アル分明治十五年三月一日太政官御指令ニ基キ此規則ヲ定ムルモノトス

第二條

前條預り金ハ國債局別途預り金トナシ利金ハ従前約定(驛遞局貯金ハ年利九分保見金ハ年利八分)スル期限ニ因テ交付スヘシ

第三條

預り金ハ諸公債證書ヲ購收シ以テ殖益ヲナシ預り金ニ對スル利子仕拂ニ充テ過剩アレハ之レヲ準備金へ納入シ若シ不足ヲ生スルトキハ其金額ヲ準備金ヨリ支出シ辨償スルモノトス

第四條

前條貯蓄スル公債證書當籤アルトキハ其元金ヲ請取之レヲ以テ當簽原額ニ對スル公債證書ヲ購收シ殘金ハ收益タルニ付準備金へ納入スヘシ

第五條

従前ノ約定ニ依テ預り金返戻方請求アルトキハ其金額ニ對スル公債證書ヲ原價ヲ以テ準備金へ賣渡シ其代金ヲ以テ返戻スルモノトス
爾來該規則ニ準據シ其取扱ニ從事セシカ明治十五年六月十四日右預り金ヲ以テ準備本部購收公債證書ト振換フヘキ價格ヲ改正セリ蓋シ右驛遞局貯金(年利九分)及保見金物部神社修繕費備金(年利八分)利付ヲ以テ準備金へ預ケ人有ル分ハ前掲預金取扱規則ニヨリ國債局別途預り金トナシ準備本部ニテ購收スル處ノ公債證書ニ振換ヘ別ニ積立置キ其收支ノ際損益ヲ生セル節ハ準備金ニテ負擔スルノ方法ヲ以テ従前預り入アル金額ハ既ニ金祿公債證書(利七分)ニ振換ヘ積立來リシカ猶追々預入アルヲ以テ之レ亦前同様公債證書ニ振換フヘキ筈ナルモ即今有高ノ公債證書ハ原價(額面)ニ付高直ナルニ由リ假令振換ヲ爲スモ之レニ生スル利金ニテハ預金ニ係ル利子ヲ償フ能ハサルノミ

ナラス其不足ヲ往々準備金ヨリ支辨スルニ至リ彼此不都合ヲ來セルヲ以テ同年五月ヨリ以降預金ノ分ハ其一箇月間ノ時價(東京株式取引場)ヲ平均シ其價格ヲ以テ準備本部ニテ購收スル處ノ七分利付金祿公債證書ニ振換フルコト、セルナリ

又同年五月二十四日驛遞局其他ノ預り金ニ對スル金祿公債證書ト準備本部貯藏ノ金札引換公債證書トノ交換ヲ爲セリ其始末ハ左ノ伺ニヨリ知ルヲ得ヘシ

今般準備本部ニ於テ金祿公債證書入用(銀行條例改正ニ付其準備金ヘ對シテ拂下見込)之儀有之候ニ付テハ現今驛遞局其他ノ預り金ヘ對シ買入有之七分利付金祿公債證書百參拾七萬七千五百拾五圓ヲ準備本部ヘ移シ代リトシテ準備本部ニ貯藏スル金札引換公債證書百六萬貳千七百五拾圓ヲ預り金ノ方ヘ振換ヘ置キ可申哉尤モ是迄預り金ノ方ニ於テハ右金祿公債證書ヨリ一箇年分利金九萬六千參百九拾八圓五錢ヲ收得致居候ニ付今般可引換金札公債證書ヨリ生スル一箇年分利金銀貨六萬參千七百六拾五圓ヲ紙幣ニ換算シ其得ル所ノ紙幣八萬貳千八百九拾四圓五拾錢(紙幣壹圓ニ付紙幣壹圓參拾錢ト限定ス)ニテハ金壹萬餘圓ノ不足有之候得共爾後該金札引換公債證書ノ當簽高ヲ一箇年四萬五千圓ト假定シ其當簽ニテ得タル銀貨四萬五千圓ヲ又紙幣ニ換算スルトキハ紙幣五萬八千五百圓(假定相場)ヲ得ヘシ右ノ内ヨリ元金四萬五千圓ヲ控除シ殘差益金壹萬參千五百圓ヲ以テ前書不足金壹萬餘圓ヲ補填致シ候ヘハ敢テ不足ハ不生儀ト存候仍テ此段相伺候也

但本文ノ如ク交換致シ置候トモ萬一他日銀貨ノ價格低落スルカ又ハ當簽額ノ見込高ヨリ減スルカ爲メニ預り金ヘ對シ支拂フヘキ利金ニ不足ヲ生スルトキハ兼テ太政官ヨリノ御指揮ニ隨ヒ準備金ヨリ支出補填ノ積リニ有之候也

交換スヘキ公債證書ノ計算

- 一 七分利付金祿公債證書百參拾七萬七千五百拾五圓 (預り金ニ對スル現在高)
- 此通貨百六萬貳千七百四拾圓參錢七厘 (拾七圓拾七錢壹厘餘)
- 一 金札引換公債證書百六萬貳千七百五拾圓 今般交換スヘキ分
- 此通貨百六萬貳千七百五拾圓 額面百圓ニ付金百圓換
- 內
 - 金百六萬貳千七百四拾圓參錢七厘 金祿公債證書ヲ以收入
 - 金九圓九拾六錢參厘 現金ニテ收入
 - ノ但六年發行ノ分

收入利益金ノ計算

- 一 紙幣九萬六千參百九拾八圓五錢 預り金ノ方ニテ是迄收入セシ利金
- 但七分利付金祿公債證書百參拾七萬七千五百拾五圓ニ係ル一箇年分
- 一 紙幣九萬六千參百九拾四圓五拾錢 今般交換スヘキ分ニ對スル利益金
- 內
 - 紙幣八萬貳千八百九拾四圓五拾錢 一箇年分利金
 - 但金札引換公債證書百六萬貳千七百五拾圓ニ係ル一箇年分利子銀貨六萬參千七百六拾五圓ヲ紙幣壹圓參拾錢換ニテ換算シタル分

紙幣壹萬參千五百圓

當簽ニ係ル差益金

但金札引換公債證書四萬五千圓當簽ニテ受入シタル銀貨ヲ紙幣壹圓參拾錢換ニテ換算シ得ル所ノ紙幣五萬八千五百圓ノ内ヨリ原價四萬五千圓ヲ引去タル差益ノ分尤モ其當簽ノ割合ハ成規ニ據レハ六年發行ノ證書ハ明治二十年度迄ニ悉皆償還ノ筈ニ付今般可振換公債證書額面百六萬貳千七百五拾圓ヲ來十六年度ヨリ之ヲ五箇年間ニ平均スルトキハ一箇年分貳拾壹萬貳千五百五拾圓ノ當簽有之譯ニ候ヘ共其償還法タル現今ハ少額ノ償還高ニシテ末尾ニ趣クニ隨ヒ多額ヲ償還スルノ概算ニ有之候ヘハ假リニ四萬五千圓ノ當簽ト見込ミ計算相立候分

明治十六年十月二十三日驛遞局及印刷局預り金ノ金札引換公債證書ニ振換フヘキモノヲ新公債證書ニ振換フルコト、爲セリ其始末ハ左ノ伺書ニヨリ明ナリ

驛遞局貯金預ケ入有之分(是迄預入有之分ハ總テ金札)並印刷局營業收益金今般本局ヘ預入有之(本年七月二十一日)分共都テ金札引換公債證書ニ振換ヘキノ處右證書貯藏無之即今預り金ニ振替ヘキ分ハ新公債證書ノ一種ニ限り候間右證書原價ヲ以テ振換置キ可申尤其證書ヨリ生スル處ノ利子ニテハ別紙計算書ノ通不足ヲ生シ候ヘ共右ハ不得止儀ニ付兼テ太政官御指揮ニ隨ヒ準備金ヨリ支拂補填候様可仕ト存候此段相伺候也

計算書

一 金九千九百九拾圓

驛遞局利子支拂フヘキ高

但驛遞局ヨリ今月預り金拾壹萬千圓ニ係ル年九分ノ利子一箇年分
一 金七千參百拾貳圓 新公債證書利子收入スヘキ高

但前條預金ニテ振換ヘキ新公債證書額面拾八萬貳千八百圓ニ係ル年利四分一箇年分

差引

金貳千六百七拾八圓

公債證書ノ利子ノ方減

但準備金ヨリ支出補填スヘキ分

公債證書拾八萬貳千八百圓ノ内譯左ノ如シ

新公債證書拾萬貳千八百貳拾五圓

但百圓ニ付原價六拾六圓七拾貳錢〇參壹九八參九換

此代金六萬八千六百五圓拾六錢九厘

同 六千貳拾五圓

但同斷五拾六

此代金參千四百〇四圓拾貳錢五厘

同 七萬參千九百五拾圓

但同斷七拾貳

此代金參萬八千九百七拾八圓六拾五錢

〆金拾壹萬九百八拾七圓九拾四錢四厘

預金拾壹萬九千圓ト差引金拾貳圓五錢六厘

現金ニテ預置可申分

一 金壹萬五百貳拾壹圓六拾八錢七厘

印刷局ヘ利子支拂フヘキ分

但印刷局預り金拾七萬五千參百六拾壹圓四拾五錢六厘ニ係ル年六分ノ利子一箇年分

一 金壹萬五百拾參圓

新公債證書收入スヘキ高

差引

但前條預り金ニテ振換ヘキ新公債證書貳拾六萬貳千八百貳拾五圓(此證書原價百圓ニ付八錢壹厘之ヲ預リ金ト差引參圓七拾七錢五厘現金預リ)ニ係ル年四分ノ利子一箇年分

金八圓六拾八錢七厘

公債證書利子ノ方減

但準備金ヨリ支出補填スヘキ分

然ルニ備準金所有ノ公債證書ハ追々減却シ將來取扱上差支ヲ生スヘキヲ以テ明治十七年三月該預金取扱規則中第五條ヲ左ノ如ク改正セリ

第五條 從前ノ約定ニ依テ預リ金返戻方請求アルトキハ其金額ニ對スル公債證書ヲ賣却シ其

代金ヲ以テ返戻スルモノトス此場合ニ於テハ若シ代金ニ差増減ヲ生シタルトキハ第三條ノ

例ニ據ル

同年六月二日驛遞總監野村靖ヨリ準備金預入ニ係ル驛遞貯金ニ對スル利子額實際支拂方ニ付大藏省ヘ照會シ來リシカ右利子驛遞局ヨリ實際預ケ人ヘ拂渡ス金額ヲ交付スルモノトセハ同局準備金(貯金拂戻ノ爲)ニ係ル利子ヲモ含有シ國債局預リ金ニ對シテハ約定ノ利子ヨリ少シク高歩ニ當ルヘキモ實際ニ於テ無餘義次第ナルヲ以テ同月十八日大藏省ハ約定書修正ヲ條件トシテ之ニ同意セリ

驛遞局ヨリ其貯金預リ高ヲ國債局ヘ預クル儀ニ付約定書

第一條 驛遞局ハ其貯金預リ方法ニ由テ預リ金高ヲ悉皆(拂戻準備)國債局ニ預クヘシ此未粹ノ

分左ノ通更正

相預ケ而シテ拂戻準備金毎月末日在高國債局ヘ報告スヘシ

第二條 驛遞局ヨリ預ケ金ヲナシ又國債局ヨリ預リ金ヲ戻入ルトキハ都テ出納局預リ證符ヲ以テスヘシ

第三條 前條金額ノ受授ヲ確實ナラシムルカ爲メ兩局ノ間ニ甲乙ノ通帳ヲ製シ其受授ノ際雙方局長並ニ主任ノ名印ヲ押捺シ互ニ之ヲ交換スヘシ

第四條 國債局ハ右ノ預リ金ニ對シ驛遞局ニテ左ノ割合ニ依リ實際預ケ人ヘ拂渡スヘキ利子ヲ付スヘシ

一人ノ預ケ金千圓以上 一箇年四分八厘

一人ノ預ケ金千圓未満 (十七年十二月三十一日迄一箇年七分)

第五條 驛遞局ハ其貯金預リ高ノ内千圓以上及千圓未満ノ金額ヲ區分シ毎月其概算ヲ國債局ニ報知スヘシ

第六條 預ケ金ノ利子ハ毎年六月三十日及十二月三十一日ヲ區切り精算スヘシ

第七條 驛遞局ハ毎年六月十二月ノ兩度該半季間ニ預ケ人ニ拂渡スヘキ利子(概算調書ヲ製シ國債局ニ送付スヘキ)ニ由リ國債局ハ該調書ニ據リ毎年六月三十日及十二月三十一日ノ日付ヲ以テ其利子金額ヲ驛遞局預ケ金ノ内ニ組込追テ驛遞局ヨリ利子精算調書ヲ送付シタル上更ニ其半季間ノ決算ヲナスヘシ本文枠消ノ分ハ左ノ通更正ス

精算調書 (凡ソ三箇月後レニアラサレハ完全セサルナリ)

第二條 驛遞局へ相渡シ更ニ其金額ヲ驛遞局ヨリモ右日付ヲ以テ國債局へ預クヘシ其受授ハ第三條ノ通りタルヘシ

第八條 決算期限ニ至ラサル前預ケ人ニ拂渡スヘキ利子ハ驛遞局ニ於テ拂戻準備金ノ内ヲ以テ其時々繰換渡置クヘシ

第九條 拂戻準備金缺乏ノ場合ニ當リ驛遞局ヨリ預ケ金受戻ヲ要スル時ハ國債局ハ金額ノ多寡ニ拘ハラズ何時ニテモ其渡方ヲナスヘシ

是ヨリ先キ明治十五年十月十二日大藏卿松方正義ハ印刷局作業益金ハ特別ノ事情アルニ因リ別途ノ据置金ト爲サントトテ太政官ニ稟議シ明治十六年二月一日之カ允可ヲ得タルヲ以テ明治十六年三月十二日右收支規定ヲ左ノ如ク伺定セリ

据置金收支規定

第一條 据置金ハ十四年度以降毎年度末ニ至リ該年度印刷局作業費收支差引殘額ヲ同局ノ積金トナシ本省へ預リ置將來同局機械購入家屋建築及營業資本ノ缺額補填ノ準備トナスコト、ス

但本文据置金ハ日本銀行ニ託シ利子増殖スルコトアルヘシ

第二條 作業費ハ收支差引殘額ハ据置金へ編入ノ爲メ毎年度末該費ノ拂ニ相立而シテ据置金へ編入シ之カ出納ヲ要スルトキハ營業費現計報告別項ニ掲載スルコト、ス

印刷局積金收支内規

第一條 印刷局ハ十四年度以降毎年度末ニ至リ該年度作業費收支差引殘額ヲ同局積金トナシ

本省ニ預ケ置將來機械購入家屋建築及營業資本ノ缺額補填ノ準備トナスヘシ

但本文積金ハ日本銀行ニ託シ利子増殖スルコトアルヘシ

第二條 積金ノ出納ヲ要スルトキハ印刷局ニ於テ會計局合評ノ同意ヲ以テ大藏卿ノ裁可ヲ得且其出納明細書ヲ以月々會計局へ報告スヘシ

第三條 印刷局ニ於テ資本金運轉ノ都合ニ依リ一時積金ノ内ヨリ流用ノ爲メ出納スルトキハ

第二條ニ準シ大藏卿ノ裁可ヲ得ヘシ

第四條 第一條第三條ノ場合ニ於テ出納ヲ要スルトキハ營業費現計報告別項ニ掲載スヘシ

第五條 後年積金巨額トナリ本省ニ於テ他ニ使用スヘキコトアルトキハ印刷局長ノ意見ヲ問フモノトス

第六條 前條中實際ノ都合ニ依リ改正ヲ要スルコトアルトキハ大藏卿ノ決議ヲ得ヘシ

然ルニ同年七月五日ニ至リ印刷局長得能良助ヨリ右据置金タル追テ日本銀行へ預クル迄國債局へ利付ヲ以テ預ケ入レンコトヲ照會セシヲ以テ明治十六年七月三十一日大藏卿松方正義ハ太政官ニ稟請シ八月二十八日之カ許可ヲ得タレハ印刷局營業收支差引益積金トシテ本省へ預ケ置分金八千六百五拾六圓四拾八錢參厘年六朱利付ニテ國債局へ預ケ入レンシカ十八年五月大藏省ニ預金局ヲ置カル、ヤ同年六月驛遞局貯金保見金物部神社修繕費備金及印刷局預り金ハ同局へ引繼キタリ

左ニ預り金ノ總額及返戻額等ヲ掲クヘシ

種	目	預	入	高	返	戻	高
	逓進局其他官廳部局ヨリ先收及預り金			六、一三三、五五四・二九一		六、一三三、五五四・二九一	
	官廳外諸向ヨリ先收及預り金			三、七〇五、五四二・六七三		三、七〇五、五四二・六七三	
合	計			四三、一八七、九七九・九六四		四三、一八七、九七九・九六四	

本表ニ掲ケ出シタルモノ、外國庫各部内ニ於ケル一時預り金又ハ準備金拂出切符ノ現今仕拂迄一時預り金トナリタル如キ計數アリト雖モ是等ハ都テ出納上重複ノ數ナルヲ以テ之ヲ省ケリ右第一節貸金ニ對シテハ利子ヲ收入シ第二節預り金ニ對シテハ利子ヲ支出シタルモノアリ而シテ其損益ヲ比較スレハ益分ノ方損分ヨリ超過スルコト百九拾九萬千百貳拾參圓五拾貳錢七厘ナリ即チ左ノ如シ

貸金ニ係ル益分 二、五九九、六四四・一五八
 預り金ニ係ル損分 六〇八、五二〇・六三一
 差引益分超過 一、九九一、一二三・五二七

第六章 正貨交換

準備金ヲ以テ内外正貨幣ノ交換ヲナシタルハ明治五年六月創設ノ準備金規則第五條第六條及同六年一月正院へ京議會中ノ主意竝ニ同年十二月二日改正ノ同規則第十五條同八年五月十五日改正ノ同規則第二十二條同九年五月五日改正ノ同規則第十九條第二十二條同十年七月十一日改正ノ同規則第十九條第二十二條同十一年七月一日改正ノ同規則第十條同十四年八月五日改正ノ同規則第四條第八條同十四年十二月九日改正ノ同規則第四條第八條第九條ニ基キ之ヲ舉行シタルモノトス而シテ其受入ニ係ル正貨ハ常用部ニ收入ノモノ又ハ各廳ノ營業收入金竝ニ洋銀ノ必要ニ依リ市場ニ於テ之ヲ交換シタルモノ等ニシテ其他橫濱正金銀行及日本銀行ヨシテ本邦金貨ノ買入ヲナサシメタルモノアリ此買入ハ明治十七八年頃歐米諸國金貨ノ騰貴ニ際シ割合ニ本邦金貨ノ低價ナルヨリ海外へ輸出スルモノ漸ク巨多ナルノ傾キアリタルヲ以テ之ヲ防止スルタメ準備金ヲ以テ臨機購收セシメタルモノナリ

正貨ノ交換拂出ニ係ルモノヲ舉クレハ常用部又ハ各廳ニ於テ正貨幣ノ需要アルトキ之レカ交換ヲナシタルモノ及ヒ明治十二三年頃紙幣ノ價位ヲ回護センカ爲メ市場ニ銀貨ヲ發售シ其代リ金トシテ紙幣ヲ受入レタルモノ等トス而シテ其常用ト交換ヲナシタルモノハ當初常用部中ノ殘餘正貨ハ之レヲ準備金中ニ轉入シ又常用部ニ於テ正貨幣ヲ要スルニ當テハ之ヲ準備金中ヨリ交換スルヲ例トシタルニ由レリ

各廳ニ對シ正貨幣ノ交換ヲナシタルハ明治七年二月二十二日太政大臣ノ達ニ依リ各廳需要ノ洋

銀ヲ交換シタルヲ以テ始メトス今年一月十七日大藏卿大隈重信ヨリ太政大臣ヘノ伺書及太政大臣ノ達ヲ擧クレハ左ノ如シ

我國ニ於テ流通スル洋銀ノ高僅カニ數百萬元ニ過キス隨テ需要供給ノ多寡少シク其平均ヲ失スレハ忽チ相場ノ高低ヲ生シ外國債償還其他百般納拂ノ際損益ニ關スル不尠次第ニ有之候一體右洋銀相場ノ昇降ハ百貨輸出入ノ時季ト多寡トニ依リテ生スル事ニテ固ヨリ難抑制候得共院省使ニ於テ臨時各自ニ洋銀ヲ買上候ヨリ多少ノ高低ヲ釀成致シ候儀モ可有之候其故ハ甲ノ省ニ於テ數拾萬ノ銀額ヲ要シ又乙ノ省ニ於テモ同時ニ數萬ヲ要スルトキハ則此二省橫濱ノ市場ニ就テ購求スルニ付直ニ騰貴致シ候ハ必然ノコトニ可有之候依テ愚考仕候ニ當省ニ於テ相場ノ高低ヲ見計ヒ時々金貨洋銀交換ノ手續ヲナシ豫備ノ方法ヲ設ケ院省使所要ノ銀額ハ悉皆時ヲ相場ヲ以テ定額ノ内ヨリ支給或ハ臨時引換相渡シ院省使ニ於テ洋銀買上ハ自今相止候様御決定相成候ハ、騰貴ノ弊ヲ矯正致シ候一助ニモ可相成ト奉存候依テ院省使ヘ御達案相添ヘ此段相伺候也

右達

洋銀ノ儀ハ時々相場ノ高低ヲ生シ内外貨幣流通ノ平準ヲ失シ候儀往々有之ニ付買上方區々相成候テハ差支不少候條自今院省使ニ於テ各自ニ洋銀買上候儀ハ相止メ可申候尤モ所要ノ銀額ハ時々相場ヲ以テ大藏省ヨリ引換可相渡候高一萬弗以上三萬弗未滿ハ一日前三萬弗以上五萬弗未滿ハ三日前五萬弗以上十萬弗未滿ハ五日前十萬弗以上ハ十日大藏省ヘ通達可致此旨相達候事

明治九年三月ニ至リ在上海總領事品川忠道ヨリ清韓地方小貨缺乏シ我小銀貨ノ需要盛ナリトノ報告アリ爲メニ第一國立銀行ハ支那地方ヘ日本小銀貨流通試ミノ爲メ輸送シ代リ金ハ東京大阪ニ於テ上納センコトヲ請願セシヲ以テ之ヲ許可シ銀貨百圓ニ付洋銀百弗ヲ以テ上納スヘキ旨通達ヲナセリ今第一國立銀行ヨリノ願書及同行頭取澁澤榮一ト銀貨買收人支那人德澄トノ條約書ヲ見ルニ左ノ如シ

第一國立銀行願書竝達

上海交換所御設置ノ儀ニ付テハ昨年二月申中條例草案其外損益積蓄等相添ヘ具申仕置其後未タ御指令ハ無之候ヘ共早晚御許可被成下候儀ト奉存候就テハ右申書中ニモ縷陳仕候定位銀貨ヲ支那地方ヘ流通相試候儀即今聊カ便宜ヲ得候ニ付前書交換所設置ノ楷梯トモ可相成候間此際ヨリ少々、支那地方ヘ輸送仕度候尤右輸送並代リ金上納方ノ都合ハ左ノ廉書通御許可被下度此段奉願候也

廉書

第一 定位銀貨ハ貳拾錢以下五錢迄ノ品ニテ取揃壹箇月金五萬圓宛向後四箇月間即チ高貳拾萬圓ヲ目途トシ官府ノ御手ヲ以テ上海領事館マテ御送り被下當銀行ヨリ御通信申上次第(信狀トモ)領事館ヨリ受取人ヘ御引渡可被下事
但右輸送費並ニ危險請負料等ハ官府ニテ御受持可被下事
第二 右定位銀貨上海領事館ヘ到着ノ電報有之候ハ、受取人ヘ御引渡前ニ其高相當ノ抵當品(公債)ヲ東京又ハ大阪ニテ相納可申事

第三 定位銀貨ノ代リ金ハ右抵當品相納ノ候日ヨリ滿六ヶ月即チ日數百八十三日目ヲ以テ銀貨百圓ニ付洋銀百弗又ハ新紙幣百圓ヲ當行ノ都合ニ從ヒ東京又ハ大阪ニ於テ上納可仕事

第四 右抵當品差出定位銀貨拜借致シ候中ハ勿論無利息タルヘク且其抵當品ヨリ生スル公債證書ノ利息等ハ當銀行ノ所有ニ歸シ可申事

第五 第一條ニ上申候目途高ハ此事務試中ノ見積リ高ニ付臨時多少増減等ハ當行ヨリ申上次第御寛恕被下度尤増減トモニ銀貨輸送竝ニ代リ金上納ノ都合ハ第二條第三條ノ割合タルヘキコト右之通御取極被下輸送御許可被成下候様奉願候也

明治九年五月十八日

第一國立銀行印

大藏省御中

追テ右御許可ノ上ハ銀貨輸送可相願時日ハ郵便船ノ都合見計ヒ當行ヨリ可申上候也

願ノ趣第二條第三條中代リ金新紙幣ヲ以テ相納ノ候儀ハ難開屆銀貨上海ヘ到著ノ報知有之次第銀貨百圓ニ付洋銀百弗ヲ以テ上納可致尤右上納金同額ノ新紙幣洋銀上納ノ當日ヨリ無利息ヲ以テ滿六箇月間貸渡申ヘク候條爲抵當金高相當ノ公債證書ヲ差出置申ヘク其餘ハ申出ノ通り開屆候條諸事不都合無之様可取扱且銀貨ノ儀ハ阪地在高ノ内ヨリ拂出候間右ノ心得ヲ以テ輸送ノ期限可申置事

明治九年五月 日

卿 國 債 頭

第一國立銀行頭取澁澤榮一ト神戸支那人徳澄トノ間ニ取結ヒタル約條

第一條 澁澤榮一ヨリ徳澄ヘ日本定位銀貨貳拾錢以下五錢マテノ分金高貳拾萬圓ヲ賣渡シ徳澄ハ是ヲ買收セリ

第二條 定位銀貨ハ澁澤榮一ヨリ上海日本領事館ヘ送致シ同所ニ於テ徳澄或ハ其代理ヘ渡スヘシ但一箇月毎ニ銀貨參萬圓ヨリ五萬圓ツ、迄ヲ渡スヘシ

第三條 此銀貨ノ代リ金ハ定位百圓ニ付墨其斯哥洋銀九十七弗ト定メ横濱大阪或ハ神戸ノ内ニテ買主ヨリ賣主ヘ拂渡スヘシ

第四條 銀貨上海ヘ著船セシトキハ澁澤榮一代理ヨリ直チニ上海ニ於テ徳澄或ハ其代理ヘ報知シ雙方ヨリ電信ヲ以テ各本店ヘ通達スヘシ此通達ヲ得ハ直ニ買主ハ代リ洋銀ヲ賣主ヘ拂ヒ渡シ然ル上賣主ヨリ上海ヘ電信シテ右ノ銀貨ヲ徳澄或ハ其代理ヘ渡スヘシ

但右三箇所ノ内ニテ洋銀ヲ拂フヘシ

第五條 此約定調印ノ節手付金トシテ洋銀三千弗買主ヨリ賣主ヘ拂フヘシ

但此手付金ハ約定無滯終リテ後利息一箇年八分(百分八)ノ割合ヲ加ヘテ返却スヘシ

第六條 賣主ニ於テ此約定ヲ履行セサルトキハ手金トシテ受取タル洋銀三千弗竝其利息ヲ返却シ外ニ違約金トシテ三千弗ヲ買主ヘ拂フヘシ

第七條 買主ニ於テ此約定ヲ破ルトキハ手金トシテ渡シタル洋銀三千弗ハ違約金トシテ賣主ヘ没入スヘシ

第八條 銀貨受渡ノ時日ハ尙雙方ノ協議ニ依リテ定ムルト雖モ到底本年六月ヨリ積出スヘシ

第九條 此定位銀貨ヲ洋銀ト交換スルハ支那内地ニ流通セシムルノ目的ナレハ買主ハ必其目的ヲ履行シ之ヲシテ再ヒ日本へ積戻スノ所爲アルヘカラス

右ノ通約定取結ヒ證人ノ目前ニ於テ各署名鈐印セリ

明治九年第五月二十六日

第一國立銀行頭取

澁澤榮一印

張德澄印

此ノ約定書ハ之ヲ二通ニ製シ一通ハ澁澤榮一へ一通ヲ張德澄へ交付致シ候也

右約定ノ證人

益田孝印

同

ソイ、イ、ブラガ

其後明治十二年ニ至リ本邦金銀貨モ亦各應ニ對シ時價ヲ以テ交換スルコト、ナレリ其所以ハ同年九月十二日太政官布告第三十五號ヲ以テ貿易壹圓銀ト洋銀トハ自今竝價タルヘキ旨ヲ定メラレ尙同月二十二日第三十七號及第三十八號布告ヲ以テ東京大阪株式取引所竝ニ橫濱取引所ニ於テ金銀貨幣ノ取引ヲ許可セラル、ヤ本邦正貨モ亦市場ノ相場ニヨリ授受セサルヲ得サルニ至レルヲ以テ各應經費中ニ要スル正貨幣モ以後準備金ニ對シ時價ヲ以テ之カ交換ヲ求ムヘキコト、定メ大藏卿大隈重信太政官へ稟議ノ上同年十月十四日之ヲ關係ノ各應へ通達シタルニ基ケリ太

政官へ稟議書左ノ如シ

流通貨幣ノ法律ニ於ケル其質ノ金銀紙ヲ不擇壹圓ノ稱呼アルモノハ壹圓ヲ以テ授受可致ハ勿論ニ候處此程第三十五號公布ヲ以テ壹圓銀洋銀竝價タルヘキ旨被仰出候末東京大阪橫濱ノ取引所ニ於テ金銀貨幣ノ取引被差許候ニ付テハ右金銀貨幣ニハ自ラ世上ノ相場モ有之就テハ各應ヨリ外國へノ注文物品代及備外國人給料等ニ對スル費用ハ從前出納局ヨリ該應經費中へ直ニ金銀貨幣取交相渡候仕來ニ候得共今後モ同様取計候テハ相場上差金ノ錯雜ハ勿論隨テ豫定ノ會計モ紊亂シ不都合不少候間右各應經費中へ出納局ヨリ直ニ金銀貨幣相渡候儀ハ此際一切相止メ自今必需ノ向ハ從來洋銀ノ交換方同様各應需要ノ都度於國債局時價ヲ以テ交換可爲取計ト存候依之外務省ニ屬スル在外公使以下ノ俸給本年四月二十一日及上答以來銀貨ヲ以テ支給致來候分モ同様可相止筋ニ候得共該費ノ儀ハ各應需要ノ分ト異リ總テ於外國可支消費用ニ付今日之レヲ止ムレハ明日忽チ外經費へ差響可申去迎從前ノ通取計候様ニテハ是亦外各應へ差響彼是不都合ニ付該費ニ限リ右四月中更正ノ年俸額金千圓ニ付八拾參圓(銀貨一枚ヲ洋銀ニノ見替リ)宛増額ノ割ヲ以テ自今通貨ニテ渡方取計候様致度右御裁可ノ上ハ其旨外務省竝ニ當省へ御達有之度乃御達按相添へ此段至急相伺候也 (達之案)

此ノ如ク各應ト正貨ノ交換ハ總テ時價ヲ以テシタリシカ明治十八年六月第十四號布告ヲ以テ政府發行ノ紙幣ハ翌十九年一月以降銀貨ト交換ヲナスコトニ定メラル、ニ及ヒ大藏省ヨリ各應へ通知ノ上銀貨ノ時價交換ヲ廢止シタリ

明治十二年ノ交ニ當リ準備金中ノ銀貨ヲ市場ニ發售シタルモノハ當時市場ニ於テ銀貨ハ紙幣

ニ對シ其價位漸ク騰貴シ同十二年三四月ノ比ニ於テハ銀貨壹圓ニ付紙幣壹圓貳拾五六錢ニ及ヒ尙漸次紙幣ノ價位ヲ低落セシトスルノ勢アリ爲メニ金融ノ壅塞ヲ招キ竟ニ貿易ノ澁滯ヲ醸スニ至レリ是ニ於テ大藏省ハ大ニ銀貨ヲ市場ニ發售シテ其患害ヲ救済スルノ必要ヲ認メタリシカ此ノ時偶々準備金中壹圓銀貨ノ額甚タ多カラス不得止其金貨ヲ以テ東洋銀行及ヒ英人イー、ビー、ソツトソント預ケ合セテナシ之レヨリ得タル銀貨(十二年五月及ヒ十三年四月兩度)ヲ以テ同年五月以降之ヲ市場ニ發售シ稍銀貨ノ騰貴ヲ防止シ兼テ貿易ノ澁滯ヲ疏通スルヲ得タリ

然リト雖モ銀貨ノ騰貴ヲ防止シ貿易ノ澁滯ヲ疏通セントスルニハ固ヨリ巨額ノ銀貨ヲ發售スルニ非レハ能ハス故ニ發售ノ稍緩ムニ隨ヒ再ヒ騰貴ノ勢ヲ現出シ翌十三年三月ニハ更ニ進テ壹圓四拾參錢五厘トナレリ是ヲ以テ右預ケ合ニテ受入タル銀貨ノ外ニ臨時借入金ヲナシ或ハ準備金常用金等へ漸次收入シタル銀貨ヲモ亦之ヲ別取扱部へ紙幣ト交換收入シ以テ市場ニ發售セリ此ノ如クシテ一時騰貴ノ勢ヲ防遏スルノ効果ヲ見タリト雖モ其年秋冬ノ季節ニ際シ貿易品輸入ノ増加スルニ隨ヒ重ネテ銀貨騰貴ノ徵候ヲ現ハシ到底之レヲ抑止スル能ハサルヲ察セシヲ以テ同年九月限り此發售ヲ止ムルニ至レリ

約定書

今般橫濱東洋銀行ヨリ墨西哥ドルラル五十萬弗ヲ國債局へ相預リ又國債局ヨリ金貨五拾萬圓ヲ橫濱東洋銀行へ相預ケ候ニ付左ノ條約致シ候事

第一條 國債局ヨリ金貨五拾萬圓ヲ橫濱東洋銀行へ預ケ渡シ橫濱東洋銀行ヨリ墨西哥ドルラ

ル五十萬弗ヲ國債局へ預ケ渡スヘシ

第二條 國債局ヨリ橫濱東洋銀行へ預ケ置ク金貨五拾萬圓及橫濱東洋銀行ヨリ國債局へ預ケタル墨西哥ドルラル五十萬弗ハ雙方共無利息タルヘシ

第三條 橫濱港ニテ金貨ト墨西哥ドルラルノ交換ニ於ケル毎日ノ平均相場ヲ記憶シ置キ毎月末ニ於テ右相場ヲ對照シ若シ金貨ニ過差アルトキハ(多少ニ)其金高ニ對シ橫濱東洋銀行ヨリ年六分ノ利子ヲ國債局へ拂渡スヘシ若シ墨西哥ドルラルニ過差アルトキハ(多少ニ)其金高ニ對シ國債局ヨリ年六分ノ利子ヲ拂渡スヘシ

第四條 雙方ヨリ預ケ合セシ墨西哥ドルラル金貨共其一方ヨリ之ヲ取戻スコトヲ請求スルトキハ其請求スル方ヨリ六箇月前ニ他ノ一方へ照會スヘシ

第五條 第四條ノ通り雙方ノ内何レニテモ其一方ヨリ預ケシ貨幣ヲ六箇月前ニ取戻ノ請求ヲナストキハ他ノ一方ハ其請求ニ對シ右照會ヲ受ケシ日ヨリ滿六箇月ニ當ル日雙方當初預リタル貨幣ヲ以テ(國債局ハ墨西哥ドルラル返シ)差戻スヘシ

第六條 第五條ノ通り互ニ預ケ合セシ貨幣ヲ差戻スノ際其受渡シノ場所ハ墨西哥ドルラルハ橫濱東洋銀行金貨ハ東京國債局ニ於テ同日互ニ受取渡致スヘシ

第七條 第六條ノ場合ニ於テ橫濱東洋銀行ノ都合ニ寄リ金貨ノ代リニ金地金ヲ以テ差戻シ度旨請願スルトキハ國債局ニ於テハ之ヲ許可スヘシ而シテ該金地金ノ内ニテ鑄造料千分ノ五引去リ殘金塊量目ヲ日本金貨ノ高ニ積算シ國債局ヨリ橫濱東洋銀行へ預ケ置ク處ノ金貨ノ代リニ受取ルヘシ尤右金塊ハ品位詳明ニシテ造幣ニ適當ナル地金ヲ以テスヘシ若シ造幣ニ不

適當ナルトキハ國債局ニ於テハ之ヲ受取ラサル可シ然ルトキハ橫濱東洋銀行ニ於テハ他ノ造幣ニ適當ナル品位ノ金塊乎又ハ日本金貨ヲ以テ返償スヘシ

第八條 第七條ノ通金塊ヲ以テ返償ナストキハ之ヲ橫濱東洋銀行ヨリ大阪造幣局へ輸送シ造幣ニ適當ナル品位ノ金塊ナラハ第五條ニ掲載スル滿六箇月ニ當ル日大阪國債支局吏員へ引渡スヘシ右金塊橫濱ヨリ大阪造幣局迄輸送スル諸費ハ國債局ヨリ拂フヘシ若シ造幣ニ不適當ノ金塊ナルトキハ右輸送ノ諸費ハ橫濱東洋銀行ヨリ拂入ルヘシ

第九條 國債局ヨリ橫濱東洋銀行へ預ケタル金貨ノ代リ金ヲ英國倫敦ニ於テ差戻サスルコトアルトキハ第五條ニ掲載スル滿六箇月ニ當ル日ノ英國倫敦ノ立相場ヲ以テ日本金貨五拾萬圓ヲ英金ニ引直シ其英金額ヲ右同日同所ニ於テ國債局ノ委員へ受取ルヘシ而シテ該金橫濱ヨリ英國倫敦マテノ運搬費及海上保險料ハ國債局ヨリ橫濱東洋銀行へ別段拂渡スヘシ右約定ノ條々雙方之レヲ確守スヘシ因テ此約定書ニ通ヲ製シ一通ハ國債局ニ保存シ一通ハ橫濱東洋銀行ニ保存ス

明治十二年三月六日

國債局長
橫濱東洋銀行

約定書

今般在橫濱英國人「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ貿易壹圓銀參百萬圓ヲ國債局へ相預ケ又國債局ヨリ金貨參百萬圓ヲ「イー、ビー、ワットソン」氏へ相預ケ候ニ付左ノ約定致候事

第一條 國債局ヨリ金貨參百萬圓ヲ「イー、ビー、ワットソン」氏へ預ケ渡シ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ貿易壹圓銀參百萬圓ヲ國債局へ預ケ渡スヘシ尤右ノ金額ヲ來ル六月七日マテニ六箇月ニ割合受取渡ヲナスヘキ事

但貿易壹圓銀參百萬圓ノ内百貳拾六萬圓マテハ英國定位銀即千分中九二五品位ノ銀棒ヲ以テ大阪ニ於テ受渡シスヘシ其餘ノ貿易壹圓銀ト金貨ハ橫濱ニ於テ受渡ヲナスヘシ

第二條 國債局ヨリ「イー、ビー、ワットソン」氏へ預ケ置キ金貨參百萬圓及右「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ國債局へ預ケタル貿易壹圓銀參百萬圓ハ雙方共無利息タルヘシ

第三條 橫濱港ニテ金貨ト貿易壹圓銀トノ交換ニ於ケル毎月ノ平均相場ヲ記臆シ置毎月末ニ於テ右相場ヲ對照シ若シ金貨ニ過差アルトキハ(多少ニ限ラス)其金高ニ對シ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ年六分ノ利子ヲ國債局へ拂渡スヘシ若シ貿易壹圓銀ニ過差アルトキハ(多少ニ限ラス)其金高ニ對シ國債局ヨリ「イー、ビー、ワットソン」氏へ年六分ノ利子ヲ拂渡スヘシ

第四條 雙方ヨリ預ケ合セシ貿易壹圓銀金貨トモ其一方ヨリ之ヲ取戻スコトヲ請求スルトキハ其請求スル方ヨリ六箇月前ニ他ノ一方へ照會スヘシ

但預ケ合セシ金高ヲ一度ニ取戻方請求スルモ又ハ數度ニ分割シテ請求スルモ其請求スル方ノ適宜タルヘシ

第五條 第四條ノ通り雙方ノ内何レニテモ其一方ヨリ預ケシ貨幣ヲ六箇月前ニ取戻ノ請求ヲナストキハ他ノ一方ハ其請求ニ對シ右照會ヲ請ケシ日ヨリ滿六箇月ニ當ル日雙方當初預リタル貨幣ヲ以テ(國債局ハ貿易壹圓銀カ成ハノキンゴドルヲ及銀差戻ス可シ)差戻ス可シ

第六條 第五條ノ通互ニ預合セシ貨幣ヲ差戻スノ際其受渡ノ場所ハ貿易壹圓銀(國債局ノ都合ヲ以テ返戻スルモ妨ケナシ)及金貨ハ横濱ニ於テス銀棒ハ横濱大阪兩所ノ内國債局ノ適宜ノ場所ニテ戻スヘシ

若シ國債局ノ都合ニヨリ銀棒ノ代リニ貿易壹圓銀カ或ハメキシコドルヲ以テ横濱ニ於テ返戻ヲナスモ妨ケナシ此ノ場合ニ於テハ右ノ金員ニ係ル鑄造料及大阪ヨリ横濱迄ノ運搬費並ニ保險料ハ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ別段國債局ヘ拂フヘシ

第七條 第六條ノ場合ニ於テ右「イー、ビー、ワットソン」氏ノ都合ニ依リ金貨ノ代リニ金地金ヲ以テ差戻度旨請願スルトキハ國債局ニ於テ之レヲ許可スヘシ而シテ該金塊ノ内ニ鑄造料千分ノ五引去リ殘金塊量目ヲ日本金貨ノ高ニ積算シ國債局ヨリ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヘ預ケ置ク處ノ金貨ノ代リニ受取ルヘシ尤右金塊ハ品位詳明ニシテ造幣ニ適當ナル地金ヲ以テスヘシ若シ造幣ニ不適當ナルトキハ國債局ニ於テ之レヲ受取ラサルヘシ然ルトキハ右「イー、ビー、ワットソン」氏ニ於テハ造幣ニ適當ナル品位ノ他ノ金塊カ又ハ日本金貨ヲ以テ返償スヘシ

第八條 第七條ノ通り金塊ヲ以テ返償ナキトキハ之ヲ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ大阪造幣局ヘ輸送シ造幣ニ適當ナル品位ノ金塊ナラハ第五條ニ掲載スル滿六箇月ニ當ル日大阪造幣局ニ於テ國債支局ノ吏員ヘ引渡スヘシ右金塊横濱ヨリ大阪造幣局マテ輸送スル諸費ハ國債局ヨリ拂フヘシ若シ造幣ニ不適當ノ金塊ナルトキハ右輸送ノ諸費ハ「イー、ビー、ワットソン」氏ヨリ拂入ルヘシ

第九條 國債局ヨリ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヘ預ケタル金貨ノ代リ金ヲ英國ロンドンニ於テ差戻サル、コトアルトキハ第五條ニ掲載スル滿六箇月ニ當ル日ノ英國倫敦ノ立相場ヲ以テ日本金貨參百萬圓ヲ英金ニ引直シ其英金額ヲ右同日同所ニ於テ國債局ノ委員ヘ受取ルヘシ而シテ該金横濱ヨリ英國倫敦迄ノ運搬費及海上保險料ハ國債局ヨリ右「イー、ビー、ワットソン」氏ヘ別段拂渡スヘシ

右約條ノ條々雙方之レヲ確守スヘシ因テ此約定書二通ヲ製シ一通ハ國債局ニ保存シ一通ハ右「イー、ビー、ワットソン」氏ニ保存ス

明治十三年四月二十九日

國債局長

大藏大書記官 藤 純 三

在横濱英國人

「イー、ビー、ワットソン」

尙明治二十一年中準備金所在ノ金貨壹千五百餘萬圓ヲ日本銀行ニ賣却シ其代リ金トシテ銀貨ヲ受入レタルモノアリ此交換ヲナシタルモノハ當時明治二十一年度地租第六期分ヲ翌二十二年度歳入ヘ移スニ當リ明治二十一年度歳入ニ不足ヲ生スルニ至レルヲ以テ準備金中ノ金貨ヲ時價ニテ日本銀行ヘ賣却シ其差益ヲ以テ右ノ不足高ヲ補填セントスルノ目的ニ出テタルモノニシテ明治二十年中ノ平均相場金貨百圓ニ付銀貨百參拾圓ノ割合ヲ以テ其交換ヲ了シタリ右ニ關シ大藏大臣伯爵松方正義ヨリ同二十一年六月十三日内閣ニ提出シタル請願ハ左ノ如シ

準備金中ノ金貨賣却ノ議

去明治十八年第十五號布告ヲ以テ地租第三期以下ノ納期ヲ變更シ其第六期ヲ四月一日ヨリ同二十日ト定メラル故ヲ以テ第六期ノ收入ハ全ク翌年度ノ歳入ニ屬スヘキコト、ナリシモ當時歳計上已ムヲ得サル事實アリテ之ヲ前年度ニ編入シ爾來尙其例ヲ因襲スト雖固ヨリ永遠一繼行スヘキノ制ニ非ス今ヤ大ニ會計ノ法規ヲ改正シ財務ノ整頓ヲ圖ルニ際シテハ地租第六期收入ノ如キモ其編入法ヲ改メ之ヲ正當年度ニ屬セシムルコト實ニ急務ト云フヘシ抑モ翌年度ノ始メニ於テ徵收スヘキモノヲ以テ前年度ニ屬セシムルトキハ年度ノ開始ニ當リテ先ツ急要ノ歳入ヲ失フカ爲メ當初ヨリ大藏省證券ヲ發行セサルヲ得ス之ヲ發行スルコト年度ノ初メニ於テスレハ其額大ニ其期長カラサルヲ得ス爲メニ國庫ノ損失トナルモノ僅少ニアラサルナリ試ニ地租第六期收入七百五拾萬圓餘ヲ其相當年度ニ編入スルト前年度ニ編入スルトニ由リ生スル所ノ結果ヲ見ルニ方今ノ如ク之ヲ前年度ニ編入スルニ於テハ大藏省證券發行總高ニ對シ五拾八萬六千五百拾貳圓五拾錢ノ利子ヲ要スヘシト雖モ之ヲ相當年度ニ編入スルニ於テハ發行證券ノ利子高ハ僅ニ貳拾六萬八千貳百八拾壹圓貳拾五錢ヲ要スヘク前者ト比シテ利子ヲ減スルコト參拾壹萬七千七百七拾壹圓貳拾五錢ナリ其國庫ヲ利スル豈ニ大ナラスヤ是來二十二年度ヨリハ地租第六期收入ノ編入ヲ改メ之ヲ相當年度ニ屬セラレンコトヲ欲スル所以ナリ或ハ云ハン本年度ニ於テハ已ニ地租第六期ノ收入ヲ前年度ニ編入セシヲ以テ此ノ改正ヲ決行セハ歳入ニ不足ヲ生シ年度ノ終結ヲ全フスル能ハサルヘシト是レ數ノ免レサル所ナリト雖モ之レニ應スル自ラ其道アリ近時政府紙幣ノ流通額漸ク減シテ五千貳百有餘萬圓トナリ之レニ對スル

準備金ハ貳千參百有餘萬圓アリ(其ニ本年四月三十日ノ調準備ノ高決シテ僅少ニアラス而シテ其内千五百壹萬七千七百八拾五圓ハ金貨ナルニ依リ本年四月ノ平均相場ヲ以テ銀貨ニ改算スレハ其差増五百拾四萬四千四百九拾貳圓ヲ得可シ故ニ此際時價ヲ以テ之レヲ日本銀行ニ賣渡シ其元額ハ政府紙幣ノ消却ニ供シ其差増ハ之レヲ二十一年度歳入不足ノ補充ニ用ヒハ日本銀行ノ有ニ歸セル所ノ金貨ハ實價ヲ以テ兌換銀行券ノ準備トナリ政府ハ是ニ由テ財政上ノ一困難ヲ排除スルヲ得ヘシ而シテ實地ニ臨ミ補充金額ノ不足ヲ告クルアラハ準備繰入ヲ以テ更ニ之ヲ補フトモ敢テ準備ニ多額ノ減少ヲ來タスコトナク容易ニ二十一年度收支ノ局ヲ結フコトヲ得ヘキナリ之ヲ要スルニ來ル二十二年度ヨリハ地租第六期ノ收入ヲ其相當年度ニ編入シ之レカ爲メ二十一年度ニ於テ生スル所ノ歳入不足ハ準備金中金貨ノ差増ヲ以テ之ヲ補ヒ尙ホ足ラサルモノアラハ準備繰入ヲ以テ之レヲ補ヒ以テ會計ノ秩序ヲ正シ併セテ國庫ノ費用ヲ減セントスルニアリ速ニ裁可アラシコト冀望ニ堪ヘス此段閣議ヲ請フ

明治二十一年六月十三日

內閣總理大臣 伯爵 黑田 清隆 殿

大藏大臣 伯爵 松方正義

今明治五年六月準備金規則創設以來同二十三年三月ニ至ルマテノ間ニ正貨交換ノ爲メ收支セシ員額ヲ計算スレハ正貨交換受入高ハ壹億貳百八拾六萬九百八拾八圓參拾九錢六厘ニシテ正貨交換拂出高ハ壹億千五百拾六萬四千參百五拾六圓六拾貳錢貳厘ニ上リ拂出ノ高受入ノ高ヨリ超過スルコト千貳百餘萬圓(之レニ對スル代リ金ハ紙幣)ナリト是レ畢竟正貨交換ノ舉ハ其收得ノ主

トシタルモノニアラスシテ専ラ其需要ニ應シタルカ爲メ此ノ如キ結果ヲ見ルモノニシテ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ

又正貨交換ニ關シ相場上ヨリ生シタル損益計數(明治十八年以前ニ在テハ紙幣ノ價位ハ金銀貨ニシカリシ時トス又十九年以降モ金價ノ騰貴ニ依リ金貨)ヲ調査スルニ益分ノ方損分ヨリ超過スルニ對シテハ紙幣及銀價ハ常ニ其價格ヲ減少シタリ)ヲ調査スルニ益分ノ方損分ヨリ超過スルコト百八拾六萬參千四百參拾七圓貳拾九錢壹厘ナリ而シテ其益分ハ主トシテ銀貨ヲ以テ紙幣ニ交換シ又ハ金貨ヲ以テ銀貨ト交換シタルヨリ生シ其損分ハ主トシテ紙幣ヲ以テ正貨ニ交換シタルヨリ生シタルモノトス即チ左ノ如シ(海外ニ於テ收入セル荷爲替返納金及輸出米穀賣却代等ニセリ包含)

正貨交換ニ係ル益分	一三、九〇六、六七九・二六二
正貨交換ニ係ル損分	一一、〇四三、二四一・九七二
差引益分超過	一、八六三、四三七・二九一

第七章 海外荷爲替及預ケ金

第一節 海外荷爲替

第一款 海外荷爲替ノ事歴

準備金ヲ以テ海外荷爲替金ノ貸出ヲナシタルハ本邦貨物ノ海外輸出ヲ獎勵シ外國ニ於テ要スル正貨ノ仕拂ヲ便ニシ併テ準備正貨ノ増殖ヲ圖ランカ爲メ準備金中ノ紙幣ヲ以テ海外輸出貿易者ニ荷爲替金ヲ貸與シ其代リ金トシテ海外ニ於テ正貨ノ收得ヲナスヲ目的トセルモノニシテ其起源ハ明治十三年十月ヲ以テ太政官ノ允裁ヲ得タル海外荷爲替法ニ在リ此海外荷爲替法ハ預入金規則ト稱シ明治十三年十月以降之ヲ實施シタルモノナリ

抑政府カ海外ニ於テ正貨ヲ收得セルハ海外荷爲替法ノ創始ニ先チ明治十年七月ノ交ニ當リ海外輸出貿易者ニ對シ貸下金ヲナシ其輸出貨物ノ賣却代タル外國貨幣ヲ外國ニ於テ準備金部ヘ收得シ之ヲ在外本邦公使館領事館ヘ預入レタル所謂逆爲替收入金ハ本邦公使領事ヨリ更ニ他ノ確實ナル外國銀行ヘ預入レ之ヲ保管セシメ以テ外國債元利金等諸支拂金ニ充テタリ然レトモ當時ニ在テハ此海外收入金モ未タ多額ナラス外國ニ於ケル諸支拂金ニ充ツルニ足ラサリシカ明治十三年度ニ至リ海外荷爲替ニ係ル預ケ金ヲ生スルニ及ヒ頓ニ其充實ヲ見ルニ至レリ

明治十三年二月橫濱正金銀行ノ設立アリ而シテ同行ノ設立セラレタル旨趣ハ本邦貿易輸出入ノ不平均ナルヲ憾ミ專ラ外國爲替等ノ便路ヲ開キ物產輸出ノ發達ヲ助成セントスルニ在リキ爾後